



平成30年度

Shizuoka City Museum of Art ANNUAL REPORT 2018

静岡市美術館年報 No.9

目 次

1. 基本理念・沿革	
1-1 基本理念	3
1-2 沿革	3
1-3 平成30(2018)年度事業一覧	4
2. 展覧会事業	
2-1 いつだって猫展	6
2-2 ミュシャ展 ～運命の女たち～	16
2-3 ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	25
2-4 テレビ静岡開局50周年記念 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	30
2-5 起点としての80年代	38
3. 交流事業(教育普及事業)	
3-1 交流事業	46
1) Shizubi Project 7「アーカイヴ／1980年代－静岡」／2) Shizubi シネマアワー／3) しずびオープンアトリエ／4) しずびチビッコプログラム ／5) 暦とあそぶワークショップ／6) プレゼントワークショップ／7) 夜店市	
3-2 連携事業	55
1) ミュージアム教室・展示解説／2) めぐるりアート静岡2018 4つの会場をめぐる、アートの散策。／3) 生涯学習センター・静岡市美術館 連携事業「しずび出前講座」／4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)／5) 2020しずおか文化プロジェクト／6) その他施設 との連携	
4. 受託事業等	
4-1 受託事業等	60
1) 「旧五十嵐邸・竹久夢二」展／2) 静岡市清水文化会館マリナート常設展示「平野富山－清水が生んだ彩色木彫の名匠」	
5. 調査研究・研修受入等	
5-1 調査研究	62
5-2 博物館実習	63
5-3 視察等受入	64
6. 収蔵品・図書等	
6-1 収蔵品貸出	65
6-2 画像貸出	65
6-3 図書等	65
7. 広報活動	
7-1 広報制作物	66
7-2 ウェブサイト	67
7-3 施設広報記録	67
8. 管理運営	
8-1 利用者数	68
8-2 過去展覧会一覧	73
8-3 静岡市美術館運営協議会	75
8-4 組織図・職員名簿	76
8-5 条例・施行規則	77
8-6 施設・建築概要	79

1. 基本理念・沿革

1-1 基本理念

静岡市美術館は、JR静岡駅北口の複合ビル「葵タワー」3階に、平成22年5月に開館、同年10月にグランドオープンしました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念に、展示室では、美術を主軸にデザインや工芸など幅広いジャンルの展覧会を開催します。

また、エントランスホールや多目的室、ワークショップ室などの「交流ゾーン」では、様々なアートシーンの紹介や講演会、ワークショップ、コンサート、美術映画の上映など普及事業を実施します。駅から徒歩3分という立地を活かし、誰もが気軽に立ち寄れる“ちょっと面白い街の中の広場”のような美術館を目指しています。

美術館ロゴマーク



美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と奥行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。

デザイン：柿木原政広(アートディレクター/10inc)

1-2 沿革

平成18(2006)年

3月 「静岡市文化振興ビジョン」策定

平成19(2007)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館 基本計画」策定

7月4日 「葵タワー」着工

平成20(2008)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館運営実施計画」策定

平成21(2009)年

7月8日 美術館内装建築工事着工[内装設計：(株)丹青研究所、内装建築工事：(株)木内建設]

7月16日 静岡市美術館条例制定

11月12日 静岡市美術館条例施行規則制定

平成22(2010)年

3月24日 静岡市が(財)静岡市文化振興財団を指定管理者に指定

4月1日 「葵タワー」オープン

5月1日 静岡市美術館開館・完成記念式典開催

9月30日まで展覧会関連事業および交流事業を実施

10月1日 静岡市美術館グランドオープン記念式典開催

10月2日 開館記念展<I> 「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」開催(～11月28日)

平成23(2011)年

5月9日 美術館のロゴマークなどヴィジュアル・アイデンティティーが世界3大広告賞のひとつ「The One Show 2011」の銀賞を受賞

平成24(2012)年

1月4日 美術館エントランスホールに漆芸作品「東海道五十三次ひとめ図」設置、除幕式開催

平成25(2013)年

9月14日 来館100万人達成記念式典を実施

平成26(2014)年

5月2日 静岡県教育委員会より博物館相当施設に指定

平成27(2015)年

3月20日 静岡市が(公財)静岡市文化振興財団を第Ⅱ期指定管理者に指定

5月1日 静岡市美術館開館5周年

平成29(2017)年

8月18日 展覧会観覧者100万人達成

※過去展覧会一覧は、73～75頁を参照。

1-3 平成30(2018)年度事業一覧

		展覧会	交流事業
平成30年(2018年)	4月	いつだって猫展 4月7日-5月20日<開館39日間>	28日 暦とあそぶワークショップ vol.16「こどもの日の準備をしよう！」
	5月		13日 プレゼントワークショップ vol.24「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」 19日 しずびチビッコプログラム①
	6月	ミュシャ展 ～運命の女たち～ 6月2日-7月15日<開館38日間>	17日 プレゼントワークショップ vol.25「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」
	7月		1日 しずびチビッコプログラム②
	8月	ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生 7月28日-9月24日<開館51日間>	7日 しずびオープンアトリエ「ヴラマンクの絵のタッチに挑戦しよう！」(-19日) 10日 夜店市(-12日)
	9月		8日 Shizubiシネマアワー vol.22 ①『ザ・ダンサー』 9日 Shizubiシネマアワー vol.22 ②『リュミエール！』 15日 しずびチビッコプログラム③-1 16日 しずびチビッコプログラム③-2
	10月		23日 めぐるりアート静岡2018 4つの会場をめぐる、アートの散策。(-11月25日)
	11月	テレビ静岡開局50周年記念 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年 10月6日-12月16日<開館62日間>	24日 しずびチビッコプログラム④ 25日 めぐるりアート静岡2018 アーティストトーク(杉山功)
	12月		8日 プレゼントワークショップ vol.26「クリスマスの準備をしよう！」子ども編 9日 同 大人編
平成31年(2019年)	1月	起点としての80年代 1月5日-3月24日<開館68日間>	12日 Shizubi Project 7「アーカイヴ／1980年代-静岡」(-3月24日)
	2月		11日 暦とあそぶワークショップ vol.17「ひな祭りの準備をしよう！」 16日 しずびオープンアトリエ「粘土で夢殿の仲間をつくろう！」(-3月17日)
	3月		2日 Shizubiシネマアワー vol.23 ①『ワイルド・スタイル』 3日 Shizubiシネマアワー vol.23 ②『バスキア、10代最後のとき』 21日 しずびチビッコプログラム⑤

2. 展覧会事業 目次

2-1	いつだって猫展	6
2-2	ミュシャ展 ～運命の女たち～	16
2-3	ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	25
2-4	テレビ静岡開局50周年記念 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	30
2-5	起点としての80年代	38

2. 展覧会事業

2-1 いつだって猫展

会期：4月7日(土)～5月20日(日)

概要：「猫」という親しみやすいテーマから、江戸時代の文化を浮世絵、版本、招き猫など205点の作品により紹介した展覧会。日本人の生活に寄り添い愛されてきた猫は、古くから物語や絵画に登場する身近な存在である。特に江戸時代後期になると、猫はたびたび浮世絵や文学、歌舞伎芸能などの作品の題材となった。本展では、それら猫を題材とした作品の流行を一般に解り易く、「猫ブーム」として紹介。人と猫のかかわりや人々の持つ猫のイメージが、どのように江戸時代の美術、文学、歌舞伎、縁起物などに影響を与え、展開していったのかを、美術・歴史・文化などから多角的な視点で紹介し、その流行の背景に迫った。

開催館：名古屋市博物館、愛媛県美術館、京都文化博物館、仙台市博物館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、Daiichi-TV

共催：中日新聞東海本社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

観覧料：一般 1,200円(1,000円)
大高生・70才以上 800円(600円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：18,404人(有料12,666人、無料5,738人、有料率68.80%)

出品点数：205点

制作物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・数量：A4 123,250部(市内回覧版用含む)

2)ポスター

＜仕様＞紙：ユーライト135kg

サイズ・数量：B1 60部、B2 2,050部、B3 1,150部(うちJR帯付400部)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>186×257mm、225頁



カタログ

カラー図版237点

参考図版(カラー106点、モノクロ29点)

津田卓子「いつもそこに猫がいる－江戸の猫ブーム－」

「猫の足跡をたどる猫年表」

津田卓子「コラム1 化け猫はどこからきたか」

津田卓子「コラム2 猫の百面相とは、にゃんのことじゃいにゃあ。」

則武広和「コラム3 猫と国芳、猫と広重」

則武広和「コラム4 嘉永五年に何が起ったか？ 最初の招き猫ブーム」

井上善博「コラム5 招き猫・素材と技法」

くるねこ大和「丸メ猫由来の噺」

作品リスト／参考にした猫の本／「丸メ猫誕生の由来」原文資料

編集：名古屋市博物館

発行：「いつだって猫展」実行委員会(名古屋市美術館・中京テレビ放送)

発行年：2016年(第2版)

普及ツール：

1)音声ガイド

2)子ども向け鑑賞ガイド、体験コーナー等の設置

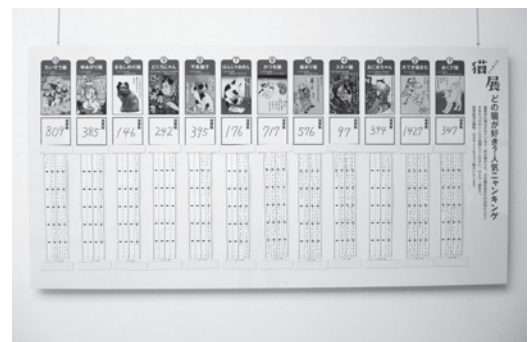
名古屋市博物館が制作した子ども向けのガイドパネルや鑑賞ガイド(クイズ)、出品作品のおもちゃ絵で遊べる体験コーナーなどの教育普及的な展示を、当館でも活用した。



鑑賞ガイド表



鑑賞ガイド裏



3)本展オリジナルDMの作成・配布

裏面にスタンプを押せるはがきサイズのDMを作成し、市内小中学校全児童・生徒に配布した。

制作物：

◆DM

<仕様>紙：MTA±FS 200kg

サイズ・数量：100×148mm 60,000部



DM表



DM裏

4)グッズ付きチケットの販売

当会場オリジナルのグッズ付きチケット(限定1,000枚)の販売を行った。

制作物：

◆ダブルウォールマグ



5)ニャンニャンの日&ゴールデンウィーク特典の実施

4月22日(日)、4月28日(土)～5月6日(日)の計10日間、先着50名に、本展オリジナル缶バッジをプレゼントした。

制作物：

◆缶バッジ

<仕様>φ32mm 計2種



6)うちの猫(こ)自慢

会期中、展示室内に来館者の飼い猫写真を掲示できるコーナーを設置した。また、写真を掲示した方先着222名には本展オリジナル缶バッジをプレゼントした。



7)撮影コーナーの設置

エントランスのガラスに本展出品作品の一部を切り抜いて貼り付けた撮影コーナーや切り抜きパネルを設置し、来館者が楽しみながら鑑賞できるよう工夫した。



8)プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施

会期中のプレミアムフライデーに合わせ、15時以降の入場者に粗品プレゼントを行った。

実施日：4月27日(金)

利用者数：62件

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

2)松坂屋静岡店「動物ランド」との相互サービスの実施

近隣の松坂屋静岡店で開催中の「動物ランド」と相互協力を行い、当館にて「動物ランド」入場レシートの提示で粗品プレゼントを、また松坂屋静岡店では猫展有料入場券の半券提示で入場料200円引きとなるサービスを実施した。

利用者数：松坂屋63人、当館37人

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『ひるラジ！静岡情報館』、4月2日放送。
- ・「あすから静岡市美術館で開催！ いつだって猫展」Daiichi-TV『まるごと』、4月6日放送。
- ・「いつだって猫展 あすから」Daiichi-TV『news every. しずおか』、4月6日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、4月7日放送。
- ・「静岡市美術館 「いつだって猫展」開幕」Daiichi-TV『NNNストレイトニュース』、4月7日放送。
- ・「いつだって猫展 作品紹介」Daiichi-TV『まるごと』、4月13日、20日、24日、5月4日、9日、18日放送。
- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルテレビ『TCNワイド』、4月25日放送。
- ・「静岡市美術館 GW多くの来場者で盛況」Daiichi-TV『まるごと』、4月30日放送。

2)新聞

- ・三宅千智「いつの世も猫人気 江戸の人々魅了、浮世絵などきょうから静岡市美術館で展示」『中日新聞』静岡版、4月7日。
- ・「猫の浮世絵や版本 江戸、明治期の200点 静岡市美術館きょう開幕」『中日新聞』静岡版、4月7日。
- ・「文化の中にも猫 静岡で展示会」『読売新聞』静岡版、4月7日。
- ・「いつだって猫展 静岡市美術館」『富士ニュース』、4月12日。
- ・大石沙織「いつだって猫展(上) 女三宮への叶わぬ恋 歌川国芳「青楼若三人 女三の宮」1815-32年・個人蔵」『中日新聞』静岡版、4月18日。
- ・大石沙織「いつだって猫展(中)「化け猫」どこか滑稽 歌川国芳「日本駄エ門猫之古事」1847年・個人蔵」『中日新聞』静岡版、4月19日。

- ・大石沙織「いつだって猫展(下)蹴鞠姿 弾む遊び心 歌川国芳「流行猫の曲鞠」1841年・個人蔵」『中日新聞』静岡版、4月20日。

3)雑誌他

- ・「江戸時代にも“ねこブーム”!? 時代を超えたねこの魅力をご堪能あれ」『ねこ』、No.105。
- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、2月号。
- ・「江戸時代に巻き起こった「猫ブーム」を紐解く」『時空旅人』、3月号増刊。
- ・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『東海じゃらん』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『歴史群像』、4月号。
- ・宮津大輔「戊年だって、いつだって、やっぱり猫が好き!!」『Fudge』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『手作り手帖』、vol.16。
- ・「展覧会紹介」『月刊アートコレクターズ』、4月号。
- ・「いまも むかしも いつだって猫に夢中! いつだって猫展」『Hotpepper』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『womo@kitchen』、4月号。
- ・「いまもむかしも猫に夢中! いつだって猫展」『男の隠れ家』、5月号。
- ・「江戸を浮かせた猫天国!! いつだって猫展」『美術展&美術館びあ 2018』。
- ・「いつだって猫展 昔も今も猫に夢中」『いけ花 龍生』、No.696。
- ・「展覧会紹介」『Pumpkin』、5月号。
- ・「展覧会紹介」『猫びより』、5月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

- 「ウォーカープラス」、「Hug Mug」、「アットエス」、「静岡信用金庫LINE配信」、「アットエス」、「ART NAVI」、「beatifull」、「artscape」



関連事業：

1) 講演会①「絵と芝居から見る江戸時代の化け猫」

概要：近世文学、演劇史のうち、特に怪談物を専門とする横山氏に、江戸時代の人々の「猫」に対する考え方や、浮世絵や歌舞伎に登場する化け猫について講演いただいた。近代にも視点を向け、「化け猫映画」が1965年以降制作されなくなることを挙げ、日本人に「だまされる能力」がなくなってしまったのでは、という指摘もなされた。

日時：4月15日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**90人

講師：横山泰子氏(法政大学教授)



2) 講演会②「江戸の猫ブーム」

概要：本展の企画者である、津田氏による講演会。江戸時代後期巻き起こった「猫ブーム」の諸相を、浮世絵、版本、招き猫など本展出品作とからめながら、多角的な視点で紹介した。猫という入りやすいテーマから江戸文化などを学ぶことのできる、充実した内容であった。

日時：4月21日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**74人

講師：津田卓子氏(名古屋市博物館学芸員)



3) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。江戸時代の人と猫の関わりから歌舞伎の化け猫話の流行、国芳らによる擬人化猫ブーム、招き猫の流行など本展の見どころを紹介した。

日時：5月12日(土)14:00-

会場：多目的室 **参加者数：**31人

参加料：無料



4) 招き猫絵付け体験「オリジナルの招き猫を作ろう！」

概要：本展で紹介する江戸時代後期の「猫ブーム」の背景として招き猫の歴史を紹介しつつ、実際に素焼きの招き猫に絵付けをし、自分だけの招き猫を制作するワークショップ。長時間の作業であったが、どの参加者も集中して絵付けを行い、伝統的な招き猫や飼い猫、キャラクターなどさまざまな招き猫が出来上がった。

日時：4月14日(土)①10:30-12:30 ②14:30-16:30

会場：多目的室 **対象・参加者数：**小学生以上 計59人

参加料：500円

主要広報記録：

◆新聞

・三宅千智「素焼き招き猫に児童らが絵付け 静岡市美術館特別展」『中日新聞』静岡版、4月15日。

・高場悠「招き猫いっぱい 静岡市美術館で企画展 国芳の浮世絵なども」『毎日新聞』静岡版、4月16日。



5) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

科学茶房「動物のこころカフェ」

※58頁を参照。

出品作品リスト

・欠番(No2、37、88)は当館では未出品。

第一章 江戸の暮らしと猫

一節 鼠と猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
1	寺島良庵編	『和漢三才図会』第三十八巻	正徳2年(1712)序刊	版本1冊	名古屋市博物館
3	月岡芳年	猫鼠合戦 菓子袋・岩見銀山	安政6年(1859)	中判2丁掛	個人
4	月岡芳年	猫鼠合戦 またたび・居眠り	安政6年(1859)	中判2丁掛	個人
5	月岡芳年	猫鼠合戦 犬張子・鼠おとし	安政6年(1859)	中判2丁掛	個人
6	歌川芳艶	猫ねつみどうけかつせん	弘化元年-3年(1844-46)	大判3枚続	個人
7	歌川芳艶	猫ねつみどうけかつせん(異版)	弘化元-3年(1844-46)	大判3枚続	個人
8	佚齋樗山作	『田舎莊子』巻下	享保12年(1727)刊	版本1冊	個人
9	歌川国芳	猫の妙術	弘化4-嘉永3年(1847-50)	大判	個人
10	新田道純	新田猫	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本淡彩	個人
11	渡辺蒲深・貞斎泉晁	たけの休	天保年間(1830-44)頃	大判	個人
12	楊洲周延	衣襲明神之像 鼠よけ猫	明治21年代(1887-96)頃	22.4×10.5cm	個人
13	未詳	大津絵 猫と鼠の酒盛	江戸時代中期(18世紀前半)	紙本着色	個人
14	歌川国芳	心学雅絵得 猫と鼠	天保13年(1842)頃	中短冊判	個人

二節 美人と猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
15	山本春正編	『絵入源氏物語』	承応3年(1654)刊	版本全61冊のうち1冊	名古屋市博物館
16	歌川国貞(三代豊国)	女三宮	天保年間(1830-44)頃	大判竪2枚続	個人
17	歌川国安	青楼若三人 女三の宮	文化12-天保3年(1815-32)	大判	個人
18	歌川豊国	浮世舞台香 松助風	文化(1804-18)中期	大判	個人
19	歌川国貞(三代豊国)	卯春新板 風流相生尽 竹にすすめ	天保2年(1831)頃	大判	個人
20	歌川国芳	山海愛度図会 セ ういたい 越中滑川大蛸	嘉永5年(1852)	大判	個人
21	歌川国芳	園中八せん花 菊	弘化元-3年(1844-46)	団扇絵	個人
22	歌川国芳	大津絵八景 神なりのよるの雨	嘉永2-6年(1849-53)	大判団扇絵	個人
23	歌川国芳	譬論草をしへ早引 砥	天保14年(1843)	大判	個人
24	歌川国貞(三代豊国)	御詠当世好 カコイ	文政(1818-30)前期	大判	個人
25	歌川貞景	江戸自慢美人揃	天保2年(1831)頃	大判3枚続	個人
26	歌川国芳	山海めてたいづゑ 十九 はやくぎめたい 播州高砂蛸	嘉永5年(1852)	大判	個人
27	歌川国芳	艶姿十六女仙 豊千禪師	弘化4、嘉永元年(1847、48)	大判	個人
28	歌川貞秀	猫を抱き上げる美人	江戸時代末期(19世紀後半)	絹本着色	個人
29	歌川国芳	当盛美人合 五節句の内 青陽	天保2-4年(1831-33)	大判	個人
30	歌川国貞(三代豊国)	美人合 春曙	文政(1818-30)後期	大判	個人
31	歌川国芳	婦女鏡 豊	天保14-弘化元年(1843-44)頃	大判	個人
32	歌川国芳	絵兄弟やさすかた 鶴退治	弘化2-3年(1845-46)頃	大判	個人
33	歌川国貞(三代豊国)	富ヶ岡八幡宮境内	弘化3年(1846)頃	大判3枚続	個人
34	歌川広重	名所江戸百景 浅草田甫西の町詣	安政4年(1857)	大判	個人
35	歌川広重	『浮世面譜』三編	寛永-安政期(1848-60)頃刊	版本1冊	個人

三節 怪しい猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
36	根岸鎮衛編	『耳袋』巻二	天明6年(1786)頃成立	版本全1冊のうち1冊	名古屋市蓬左文庫
38	富永静幽編	『尾張霊異記』初編下巻・二編下巻	安政3-4年(1856-57)頃成立	写本全6冊のうち2冊	名古屋市鶴舞中央図書館

第二章 化ける猫

一節 岡崎の猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
39	歌川貞秀	東海道五十三次之内 岡崎	天保6年(1835)	大判	個人
40	歌川国芳	五拾三次之内 岡崎の場	天保6年(1835)	大判3枚続	個人
41	歌川国芳	日本駄右エ門猫之古事	弘化4年(1847)	大判3枚続	個人
42	歌川国芳	荷宝蔵壁のむだ書	嘉永元年(1848)	大判3枚続のうち中	個人
43	歌川国芳	東海道五十三対 岡部	弘化2-3年(1845-46)頃	大判	個人
44	歌川国貞(三代豊国)	東海道五十三次之内 白須賀 猫塚	嘉永5年(1852)	大判	名古屋市博物館 (尾崎久弥コレクション)
45	歌川国貞(三代豊国)	五十三次ノ内丸子ノ間宇津谷猫石	安政元年(1854)	大判3枚続	個人
46	歌川国貞(三代豊国)	中村雀之助の千壽弥五郎 十三代目市村羽左衛門の古猫の怪 四代目中村芝翫の須波数右衛門	文久元年(1861)	大判3枚続	個人
47	歌川国貞(三代豊国)	四代目中村芝翫の須波数右エ門 十三代目市川羽左衛門の猫の中のり 三代目沢村田之介のりやうしおなミ 中村雀之助の荒駒小太郎	文久元年(1861)	大判3枚続	個人
48	歌川国貞(三代豊国)	東駅いろは日記 岡崎	文久元年(1861)	大判	個人

二節 八犬伝の化け猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
49	笠亭仙果作 歌川国貞(三代豊国)画	『雪梅芳譚 犬の草紙』二十二編	寛永5年(1852)刊	版本全112冊のうち2冊	個人
50	歌川国芳	曲亭翁精著八犬土随一 犬村大角	天保9年(1838)	大判	個人
51	一養亭芳滝	けいせい花八英	明治3年(1870)	中判3枚続	個人

三節 佐賀の化け猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
52	歌川国貞(三代豊国)	愛妾胡蝶 侍女於古テ 成嶋大領	嘉永6年(1853)	大判3枚続	個人
53	豊原国周	東都三十六景之内 山下御門 古猫の怪 坂東彦三郎	元治元年(1864)	大判	名古屋市博物館 (尾崎久弥コレクション)
54	仮名垣魯文作 歌川芳虎画	『金鈴善悪譚』初～六編	慶応元年～4年(1865-68)序刊	版本全12冊	個人
55	月岡芳年	美勇水滸伝 魔陀羅丸	慶応3年(1867)	中判	個人
56	竹柴金作作 四代歌川国政画	『嵯峨奥妖猫奇談』	明治13年(1880)	版本1冊	個人
57	楊洲周延	東錦昼夜競 佐賀の怪猫	明治19年(1886)	大判	個人

第三章 人か猫か、猫か人か

一節 プームの背景

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
58	歌川国芳	乱朝恋山崎 上の巻 坂東しうかのあづま 十二代目市村羽左衛門の与五郎 二代目市川九蔵のあわしま庄太夫	天保12年(1841)	大判3枚続	個人
59	歌川国芳	二代目市川九蔵のあわしま庄太夫	天保12年(1841)	大判	個人
207	歌川国芳	十二代目市村羽左衛門の与五郎 二代目市川九蔵のあわしま庄太夫	天保12年(1841)	大判2枚続	個人
60		常磐津正本『乱朝恋山崎』	天保12～嘉永3年(1841～50)頃刊か	版本1綴	名古屋市蓬左文庫 (尾崎久弥コレクション)
61	山東京山作・歌川国芳画	『朧月猫の草紙』初編～七編	天保13～嘉永2年(1842～49)刊	版本全14冊	個人
62	仮名垣魯文作・歌川芳虎画、 歌川芳幾画、月岡芳年画	『黄金花猫目撃』初編～六編	文久3～明治元年(1863～68)刊	版本全14冊のうち12冊	個人

二節 猫のような人

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
63	歌川国芳	猫の百面相 荒獅子男之助ほか	天保12年(1841)頃	団扇絵	個人
64	歌川国芳	猫の百面相 忠臣蔵	天保12年(1841)頃	団扇絵	個人
65	歌川国芳	猫の百面相	天保12年(1841)頃	団扇絵	個人
66	歌川国芳	三段目	天保12～13年(1841～42)頃	団扇絵	個人
67	歌川国芳	たこさかな	天保12～13年(1841～42)頃	団扇絵	個人
68	歌川国芳	猫のおどり	天保12年(1841)頃	団扇絵	個人
69	歌川国芳	双蝶々曲輪日記 角力場	天保13年(1842)	団扇絵	個人
70	歌川国芳	鏡見山	天保13年(1842)頃	団扇絵	個人
71	歌川国芳	流行猫の戯 道行 猫柳淫月影	弘化4年(1847)頃	大判	個人
72	歌川国芳	流行猫の戯 梅が枝無間の真似	弘化4年(1847)頃	大判	個人
73	歌川国芳	流行猫の戯 袂糞氣罵責段	弘化4年(1847)頃	大判	個人
74	歌川国芳	流行猫の戯 おしゆん伝兵衛 身の臭淫色時	弘化4年(1847)年頃	大判	個人
75	歌川国芳	流行猫の戯 かゞみやな 草履の段	弘化4年(1847)頃	大判	個人

三節 人のような猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
76	歌川国芳	流行猫の曲鞠	天保12年(1841)	大判	個人
77	歌川国芳	猫の曲鞠	天保12年(1841)	団扇絵	個人
78	錦江斎春艸	墨摺報条 風流曲手まり	天保12年(1841)	木版墨摺	個人
79	歌川広重	猫の鯉節渡り 釣り狐	天保13年(1842)頃	中判2丁掛	個人
80	歌川国芳	猫身八毛意	天保13年(1842)頃	団扇絵	個人
81	歌川国芳	見立猫見八貝(画稿)	天保13年(1842)頃	21.0×30.3cm	個人
82	歌川国芳	からす猫夜のあめ 白のぼせて	天保(1830～44)末期	団扇絵	個人
83	歌川国芳	当流猫の六毛撰	弘化元～3年(1844～46)	団扇絵	個人

四節 奇妙な猫

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
84	歌川国芳	猫の当字 なまづ	天保14年(1843)	大判	個人
85	歌川国芳	猫の当字 たこ	天保13年(1842)頃	大判	個人
86	歌川国芳	猫の当字 かつを	天保14年(1843)	大判	個人
87	歌川国芳	絵鏡台かゝ身 猫	天保13年(1842)頃	団扇絵2枚組のうち1枚	個人

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
89	歌川国芳	たとえ尽の内	嘉永5年(1852)	大判3枚続のうち右、左	個人
90	歌川国芳	流行猫じゃらし	天保12年(1841)頃	木版多色摺	個人

五節 こんなところにも猫

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
91	歌川国貞(三代豊国)	難有御代ノ賀界絵 水茶屋	弘化元〜3年(1844〜46)	大判	個人
92	歌川国芳	国芳もやう 正札附現金男 野晒悟助	弘化2年(1845)頃	大判	個人
93	歌川国芳	源氏雲浮世画合 夕霧 網川谷蔵	弘化2〜3年(1845〜46)頃	大判	個人

六節 ブームの立役者、歌川国芳

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
94	落合芳幾	国芳死絵	文久元年(1861)	大判	名古屋市博物館 (高木繁コレクション)
95	河鍋曉斎	『晚斎画談』外編上巻	明治21年(1886)	版本1冊	個人
96	歌川国芳	『枕辺深閨梅』下巻口絵	天保9年(1838)	木版多色摺	個人
97	歌川国芳	浮世よしづし	弘化4〜嘉永元年(1847〜48)	大判2枚続	個人

七節 国芳エッセンスの継承者

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
98	歌川芳藤	小猫をあつめ大猫とする	弘化4〜嘉永元年(1847〜48)頃	大判	個人
99	歌川芳藤	五拾三次之内猫之怪	弘化4年(1847)	大判	個人
100	落合芳幾	与ハなさけ浮名の横ぐし	万延元年(1860)	大判	個人
101	落合芳幾	当世見立忠臣蔵	万延元年(1860)	大判	個人
102	四代歌川国政	芸競猫の戯	明治5〜8年(1872〜75)頃	大判3枚続	個人

第四章 福を招く猫

一節 猫の土人形

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
103	歌川国貞(三代豊国) 二代歌川広重	江戸自慢三十六興 今戸焼物	元治元年(1864)	大判	個人
104	未詳	伝今戸人形 座り猫	江戸時代末期	高18.0cm	個人
105	未詳	伏見人形 座り猫	江戸時代末期〜明治前期	高22.0cm	個人
106	未詳	花巻人形 座り猫	江戸時代末期〜明治前期	高11.0cm	個人
107	未詳	花巻人形 座り猫	江戸時代末期〜明治前期	高14.0cm	個人
108	未詳	花巻人形 鯛乗り猫	江戸時代末期	高12.0cm	個人

二節 丸バ猫の登場

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
109	歌川広重	浄り町繁花の図 せうちう屋ほか	嘉永5年(1852)	大判	個人
110	未詳	丸バ猫	嘉永5〜安政6年(1852〜59)頃	高10.5cm	新宿区教育委員会
111	未詳	本丸バ猫	江戸時代後期(19世紀後半)	縦5.2cm	東京都教育委員会
112	未詳	丸バ猫	近代	高9.8cm	東京都江戸東京たてもの園
113	吉田義和(東京)	いまの人形 招き猫(丸バ猫)	平成	高10.5cm	個人
114	吉田義和(東京)	いまの人形 招き猫(本丸バ猫)	平成	高10.0cm	個人
115	楽亭西馬作 歌川国芳画	『稲妻形怪鼠標子』三編袋	嘉永6年(1853)	高17.6cm	個人
116	二代目長谷川貞信	俳優楽屋影評判 坂東寿三郎	明治17年(1884)	大判	個人
117	未詳	招猫黄金の新富	明治16年(1883)	大判	個人
118	未詳	『まねき猫狂教説』	安政7年(万延元年・1860) 著	写本1綴	名古屋市博物館
119	未詳	土人形 招き猫	江戸時代末期〜明治	高22.0cm	名古屋市教育委員会
120	未詳	土人形 招き猫	江戸時代末期〜明治	高5.4cm	名古屋市教育委員会
121	未詳	土人形 招き猫	明治	高5.8cm	名古屋市教育委員会

三節 招き猫、大集合!

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
122	未詳(鳥取)	堀越土人形 招き猫離型	昭和	高19.0cm	個人
123	未詳(岩手)	花巻人形 招き猫	明治	高26.0cm	個人
124	未詳(岩手)	花巻人形 鞠抱き招き猫	明治	高22.0cm	個人
125	未詳(岩手)	花巻人形 鯉押さえ招き猫	明治	高17.5cm	個人
126	未詳(宮城)	堤人形 招き猫	大正	高17.0cm	個人
127	未詳(山形)	下小菅人形 招き猫	明治〜大正	高14.0cm	個人
128	相良清一(山形)	相良人形 招き猫	明治〜大正	高12.5cm	個人

No	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
129	渋江家(山形)	渋江練り人形 招き猫	明治―大正	高8.0cm	個人
130	未詳(秋田)	八橋土人形 招き猫	昭和	高21.0cm	個人
131	未詳(秋田)	八橋土人形 招き猫	昭和	高12.0cm	個人
132	未詳(栃木)	田沼練り人形 招き猫	大正―昭和	高7.0cm	個人
133	未詳(群馬)	高崎張り子 招き猫	昭和	高20.0cm	個人
134	未詳(群馬)	高崎張り子 招き猫	昭和	高15.0cm	個人
135	田中謙次(千葉)	芝原人形 招き猫	昭和	高10.0cm	個人
136	未詳(埼玉)	鴻巣練り人形 招き猫	大正	高11.0cm	個人
137	未詳(埼玉)	鴻巣練り人形 招き猫	大正	高11.0cm	個人
138	未詳(埼玉)	鴻巣練り人形 招き猫	大正	高12.0cm	個人
139	未詳(埼玉)	越ヶ谷張り子 招き猫	大正	高16.5cm	個人
140	未詳(東京)	今戸人形 招き猫	明治	高8.5cm	個人
141	沢井家(東京)	高月張り子 達磨抱き招き猫	大正	高25.0cm	個人
142	会田家(東京)	多摩張り子 達磨抱き招き猫	昭和前期	高21.0cm	個人
143	会田光雄(東京)	多摩張り子 招き猫	昭和31年代(1955-35)	高18.5cm	個人
144	根岸家(東京)	多摩張り子 招き猫	昭和	高15.0cm	個人
145	未詳(新潟)	山口土人形 招き猫	昭和	高13.0cm	個人
146	西原家(長野)	立ヶ花土人形 招き猫	大正―昭和前期	高23.0cm	個人
147	吉田孫吉(愛知)	豊橋土人形 猫抱き娘	明治	高24.0cm	個人
148	鈴木初太郎(愛知)	棚尾土人形 招き猫	昭和前期	高27.0cm	個人
149	高山家(愛知)	旭土人形 招き猫	昭和前期	高21.0cm	個人
150	棚宜田章(愛知)	大浜土人形 招き猫	昭和	高21.0cm	個人
151	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和前期	高18.0cm	個人
152	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和前期	高19.0	個人
153	未詳(愛知)	三河系土人形 鞠抱き招き猫	昭和前期	高15.5cm	個人
154	未詳(愛知)	三河系土人形 鞠抱き招き猫	昭和前期	高15.5cm	個人
155	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和前期	高20.0cm	個人
156	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和	高12.5cm	個人
157	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和前期	高11.5cm	個人
158	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和	高10.5cm	個人
159	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和前期	高7.0cm	個人
160	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和前期	高9.0cm	個人
161	未詳(愛知)	三河系土人形 招き猫	昭和前期	高17.5cm	個人
162	山田こう、はつ(愛知)	名古屋土人形 招き猫	大正―昭和前期	高50.0cm	個人
163	野田家(愛知)	名古屋土人形 招き猫	昭和初期	高11.0cm	個人
164	野田末吉(愛知)	名古屋土人形 招き猫	昭和	高5.0cm	個人
165	野田末吉(愛知)	名古屋土人形 猫抱きお福	昭和	高9.0cm	個人
166	杉浦家(愛知)	乙川土人形 鞠抱き招き猫	昭和	高12.0cm	個人
167	未詳(愛知)	伝起土人形 招き猫	昭和前期	高29.0cm	個人
168	中島一夫(愛知)	起土人形 招き猫	昭和	高14.5cm	個人
169	未詳(愛知)	瀬戸焼 招き猫	大正―昭和	高45.0cm	個人
170	未詳(愛知)	瀬戸焼 招き猫	大正―昭和	高18.0cm	個人
171	未詳(愛知)	瀬戸焼 招き猫	大正―昭和	高18.0cm	個人
172	未詳(愛知)	常滑焼 大入り台乗り招き猫	昭和後期	高11.5cm	個人
173	未詳(愛知)	東海銀行招き猫貯金箱	昭和後期	高11.0cm	個人
174	未詳(岐阜)	高山土人形 招き猫	昭和前期	高25.0cm	個人
175	未詳(岐阜)	高山土人形 招き猫	昭和前期	高18.0cm	個人
176	未詳(石川)	九谷焼 招き猫	昭和前期	高15.0cm	個人
177	未詳(石川)	九谷焼 招き猫	昭和前期	高14.5cm	個人
178	中川正美(京都)	清水人形 初辰猫(一対)	昭和	各高12.0cm	個人
179	未詳(京都)	伏見人形 親子招き猫	大正―昭和前期	高17.5cm	個人
180	未詳(京都)	伝伏見人形 火消半纏招き猫	明治―大正	高34.0cm	個人
181	未詳	大阪練り人形 招き猫	明治	高10.0cm	個人
182	未詳(大阪)	大阪練り人形 招き猫	明治	高7.5cm	個人
183	未詳(大阪)	大阪練り人形 招き猫	大正	高12.0cm	個人
184	未詳(大阪)	大阪練り人形 招き猫	大正	高13.0cm	個人
185	未詳(大阪)	大阪張り子 招き猫	大正―昭和前期	高15.5cm	個人
186	北尾製(大阪)	住吉大社 初振猫	大正―昭和前期	48体・箱高17.0cm	個人

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
187	未詳(兵庫)	稲畑人形 招き猫	昭和	高25.0cm	個人
188	野口文蔵(福岡)	赤坂土人形 招き猫	昭和	高10.0cm	個人
189	古瀬与三郎(佐賀)	弓野土人形 招き猫	昭和	高9.0cm	個人

第五章 おもちゃ絵になった猫

一節 猫の世界にあそぶ

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
190	歌川芳員	猫の狂言尽くし	安政2年(1855)	大判	個人
191	歌川国利	しんばんねこ尽	明治23年(1890)	大判	個人
192	歌川国利	流行ねこの温泉	明治14年(1881)	大判	個人
193	助六製(東京)	猫の湯屋	平成	箱高14.0cm	個人
194	小林幾英	新板猫の牛肉屋	明治12年(1879)	大判	個人
195	歌川国梅	新ばん猫世帯まこしらへ	明治18年(1885)	大判	個人
196	歌川芳虎	しんばん猫のおさらい	明治	大判	個人
197	小林幾英	新板猫の勉強学校	明治21年(1887)	大判	個人
198	歌川国利	新板猫の戯	明治17年(1884)	大判	個人
199	歌川国利	新版猫の玉のり	明治28年(1895)	大判	個人
200	未詳	大なまづねこのたハむれ	明治	大判	個人

二節 猫とあそぶ

No.	作者	作品名	制作年代	形状(員数)	所蔵
201	未詳	大新板猫のいしよう付	明治前期	大短冊判	個人
202	歌川芳藤	此中ハおもしろきもの	慶応年間(1865—68)頃	大判	個人
203	四代歌川国政	佐賀夜桜猫退治	明治21年(1887)	大判3枚組	個人
204	未詳	猫鼠十六むさし	明治	盤高6.6cm、駒(猫)高1.5cm、 (鼠)高0.9cm	個人
205	歌川芳藤	しんばんどうけかつらつけ	明治	大判	個人
206	未詳	仕掛絵 もうろく猫・猫尽・猫の放生会	明治18年(1885)	15.6×11.3cm(最大15.8cm)	個人
208	歌川国直	新板猫相撲つくし	明治18年(1885)	大判	個人

2-2 ミュシャ展 ～運命の女たち～

会期：6月2日(土)～7月15日(日)

概要：19世紀末から20世紀初頭、ヨーロッパで起こった芸術運動アール・ヌーヴォーの旗手として知られるアルフォンス・ミュシャ（1860－1939）は、現在のチェコ共和国モラヴィア地方イヴァンチツェで生まれた。1887年パリに移ったミュシャは、出世作となった大女優サラ・ベルナルの劇場ポスターをはじめ、数多くの女性像を優美に繊細な表現で描き出し、瞬く間に時代の寵児となった。その作風はミュシャ様式と呼ばれ、アール・ヌーヴォーの代名詞になった。1910年故国に戻ったミュシャは、チェコスロヴァキア最初の郵便切手や紙幣デザイン、国章を手がけ、さらには大作《スラヴ叙事詩》を完成させ、国民的芸術家としての地位を不動のものとした。

本展は、ミュシャと同郷の医師ズデニェク・チマル博士の親子3代にわたる膨大なコレクションから、リトグラフのポスターや装飾パネル、素描、挿絵原画、油彩画など約150点を厳選。「運命の女たち」というタイトルが示すとおり、初恋に始まり、栄華を極めたパリ時代、そして晩年に至るまで、ミュシャの作品を彩った女性たちに焦点をあて、ミュシャ芸術を紹介した。

あわせて静岡展特別出品として、静岡市在住のミュシャ作品収集家・尾形寿行氏のOGATAコレクション約100点も展示した。

巡回先：美術館えきKYOTO、松坂屋美術館、ひろしま美術館、福岡アジア美術館、鹿児島市立美術館、T F Uギャラリー Mini Mori、丹波市植野記念美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、静岡新聞社、日本経済新聞社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

企画協力：MBS

静岡展特別協賛：株式会社パナホーム静岡

観覧料：一般 1,000円(800円)
大高生・70才以上 700円(500円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：28,579人(有料21,235人、無料7,344人、有料率74.3%)

出品点数：262件(静岡展特別出品含む)

制作物：

1)チラシ

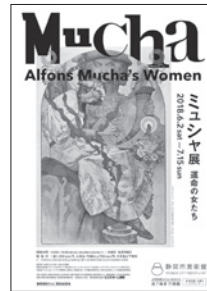
＜仕様＞紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4)71,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：ユーライト 135kg(B1、B3<JR版>)、エアラス(スーパーホワイト)120kg(B2、B3<通常版>)

サイズ・数量：B1 60部、B2 2,050部、B3 2,800部(うち400枚はJR帯つき)



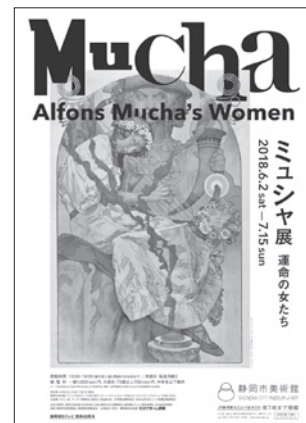
チラシ表面



チラシ裏面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞190×257mm、191頁

カラー図版252点

参考図版(カラー7点、モノクロ24点)

千足伸行「ミュシャと世紀末の女性群像」
古谷可由「装飾家としてのミュシャと画家としてのミュシャ」



カタログ表紙

Column1「素描「エマホフ城主への礼賛画」」
Column2「ホーム＝デコ社の連作装飾パネル」
Column3「ミュシャとサラ・ベルナール」
Column4「『サヴォン・ミュシャ』のラベルデザイン」
Column5「エリシュカ」

ズデニェク・チマル博士「ズデニェク・チマル博士コレクションの物語」
年譜/地図/作品解説/作品リスト

編集：株式会社青幻舎
企画制作：MBS
発行年：2017年

普及ツール：

1)音声ガイド

2)鑑賞ガイド

パリ時代のポスターの特徴や用語解説等を記載した鑑賞ガイドを作成し、作品の理解を深めることに努めた。会期前に市内の全中学生と高校の美術部生徒に本ガイドを送付したほか、会期中は館内でも配架、一般観覧者からも好評であった。

制作物：

◆鑑賞ガイド

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 86kg

サイズ・加工・数量：

210×445.5mm（仕上210×148.5mm）巻き三つ折り

35,000部



鑑賞ガイド表面



鑑賞ガイド中面

3)コースター型DM

静岡市商業労政課の依頼を受けて、プレミアムフライデーにあわせ企画したイベントを記載したコースター型DMを制作、市内各店舗、公共施設などに配布した。

制作物：

◆コースター型DM

＜仕様＞紙：SSコースター0.5mm

サイズ・加工・数量：

90mm×90mm（四角、角R10mm）に型抜き 30,000枚



コースター表



コースター裏

4)撮影コーナーの設置

エントランスの空間を生かしたダイナミックなフォトスポットを設置した。



5)『装飾資料集』人気投票コーナーの設置

来場者参加企画として、OGATAコレクションの『装飾資料集』所収の図案全72点の人気投票を実施。観覧者の4割にあたる10,940票が投じられた。



各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルテレビ『しずおかインフォメーション』、6月1日～15日放送。
- ・「ミュシャ展～運命の女たち～ 開幕式」静岡朝日テレビ『スーパーJチャンネル静岡』、6月2日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』、6月6日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『ChalChalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、6月9日放送。
- ・「ミュシャ展 尾形寿行氏」静岡朝日テレビ『ザ・メッセージ』、6月18日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』、6月20日放送。
- ・「ミュシャ展 運命の女たち 来場者1万人達成」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』、6月21日放送。
- ・「運命の女たちが見られるスポット：静岡市葵区 静岡市美術館」静岡朝日テレビ『サタハピぶらす』、6月30日放送。

2)新聞

- ・安岡真理「ミュシャ展 運命の女たち 6月2日から静岡市美術館 女性の美に民族の希望」『静岡新聞』、5月29日。
- ・尾藤旭「ミュシャ展 準備着々 静岡市美術館、あす開幕」『静岡新聞』、6月1日。
- ・「「ミュシャ展」女性作品厳選 静岡市美術館」『日本経済新聞』静岡版、6月2日。
- ・「「ミュシャ展」女性、優美に 静岡市美術館で開幕」『静岡新聞』、6月3日。
- ・「ミュシャ展～運命の女たち～ 静岡市美術館」『富士ニュース』、6月14日。
- ・「初期から晩年250点を紹介 ミュシャ展 運命の女たち」『日本経済新聞』名古屋版、6月18日。
- ・松岡雷太「「ミュシャ展」1万人 静岡市美術館 清水さん親子に記念品」『静岡新聞』、6月22日。
- ・「「ミュシャ展」に作品を出品したコレクター 尾形寿行さん」『静岡新聞』、7月10日。

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『百花壇』、No.30。
- ・「展覧会紹介」『ひととき』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『PLANETS』、vol.663。
- ・「展覧会紹介」『HANAMARU』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『ふらんす』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『ゆうゆう』、7月号。
- ・「展覧会紹介」『InRed』、7月号。
- ・「ミュシャ芸術を彩る女性たちを中心に約250点を展示」『美術の窓』、7月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「美術手帖ウェブ版」[ART NAVI]、「Fashion Press」、「しずぎん STATION」、「クローバー通信」、「MIRAI ちょっと先のミライを探しに」こころ美術館・博物館、「クラブオフ」、「ぴあポイント」、「JAF Mate Park Blog」、「ケイティコム」全国のおすすめ展覧会100、「ウェッブマガジンきんぽう」、「アットエス」静岡信用金庫LINE配信」



6月21日 観覧者1万人達成



関連事業：

1) 講演会①「アルフォンス・ミュシャー世紀末パリの異邦人」

概要：評論家として幅広い執筆活動で知られる海野弘氏に、世紀末パリからアメリカを経て、祖国チェコへ向かった「ミュシャの旅」をテーマにご講演いただいた。パリ時代はもちろん、故国へ戻った後も時代遅れの作家の烙印を押されたミュシャの人生は常に異邦人であったと指摘、彼の生涯を追いながら作品を紹介した。世紀末の時代精神や、装飾に対する意識、当時の社会情勢等も織り交ぜた内容は、展覧会や作品に対する理解を深めることにつながった。

日時：6月9日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**124人

講師：海野弘氏(評論家)



2) 講演会②「装飾家としてのミュシャ、画家としてのミュシャ」

概要：本展監修者の古谷氏による講演会。ミュシャの画業を前期・盛期・後期に分類し、出品作品を例にそれぞれの特徴を紹介した。その上で、画風の変遷をたどると一見パリ時代のみ異質であるように感じられるが、ミュシャは生涯自然主義的な画家であったとし、それがアール・ヌーヴォー期の作品を支えていたと指摘した。

日時：6月23日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**127人

講師：古谷可由氏(ひろしま美術館学芸部長・本展監修者)



3) プレミアムフライデー スペシャルトーク 「コレクターから見たミュシャ」

概要： 静岡展特別出品のOGATAコレクション所蔵者の尾形寿行氏を講師に迎え、コレクターの視点からミュシャの作品の魅力をお話しいただいた。自身がミュシャのコレクターになるまでの経緯や、ミュシャのご子息であるジリ氏との交流、オークションでの作品入手秘話、修復にまつわる話などにも触れた。なお、本事業は応募者多数となったため7月6日に落選者を対象とした尾形氏によるギャラリートークを実施、28人の参加があった。

日時： 6月29日(金)17:00-18:00

会場： 多目的室 **参加者数：** 130人

講師： 尾形寿行氏(OGATAコレクション所蔵者)



4) 当館学芸員によるスライドトーク

概要： 展覧会への理解を深めるため、担当学芸員が展示解説を行った。ミュシャの画風の変遷をたどりながら、OGATAコレクションも含めた展覧会の見どころを紹介した。

日時： 6月16日(土)、7月8日(日)14:00-15:30

会場： 多目的室 **参加者数：** 計174人



5) プレミアムフライデー期間限定オープン！

3日間限定 ミュシャ展×ビール

概要： 出品作品のポスター《ムーズ・ビール》にちなみ、ムーズ川沿岸の醸造所で作られたビールと、ミュシャの故国チェコで誕生した「ピルスナー」にちなみ、黄金色に輝くビールの数々を中心に、期間限定でミュージアムショップ&カフェで特別提供した。参加者にはビールガイドを配布し、飲みながら知識を深めてもらえるよう工夫した。

実施期間： 6月29日(金)-7月1日(日)

実施場所： ミュージアムショップ&カフェ

利用者数： 183人



出品作品リスト

- ・1章～4章はすべてチマルコレクション、最終章はすべてOGATAコレクションの所蔵。
- ・OGATAコレクションは静岡展のみの特別出品。なお、OGATAコレクションには番号を付記していない。

1章 幼少期 芸術のはじまり

学生時代の素描

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
1	デザイン画「J(ユリンカ、ミュシャの初恋の人)」	1874	鉛筆、水彩	11×5cm
2	素描集「学生時代のノート」	1876～77	インク、青色インク、鉛筆	13×8cm

ウィーンでの修業時代と後援者クーエン＝ペラン伯爵周辺の仕事

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
3	素描「農民風のブラウスを着た少女」	1878	木炭	46×35cm
4	写真「ミュシャの家族(後列左から:異母兄アウグスト、父オンドジェイ、ミュシャ、妹アンナ、妹アンゲリカ、母アマリエ、異母姉アントニエ)」	1880	写真	32×24cm
5	素描「士官の肖像」	1880	鉛筆、墨、白色ハイライト	61×46cm
6	素描「テレザ・トラブル」	1882	墨、グワッシュ	10×10cm
7	素描「テレザ・トラブル」	1883	木炭、白色ハイライト	41×36cm
8	水彩画「水の精たち」	1882	水彩、グワッシュ、白色ハイライト	32×18cm
9	素描「夜」	1885	墨、水彩で淡彩	28×17cm
10	素描「天使のいるフレスコ天井画のための下絵」	1887	墨、水彩で淡彩	42×60cm
11	素描「エマホフ城主への礼賛画」	1887	墨、クレヨン、グワッシュ、水彩	16×81cm
12	素描「《エマホフ城主への礼賛画》のための習作」	1887	鉛筆	33×19cm
13	写真「ミュシャのアパートの窓からの眺め(ミュンヘン)」	1886	写真	24×30cm

2章 バリ 人生の絶頂期

挿絵入り出版本

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
14	ビエール・ベロール著『ファランドール』の表紙絵	1890	リトグラフ	32×23×3cm
15	ユディット・ゴティエ著『白い像の伝説』の装丁、挿絵	1894	活版(凸版)印刷、金箔押し	32×23×3cm
16	H・ドゥ・プリセー著『ローランの冒険』装丁、挿絵	1896	活版(凸版)印刷	29×22×4cm
17	ノエル・ゴルアー著『グラン・フェレ』の挿絵	1896	活版(凸版)印刷	23×17×4cm
18	ロベルト・ドゥ・フレール著『トリボリの姫君イルゼ』の装丁、挿絵	1897	活版(凸版)印刷	30×25×3cm
19	『1900年パリ万国博覧会オーストリア部門公式ガイドブック』の装丁	1900	リトグラフ、金箔押し	21×12×2cm
20	『アルバム・ルフェーヴル＝ウティール第1巻現代の有名人』の表紙メダル象嵌画	1904	金箔押し(プラスチック)	33×26×3cm

さまざまなデザインの仕事

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
21	カレンダー「パリスの審判」	1895	リトグラフ	67×50cm
22	カレンダー「四季:春、夏、秋、冬(ショコラ・マッソン社)」	1896	リトグラフ	各43×15cm
23	ポスター「ビスケット・ルフェーヴル＝ウティール」	1896	リトグラフ	61×45cm
24	カレンダー「ビザンティン風の頭部:ブルネット」	1897	リトグラフ	58×43cm
25	カレンダー「ビザンティン風の頭部:ブロンド」	1897	リトグラフ	58×44cm
26	装飾皿「ビザンティン風の頭部:ブルネット」	1898	金属板にカラー・リトグラフによるエナメル塗装	41×41cm
27	装飾皿「ビザンティン風の頭部:ブロンド」	1898	金属板にカラー・リトグラフによるエナメル塗装	41×41cm
28	装飾皿「秋」	1897	磁器に印刷	31×31cm
29	カレンダー「人の一生:幼少期、青年期、熟年期、老年期」	1899	リトグラフ	各30×22cm
30	雑誌社パリ＝フランスのための有価証券	1898	リトグラフ	34×24cm
31	楽譜「マーキゼット・ガヴォット」の挿絵	1896	活版(凸版)印刷	30×46cm
32	楽譜「無情」の挿絵	1896	リトグラフ	36×28cm
33	ルフェーヴル＝ウティール社 ヴァニラ風味のゴーフルの箱のラベル	1896	リトグラフ	21×18cm
34	版画「自画像」	1896	リトグラフ	21×15cm
35	写真「自画像(パリ)」	1898	写真	32×24cm
36	1878年および1889年の万国博覧会審査員の会合の式次第	1897	リトグラフ	23×33cm
37	ポスター「ウェイヴァリー自転車」	1898	リトグラフ	21×28cm
38	ポスター「ムーズ・ビール」	1899	リトグラフ	40×28cm
39	モエ・エ・シャンドン社のメニュー表	1899	リトグラフ	22×15cm
40	A・ド・ロシャ著『感情、音楽、身振り』の装丁	1900	リトグラフ	26×44cm
41	ポール・ルーエ著『装飾美術辞典』の挿絵	1902	リトグラフ	26×18cm
42	アルフォンス・ミュシャ著『装飾人物集』の挿絵(第16図)	1905	凸版印刷	46×33cm

挿絵原画

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
43	挿絵原画「勇敢な音楽家(クサヴィエ・マルミエ著「おばあさんのお話」)」	1892	グワッシュ、白色ハイライト	28×20cm
44	挿絵原画「魔法の髪(クサヴィエ・マルミエ著「おばあさんのお話」)」	1892	グワッシュ、白色ハイライト	28×20cm
45	挿絵原画「蚊のお話(クサヴィエ・マルミエ著「おばあさんのお話」)」	1892	水彩、グワッシュ、墨、白色ハイライト	36.5×25cm
46	挿絵原画「蚊のお話(クサヴィエ・マルミエ著「おばあさんのお話」)」	1892	水彩、グワッシュ、白色ハイライト	28×21cm

No	作品名	制作年	技法	サイズ
47	挿絵原画「ジャック(クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』)」	1892	パステル、グワッシュ、白色ハイライト	38×26cm
48	挿絵原画「魔法の馬(クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』)」	1892	グワッシュ、白色ハイライト	44×31cm
49	挿絵原画「奇術師」	1892	グワッシュ、白色ハイライト	28×22cm
50	挿絵原画「ブラハ大学を創立するカール四世(シャルル・セニョボス著『ドイツ史の諸場面とエピソード』)」	1896	水彩、グワッシュ、白色ハイライト	50×36cm
51	挿絵原画「ブラチスラヴァのマリア・テレジア(シャルル・セニョボス著『ドイツ史の諸場面とエピソード』)」	1896	グワッシュ、水彩、白色ハイライト	42×31cm

水彩と素描

No	作品名	制作年	技法	サイズ
52	水彩画「レアンドロスの死」	1893	水彩	15×23cm
53	素描「メニュー表のための習作」	1897	鉛筆	36×26cm
54	素描「座る少女の習作」	1897	鉛筆	23×20cm
55	素描「パンを食べる少年」	1898	鉛筆、白色ハイライト	27×25cm
56	素描「手」	1898	鉛筆、白色ハイライト	44×32cm
57	素描「マクベス夫人に扮するサラ・ベルナール」	1899	鉛筆	23×15cm
58	素描「少女と鳩」	1899	鉛筆、白色ハイライト	60×30cm
59	素描「老年」	1900	鉛筆	36×26cm
60	素描「蠟燭の下での読書」	1903	鉛筆、白色ハイライト	29×20cm

連作装飾パネル

No	作品名	制作年	技法	サイズ
61	連作装飾パネル「花(ホーム＝デコ社)」	1894	リトグラフ(紙)	120×80cm
62	連作装飾パネル「果物(ホーム＝デコ社)」	1894	リトグラフ(カンヴァス)	195×120cm
63	連作装飾パネル「狩り(ホーム＝デコ社)」	1894	リトグラフ(紙、カンヴァスで裏貼り)	120×80cm
64	連作装飾パネル「魚釣り(ホーム＝デコ社)」	1894	リトグラフ(カンヴァス)	120×80cm
65	連作装飾パネル「芸術・詩」	1898	リトグラフ	60×38cm
66	連作装飾パネル「四つの花:アイリス、バラ、ユリ、カーネーション」	1898	リトグラフ	各20×8cm
67	連作装飾パネル「一日:朝の目覚め、昼の輝き、夕べの夢想、夜の安らぎ」	1899	リトグラフ	各108×39cm
68	連作装飾パネル「四季:春、夏、秋、冬」	1900	リトグラフ(縞子の上に刷られた豪華版)	各73×32cm

雑誌の挿絵

No	作品名	制作年	技法	サイズ
69	ジョルジュ・ドゥ・バイルブルュン著『赤い鳥』(雑誌『大衆生活30号』所収)の挿絵	1890	活版(凸版)印刷	31×23cm
70	『モラヴィアのクリスマス』(雑誌『ヒトレスク1891年12月15日号』所収)の挿絵 「モラヴィアン・スロヴァキアにおけるスロヴァキア人たちの合唱隊」	1891	木版(凸版)印刷	30×18cm
71	雑誌『ル・モンド・モデルヌ1897年5月号』の表紙「読書する女性、ベルト・ド・ラランドの肖像」	1897	木版(凸版)印刷	25×18cm
72	写真「ミュシャのアトリエ(ノパリ)のベルト・ド・ラランド」	1898	写真	32×24cm
73	雑誌『近代版画(レスタンブ・モデルヌ)』の版画「サランボー」	1897	リトグラフ	41×32cm
74	雑誌『近代版画(レスタンブ・モデルヌ)』の版画「サロメ」	1897	リトグラフ	41×32cm
75	『愚者』(雑誌『フィガロ・イリュストレ』所収)の別丁中扉	1897	リトグラフ	42×32cm
76	雑誌『ボルドー生活』(No1736)の表紙	1899	活版(凸版)印刷	31×42cm

ミュシャの仕事と写真

No	作品名	制作年	技法	サイズ
77	写真「ゴーギャン、ミュシャ、マロルド、アンナ(ノパリ)」	1925	写真	24×32cm
78	写真「装飾パネルのモデル(ノパリ)」	1899	写真	32×24cm
79	写真「月桂樹の葉を持つモデル(ノパリ)」	1899	写真	32×24cm
80	写真「ヴァルド・グラス通りのアトリエのミュシャ(ノパリ)」	1899	写真	32×24cm
81	写真「《装飾パネル「エメラルド」》のためのモデル(ノパリ)」	1900	写真	32×24cm

ポストカード

No	作品名	制作年	技法	サイズ
82	連作ポストカード「12か月」	1900	リトグラフ	各9×14cm
83	ポストカード	1900頃	リトグラフ	各9×14cm
84	ポストカード	1900頃	リトグラフ	各9×14cm
85	ポストカード	1900頃	リトグラフ	各9×14cm
86	ポストカード	1900頃	リトグラフ	各9×14cm
87	ポストカード「遠い国の姫君に扮するサラ・ベルナール(ルフェーヴル＝ウティール社)」	1904	リトグラフ	14×9cm

ポスター

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
参考2	〔作者不詳〕フェドーラに扮するサラ・ベルナール(パリ)の写真	1882	写真	30×24cm
参考3	〔作者不詳〕ジスモンダに扮するサラ・ベルナール(パリ)の写真	1894	写真	30×24cm
88	雑誌『舞台衣装』の挿絵「クレオパトラに扮するサラ・ベルナールとケフレンに扮するダルモン」	1890	リトグラフ	22×30cm
89	雑誌『舞台衣装』の挿絵「クレオパトラに扮するサラ・ベルナールとヌビアの踊り子」	1890	リトグラフ	30×22cm
90	ポスター「ジスモンダ」	1894	リトグラフ	216×75cm
91	ポスター「椿姫」	1896	リトグラフ	208×77cm
92	ポスター「ロレンザッチオ」	1896	リトグラフ	208×77cm
93	ポスター「サマリアの女」	1897	リトグラフ	173×58cm
94	ポスター「メディア」	1898	リトグラフ	206×76cm
95	ポスター「悲劇の物語デンマーク王子ハムレット」	1899	リトグラフ	205×76cm
96	ポスター「遠い国の姫君」	1900	リトグラフ	29×20cm
97	ポスター「ジョブ」	1896	リトグラフ	55×42cm
98	ポスター「サロン・デ・サン第20回展」	1896	リトグラフ	61×44cm
99	ポスター「サロン・デ・サン・A.ミュシャ展」	1897	リトグラフ	67×46cm
100	ポスター「黄道十二宮」	1896	リトグラフ	50×40cm
101	ポスター「インカの酒」	1897	リトグラフ	14×36cm
102	装飾パネル「三つの季節」	1898	リトグラフ	64×44cm
103	ポスター「ジュレ・フレールの香水・シルヴァニス・エッセンス」	1899	リトグラフ	64×25cm

3章 アメリカ 新たな道の発見

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
104	雑誌『ザ・バー・マッキントッシュ・マンズリー』の表紙	1907	リトグラフ	32×19cm
105	雑誌『ザ・リテラリー・ダイジェスト』の表紙	1908	リトグラフ	30×22cm
106	雑誌『ハースツ・インターナショナル1月号』の表紙	1922	リトグラフ	33×24cm
107	写真「《百合の聖母》のためのモデル(ニューヨーク)」	1904	写真	24×30cm
108	写真「ドイツ劇場の絵画《悲劇》のためのモデル、ライシエル(ニューヨーク)」	1908	写真	32×24cm
109	ラベル「サヴォン・ミュシャ石鹸:ライラック、ビャクダン、ヘリオトロープ」	1906	リトグラフ	各21×8cm
110	素描「《春の夜》のための習作」	1918	パステル	55×45cm

4章 故郷への帰還と祖国に捧げた作品群

祖国に戻ってからの様々な仕事

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
111	チェコスロヴァキアのコルナ紙幣と郵便切手	1918－1931	凹版印刷、活版(凸版)印刷	32×23×3cm
112	ルージェナ・イエッセンスカー著『バラードと歌』の挿絵	1903	リトグラフ	18×14.3cm
113	イグナート・ヘルマン著『ある日の物語』の挿絵	1922	リトグラフ	19×14cm
114	ブラハ国立劇場における舞踏会の出演ソリストの招待状	1900	リトグラフ	14×8cm
115	版画「解放の年、死に逝く母なる同胞団への遺言状」	1918	リトグラフ	54.5×40cm
116	版画「春の接吻」	1919	リトグラフ	66×50cm
117	書簡2通「ズビロフから、1918年／パート・ヴァルドウンゲンから、1931年」	1918、1931	インク	
118	書簡「ブラハから、1932年」	1932	インク	14×21cm
119	素描「イヴァンチツェの思い出」	1903	墨、グワッシュ、水彩、白色ハイライト	31×23cm
120	素描「目」	1906	墨	14×18cm
121	素描「横向き少女の肖像」	1915	木炭、白色ハイライト	54×42cm
122	素描「少女の肖像」	1915	木炭、白色ハイライト	76×58cm

スラヴ叙事詩関連

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
123	油彩画「ベツレヘム教会で説教するヤン・フス(《スラヴ叙事詩》のための習作)」	1915	油彩(厚紙)	27×35cm
124	写真「《スラヴ叙事詩》を制作中のミュシャ(ズビロフ)」	1925	写真	24×30cm
125	写真「《スラヴ叙事詩》を制作中のミュシャ(ズビロフ)」	1926	写真	24×30cm

晩年の素描、油彩など

No.	作品名	制作年	技法	サイズ
126	素描「三人の男」	1920	水彩、墨、白色ハイライト	27×17cm
127	素描「《民族衣装を着た少女の肖像》のための習作」	1928	木炭、白チョーク	62×45cm
128	素描「スカーフを身に着けた少女」	1930	鉛筆、木炭	27×17cm
129	水彩画「《スラヴの人々》のための習作」	1930	水彩、油彩、白色ハイライト(厚紙)	23×43cm
130	油彩画「エリシュカ」	1932	油彩(カンヴァス)	121×81cm
131	写真「展覧会に展示された油彩画《エリシュカ》の前に立つミュシャとマリエ(フラデツ・クラークロヴェー)」	1933	写真	32×24cm

No	作品名	制作年	技法	サイズ
132	素描「瞳の大きな少女」	1938	鉛筆	36×30cm
133	雑誌『五月』の表紙	1903	リトグラフ	31×23cm
134	雑誌『ブラハ・イラストレーション・マガジン』の表紙「伝統的なスラヴのクリスマス」	1929	リトグラフ	39×28cm

ミュシャの家族と知人たちの写真

No	作品名	制作年	技法	サイズ
135	写真「1902年6月2日、モラヴィアのフロズノヴァー・ルホタに住む芸術家ヨージャ・ウブルカを訪ねたオーギュスト・ロダンおよびアルフォンス・ミュシャと同じく芸術家のミロシュ・イラネク、ヨゼフ・マジャトカ(フロズノヴァー・ルホタ)」	1902	写真	24×30cm
136	写真「子供たちヤロスラヴァ、イージーと一緒のマリエ・ミュシャ(ズビロフ)」	1919	写真	32×24cm
137	写真「《水差しを持った少女》のためのモデル(ブラハ)」	1927	写真	32×24cm
138	写真「ミュシャが最後に自ら撮った肖像写真(ブラハ)」	1937頃	写真	32×24cm

ポスターの仕事

No	作品名	制作年	技法	サイズ
139	ポスター「スラヴィア保険会社」	1907	リトグラフ	55×36cm
140	ポスター「モイヴィア教師合唱団」	1911	リトグラフ	108×80cm
141	ポスター「ヒヤシンス姫」	1911	リトグラフ	31×23cm
142	ポスター「イヴァンチツェ地方の見本市」	1912	リトグラフ	93×59cm
143	素描「《イヴァンチツェ地方の見本市》のための習作」	1912	鉛筆	70×50cm
144	ポスター「チェコスロヴァキアY.W.C.A.」	1922	リトグラフ	84×55cm
145	ポスター「ロシア復興」	1922	リトグラフ	80×47cm
146	ポスター「《スラヴ叙事詩》展」	1928	リトグラフ	149×102cm、78×102cm
147	写真「《スラヴ叙事詩》の最後に完成された作品および「《スラヴ叙事詩》展」のポスターのためのモデルとなるヤスロヴァ(ズビロフ)」	1926	写真	32×24cm

OGATAコレクション

作品名	制作年	技法	サイズ
装飾パネル「桜草」「羽根」	1899	リトグラフ	71×27.5cm、71×27.3cm
装飾パネル 四季「春」「夏」「秋」「冬」		リトグラフ(布)	94.5×48cm、92×49cm、92×49.5cm、96×48.5cm
ポスター「モナコ・モンテカルロ」	1897	リトグラフ	110.5×76.5cm
アルフォンス・ミュシャ著『装飾資料集』ポスター	1901	リトグラフ	70×40.5cm
アルフォンス・ミュシャ著『装飾資料集』ケース	1902	リトグラフ	46×33cm
アルフォンス・ミュシャ著『装飾資料集』PL1～72、表紙、初頁、結びの頁	1902	リトグラフ	各46×33cm
アントニン・ルドヴィーク・ヴィスコチル著『海の攻撃』の表紙絵、挿絵	1922		24.5×18.5cm
「スラヴ諸国の歴史画」の展覧会カタログ ブルックリン美術館	1921		24.1×16.6cm
参考資料「スラヴ叙事詩連作」の展覧会カタログ クレメンティヌム	1919		12.7×18cm
「《スラヴ叙事詩》展」のカタログ ヴェレルウジュニー宮殿	1928		各24×18cm
「《スラヴ叙事詩》展」のカタログ			各18.5×12.3cm
参考資料「ミュシャ展とクブカ展」のカタログ	1936		25×19cm
雑誌「ル・ゴロワ」別冊「ジスモンダ」特集の挿絵	1894		32.7×25cm
参考資料 サラ・ベルナル劇場のパンフレット			各21.5×18cm
雑誌「ラ・ブリュム」の表紙絵	1897		23.8×17.2cm
アルフォンス・ミュシャ著 書籍「主の折り」表紙絵、挿絵(チェコ語版)			25×19.3cm
シャルル・セニョボス著 書籍「ドイツ史の諸場面とエピソード」の挿絵	1896		33×25.5×5.5cm
クサヴィエ・マルミエ著 書籍「おばさんのお話」の挿絵	1892		29.4×20×3.5cm
写真集「チェコ周遊旅行」の装丁	1898		28.5×35.5×3.5cm
雑誌「リリュストラシオン」(1896年クリスマス号)の表紙絵、挿絵	1896		40.5×30.5cm
ランス社 香水「ロド」	1897		各17×3×3cm
ウビガン社 香水「クールド・ジャンネット」	1900		14×5.2×3.7cm、箱14.3×5.5×4cm
ホイットマン社 チョコレート缶容器	1900		17.3×21.4×5.7cm
ホイットマン社 チョコレート缶容器	1900		10.5×18.9×5.5cm
ルフェーヴル＝ウティール社 ビスケット缶容器	1910		11.5×20×8cm
ルフェーヴル＝ウティール社 ビスケット缶容器	1901		10×20×8cm
アームストロング&クレイデンベッドフォード社 紅茶パッケージ缶(イギリス)			12.3×12.3×15cm
参考資料 JOB社 タバコの巻紙			黒各4×7×0.3cm、白各4×7.2×0.6cm

2-3 ヴラマンク展

絵画と言葉で紡ぐ人生

会期：7月28日(土)～9月24日(月・祝)

概要：フランスの画家モーリス・ド・ヴラマンク(1876-1958)は、独学で絵を学び、20世紀初頭にマティスやドランらとともに、「フォーヴィスム」で一世を風靡した。その後セザンヌへの傾倒を経て、第一次世界大戦後はパリ郊外、次いでパリから100km以上離れた小村リュエユ＝ラ＝ガドリエールに住まいを移し、抑制された色調や、スピード感あるタッチで田園風景や妻が活けた花束などを描き続けた。一方、ヴラマンクは絵画以外にも、音楽や自転車競技など多方面で活動し、特に文筆家としては生涯に20点以上もの著作を発表している。彼は言葉による表現も、絵画と同様に自身を表すための重要な手段としていた。本展では、フォーヴィスムから離れ、独自の画風を模索しはじめた1907年頃からの最晩年までの作品76点を、画家の言葉とともに紹介し、ヴラマンクの創作の深奥にせまった。また、当館独自の試みとして、ヴラマンクの著作およびその日本語訳の書籍等も参考資料として展示した。

巡回先：山梨県立美術館、ひろしま美術館、北九州市立美術館分館、パラミタミュージアム

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、読売新聞社、Daichi-TV

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、静岡日仏協会

協力：エールフランス航空

企画協力：株式会社ブレイントラスト

観覧料：一般 1,200円(1,000円)
大高生・70才以上 800円(600円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：10,871人(有料6,860人、無料4,011人、有料率63.1%)

出品点数：85点(参考資料を含む)

制作物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：キャピタルラップ 86kg
サイズ・数量：A4 105,500部

2)ポスター

＜仕様＞紙：キャピタルラップ 103kg (B1、B2、B3通常版)、b7
トラネクスト 99kg (B3JR版)
サイズ・数量：
B1 70部、B2 2,000部、B3 1,150部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞215mm×280mm、126頁



カタログ表紙

カラー図版80点

参考図版(カラー3点、モノクロ45点)

マイテ・ヴァレス＝ブレッド「ヴラマンク 主観的なヴィジョン、表現的な筆触」

古谷可由「日本人が愛したヴラマンク」

小川かい「多面体のヴラマンク：音楽家、自転車選手、作家」

ヴラマンク年譜／ヴラマンク国内主要参考文献 等

翻訳：小川かい、小坂井玲、農澤美穂子、古谷可由

校正協力：山下理恵

編集：プレントラスト

編集コーディネーション：須賀百恵

発行：ヴラマンク展カタログ実行委員会

発行年：2017年

普及ツール：

1) フォトスポット

SNS等での展覧会情報拡散を期待し、作品画像を使用したフォトスポットをエントランスホール内に設置した。



2) プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施

会期中のプレミアムフライデーに合わせ、15時以降の入場者に粗品プレゼントを行った。

実施日：8月31日(金)

利用者数：44件

各種連携：

1) 近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスの実施したほか、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏



主要広報記録：

1) テレビ・ラジオ

- ・「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生 開幕式」Daiichi-TV『news every. サタデー』、7月28日放送。
- ・「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生 マリアサンク特別メニュー「花のプラマンジェ」」FM-Hi!『ひるラジ！静岡情報館』、8月23日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、8月25日放送。
- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『トコちゃんワイド』、8月27日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『ひるラジ！静岡情報館』、8月30日放送。

2) 新聞

- ・「仏画家 ヴラマンク展 静岡「遺言」肉声で読み上げも」『読売新聞』静岡版、7月29日。
- ・小川かい「自由な色彩「野獣派」の名残 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」①」『読売新聞』静岡版、8月7日。
- ・小川かい「花束 観察の先の「唯一無二」 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」②」『読売新聞』静岡版、8月8日。
- ・小川かい「表情変える海と空 明暗 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」③」『読売新聞』静岡版、8月9日。
- ・小川かい「筆致、色彩 増す躍動感 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」④」『読売新聞』静岡版、8月10日。
- ・小川かい「社会批評や芸術論 多数 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」⑤」『読売新聞』静岡版、8月11日。

関連事業：

1) 講演会「ヴラマンク—色彩、そして道—」

概要：フランス近代美術史研究で知られる、六人部氏による講演会。フォーヴィスムの展開におけるヴラマンクの位置づけを色彩の面から検討した後、フォーヴィスム以降の作品をセザンヌやゴッホからの影響も絡めながら、「道」というモチーフを手掛かりに紹介。日本でのヴラマンク受容についても、佐伯祐三を中心に取り上げた。

日時：7月29日(日)14:00～15:30

会場：多目的室 参加者数：89人

講師：六人部昭典氏(実践女子大学教授)

3) 雑誌他

- ・「ヴラマンク展 言葉と共に画業の軌跡を展覧」『美術展びあ2018(びあMOOK)』。
- ・「ヴラマンク展 油彩作品を中心に計76点を出品予定」『美術の窓』、2月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、6・7月号。
- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、8・9月号。
- ・「展覧会紹介」『一個人』、8月号。
- ・「展覧会紹介」『月刊美術』、8月号。
- ・「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生 フォーヴィスムの画家はいかに「自分の絵」を見つけたか」『一枚の繪』、8月号。
- ・「展覧会紹介」『男の隠れ家』、9月号。
- ・「展覧会紹介」『ふらんす』、8月号。
- ・「展覧会紹介」『すろーかる』、8月号。
- ・「展覧会紹介」『富士ニュース』、8月9日。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、10・11月号。
- ・「展覧会紹介」『InRed[インレッド]』、9月号。

4) ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「インターネットミュージアム」、「美術手帖ウェブ版[ART NAVI]」、「しずぎんSTATION」、「ウェブ版「美術手帖」」、「アットエス」、「artscape」



2) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、担当学芸員がスライドを用いて展示解説を行った。出品作の見どころだけでなく、展覧会では扱わなかったフォーヴィスム時代の作品についても触れ、ヴラマンクの画業全般を紹介した。

日時：8月25日(土)14:00～

会場：多目的室 参加者数：35人



出品作品リスト

・6,9,19,56は当館には未出品。

1.セザンヌ期:パリ周辺(1907～1915-16年頃)

No	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先
1	緑色のテーブルの上の静物	1907年	油彩、カンヴァス	38×46	個人蔵
2	ブーヅヴァル、スガザン・橋	1907-08年	油彩、カンヴァス	60×73	フランス、個人蔵
3	赤色の屋根	1908年	油彩、カンヴァス	79×92	個人蔵
4	木々の向こうの池	1909-10年	油彩、カンヴァス	67×74	個人蔵
5	ヴァン、リキュール	1910年	油彩、カンヴァス	73×92	ブリュッセル、個人蔵 (パリ、デュアメル・ファイン・アート協力)
7	シャトゥーの洪水	1910年	油彩、カンヴァス	60×73	スイス、個人蔵
8	スイカのある静物	1910年	油彩、カンヴァス	60×73	スイス、個人蔵
10	花瓶の花	1910-12年	油彩、カンヴァス	55×46	スイス、個人蔵
11	羽根帽子	1911年	油彩、カンヴァス	72×53	個人蔵
12	花の静物画	1912年	油彩、カンヴァス	80×65.5	スイス、個人蔵
13	花瓶の花	1912-13年	油彩、カンヴァス	81×65	スイス、個人蔵
14	青い花瓶に活けられた牡丹の花	1912-13年	油彩、カンヴァス	65×54	ヨーロッパ、個人蔵 (ロンドン、オメル・ティロー・シュ・ギャラリー協力)
15	村	1911-12年	油彩、カンヴァス	63×75	ギャラリーためなが
16	湖畔	1912年頃	油彩、カンヴァス	60×73	熊本県立美術館
17	川沿いの家々	1912-14年	油彩、カンヴァス	33×41	フランス、個人蔵 (ラ・プレジダンス画廊協力)
18	雪の洗濯場	1913年	油彩、カンヴァス	60×73	パリ、個人蔵 (パリ、ラ・プレジダンス画廊協力)

2.第一次世界大戦後:ヴァル＝ドワーズとパリ周辺(1919～1925年)

No	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先
20	壺に活けられた花	1918-19年頃	油彩、カンヴァス	53×40.5	スイス、個人蔵
21	クレイユの通りの光景	1918-19年	油彩、カンヴァス	47×61.7	スイス、個人蔵
22	村通り沿いのカフェ	1918-19年	油彩、カンヴァス	73.3×90.3	個人蔵
23	雪に覆われた村の繁華街	1918年頃	油彩、カンヴァス	54×65	スイス、個人蔵
24	城館のある風景	1919年	油彩、カンヴァス	38×55	ギャラリーためなが
25	ラ・ナースの水車	1920年	油彩、カンヴァス	66×81	ギャラリーためなが
26	雪の積もった橋と通り	1920年頃	油彩、カンヴァス	72×90	ギャラリーためなが
27	パリの郊外	1920年	油彩、カンヴァス	65.5×81.5	スイス、個人蔵
28	雪の教会	1920年	油彩、カンヴァス	81×100	スイス、個人蔵
29	村の通り	1920-22年	油彩、カンヴァス	33×41	スイス、個人蔵
30	雪に覆われた村	1922年	油彩、カンヴァス(板で裏張り)	65×81	スイス、個人蔵
31	エビエの雪	1923年	油彩、カンヴァス	82×100	ブリュッセル、個人蔵 (パリ、デュアメル・ファイン・アート協力)
32	冬の風景	1924-25年頃	油彩、カンヴァス	65×81	スイス、個人蔵
33	雪の風景	1925年	油彩、カンヴァス	38×46	スイス、個人蔵
34	雪の村	1925年頃	油彩、カンヴァス	65×81	スイス、個人蔵
35	川カマス	1925年	油彩、カンヴァス	51×65	ラロック＝グラノフ・コレクション

3.シャルトル周辺、ノルマンディー、ブルターニュ(1925～1958年)

No	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先
36	人影のある雪の風景	1925-28年	油彩、カンヴァス	73×92	スイス、個人蔵
37	磔刑像のある村	1926年	油彩、カンヴァス	61×73.5	個人蔵
38	冬の村通り	1928-30年	油彩、カンヴァス	60×73	スイス、個人蔵
39	雪の村通り	1928-30年	油彩、カンヴァス	73×92	スイス、個人蔵
40	三色飾りのついた羊のモモ肉	1929年	油彩、カンヴァス	54×65	ラロック＝グラノフ・コレクション
41	村の街道	1930年	油彩、カンヴァス	65×82	ギャラリーためなが
42	冬の村の眺め	1930年頃	油彩、カンヴァス	60×73	スイス、個人蔵
43	雪の村	1930年頃	油彩、カンヴァス	54×65	スイス、個人蔵
44	冬の村通り	1930-32年	油彩、カンヴァス	65.5×81.5	スイス、個人蔵
45	雪の風景	1932年	油彩、カンヴァス	81.5×100.5	スイス、個人蔵
46	モミの木のある家	1930-35年	油彩、カンヴァス	46.2×55.6	ギャラリーためなが
47	雪の村	1930-35年頃	油彩、カンヴァス	65.5×81.5	スイス、個人蔵
48	雪の街道	1931年	油彩、カンヴァス	81×100.5	スイス、個人蔵
49	雪に覆われた通り	1932年	油彩、カンヴァス	38×46	スイス、個人蔵
50	籠と瓶と果物のある静物	1935年	油彩、カンヴァス	65.5×81.5	スイス、個人蔵
51	冬の風景	1935-36年	油彩、カンヴァス	50×61	スイス、個人蔵
52	雪の村	1935-36年	油彩、カンヴァス	54.5×65	スイス、個人蔵
53	雪の効果	1935-37年	油彩、カンヴァス	46×55	スイス、個人蔵
54	冬の村	1936-37年	油彩、カンヴァス	46×55	スイス、個人蔵

No	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先
55	ヒナゲシの活けられた花瓶	1936-37年頃	油彩、カンヴァス	55.5×38	スイス、個人蔵
57	花束	1936-38年	油彩、板	34.5×27	ギャラリーためなが
58	小舟	1937年	油彩、カンヴァス	54×65.2	フランス、個人蔵
59	農家の中庭	1938-39年	油彩、カンヴァス	60.5×73.5	スイス、個人蔵
60	雪の村通り	1939-40年	油彩、カンヴァス	54×65	スイス、個人蔵
61	冬の村	1940-42年	油彩、カンヴァス	54×65	スイス、個人蔵
62	ジャガイモのある静物	1942-43年	油彩、カンヴァス	50×65.5	スイス、個人蔵
63	漁船の帰還、ブルターニュ	1947年	油彩、カンヴァス	60×73	フランス、個人蔵
64	街道	1948-50年	油彩、カンヴァス	38×46	スイス、個人蔵
65	2本の木のある農家	1950年	油彩、カンヴァス	54×65	スイス、個人蔵
66	サイロ	1950年	油彩、カンヴァス	54.2×73	フランス、個人蔵
67	束ねられた麦のある畑	1950年頃	油彩、カンヴァス	54×65	ラロック＝グラノフ・コレクション
68	マメールの通り(もしくはパロンの通り)	1955年	油彩、カンヴァス	54×73	コレクション・シムノン・バトリモワーズ

◆ヴラマンク晩年の12のリトグラフ

No	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵先
69	プレヴィリエ	1958年、春	リトグラフ	45.4×58.4	個人蔵
70	ティムレの村				
71	ラ・マンズリエール				
72	雪に覆われた藁ぶきの家				
73	ラ・フリシュ＝デ＝ボフ				
74	小さな踏切り				
75	積み藁				
76	タルデ近くにある森番の家				
77	ジョドレの家々				
78	クールティユにあるアヴル川				
79	ル・プティ・プレシ				
80	クールティユの教会				

4.ヴラマンクの遺言

スライド上映 「ヴラマンク 私の遺言」（上映時間 約5分）

参考:文筆家ヴラマンク

No	著者名	タイトル	出版年	出版社	寸法	所蔵先
参考資料 1	Maurice de Vlaminck(モーリス・ド・ヴラマンク) / Fernand Serada(フェルナンド・セルナーダ) Andre Derain(アンドレ・ドラン)挿絵	D'un lit dans l'autre	1956年(初版1902年)	Éditions du CAP, Monte-Carlo	21.3×15.7	静岡市美術館
参考資料 2	Maurice de Vlaminck(モーリス・ド・ヴラマンク)	Tournant Dangereux	1929年	Librairie Stock Delamain et Boutelleau, Paris	18.8×12	静岡市美術館
参考資料 3	モーリス・ド・ヴラマンク 税所篤二訳	『危ない曲がり角』	1931(昭和6)年	建設社	外函19.9×14 本体19.4×13.7	山梨県立美術館
参考資料 4	Maurice de Vlaminck(モーリス・ド・ヴラマンク)	Paysages et Personnages	1953年	Flammarion, Paris	18.8×12.3	山梨県立美術館
参考資料 5	Maurice de Vlaminck(モーリス・ド・ヴラマンク)	Portraits avant Décès	1943年	Flammarion, Paris	19.2×13	静岡市美術館
参考資料 6	モーリス・ド・ヴラマンク 里見勝蔵訳	『死の前の肖像』	1955(昭和30)年	新潮社	18.4×12.4	山梨県立美術館
参考資料 7	里見勝蔵	『ヴラマンク』 (アルス美術文庫)	1950(昭和25)年	アルス	18.9×13.2	静岡市美術館
参考資料 8	モーリス・ド・ヴラマンク 里見勝蔵訳	『私の遺言』	1966(昭和41)年	昭森社	外函24.7×19.1 本体24×18.7	静岡市美術館
参考資料 9	里見勝蔵	『ヴラマンク』	1968(昭和43)年	日動出版	21×15.5	山梨県立美術館

2-4 テレビ静岡開局50周年記念

フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年

会期：10月6日(土)～12月16日(日)

概要：ヨーロッパ磁器の最高峰・セーヴル磁器は、フランス国王ルイ15世の庇護を受け、18世紀半ば、王立磁器製作所として出発した。宮廷の画家や彫刻家を登用しての特注品は、ポンパドゥール侯爵夫人、ルイ16世や王妃マリー・アントワネットに納められた他、外交の贈答品としてロシア皇帝エカテリーナ2世にも届けられ、王侯貴族らを魅了した。フランス革命を経てナポレオンが台頭すると、新古典主義の作品が、19世紀末にはアール・ヌーヴォー、アール・デコの作品が生まれ、芸術家やデザイナーとの共同製作も盛んになった。20世紀初頭にはセーヴル初の外国人の協力芸術家として彫刻家・沼田一雅が、現代ではピエール・スーラージュや草間彌生なども招かれた。本展はセーヴル磁器300年の伝統と創造の軌跡を、セーヴル陶磁都市所蔵の優品約130件で紹介する日本初の大規模展であった。

巡回先：サントリー美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社

企画：セーヴル陶磁都市

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、静岡日仏教会

協賛：大日本印刷

協力：日本航空、日本通運

観覧料：一般 1,200円(1,000円)

大高生・70才以上 800円(600円)

※()内は前売および20名以上の団体料金

※中学生以下無料

※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：15,262人(有料10,394人、無料4,868人、有料率68.1%)

出品点数：134点

制作物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：エスプリコートFP 110kg

サイズ・数量：A4 55,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：エスプリコートFP 135kg (B2)、ユーライト135kg (B1、B3)

サイズ・数量：

B1 50部、B2 2,100部、B3 1,150部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



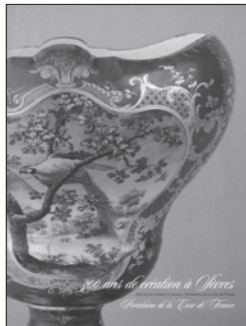
B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞192×258mm、230頁



カタログ表紙

カラー図版149点

参考図版(カラー17点、モノクロ9点)

クリスティーヌ・ジェルマン＝ドンナ「セーヴル磁器製作所の歴史－色彩への大胆な取り組み」
〔コラム〕安河内幸絵「軟質磁器と硬質磁器」
〔コラム〕後藤修「ローズ・ボンパドゥールーボンパドゥール夫人が愛したバラ色」
〔コラム〕石崎泰之「岩倉使節団も訪ねた「セーブル」」
〔コラム〕宮川智美「アール・デコの時代とセーヴル製作所」
「セーヴル陶磁都市とは」

宮川智美編「セーヴル製作所関連年表」

主要参考文献

編集：大阪市立東洋陶磁美術館、サントリー美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館
発行：サントリー美術館
発行年：2017年

普及ツール：

1)オリジナルミニDM

当館オリジナルのはがきサイズのミニDMを作成。近隣の飲食店や、陶芸に関するショップなどに配布し、新たな観覧者獲得を狙った。DM持参者にはクリアファイルをプレゼントした。

制作物：

◆ミニDM

＜仕様＞紙：エスプリコートSS 220kg

サイズ・数量：100×148mm 15,000部



ミニDM 表



ミニDM 裏

2)三連休特典

10月6日(土)－8日(月・祝)と11月23日(金・祝)－25日(日)の有料観覧者各日先着50名にニナス「マリーアントワネット ティー」(ティーバッグ1杯分)をプレゼントした。



各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

制作物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏



11月30日 来場者1万人達成

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「気品あふれる希少な磁器 セーヴル 創造の300年 静岡市美術館」テレビ静岡『FNNプライムニュースしずおか』、10月6日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、10月13日放送。
- ・「展覧会紹介」トコちゃんねる『しずおかインフォメーション』、10月15日～31日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『ひるラジ！静岡情報館』、11月22日放送。
- ・「宮廷の磁器 “セーヴル”展覧会1万人達成」テレビ静岡『FNNプライムニュースしずおか』、11月30日放送。

2)新聞

- ・瀬田貴嗣「セーヴル磁器 華やかに 静岡市美術館、6日開幕」『中日新聞』静岡版、10月4日。
- ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年展 あす静岡市美術館で開幕 貴族が愛した優雅さ 高度な技術 幅広い作域」『中日新聞』静岡版、10月5日。
- ・瀬田貴嗣「セーヴル磁器300年の歴史 静岡市美術館 開幕前に式典、内覧会」『中日新聞』静岡版、10月6日。
- ・瀬田貴嗣「華美な装飾の磁器にうっとり 静岡市美術館 セーヴル展開幕」『中日新聞』静岡版、10月7日。
- ・「テレビ静岡開局50周年記念 ～フランス宮廷の磁器～ セーヴル 創造の300年 12月16日まで静岡市美術館で」『中日新聞』静岡版、10月13日。
- ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年① スープ用の蓋付小鉢と受け皿 1781年 王室の長男誕生祝う」『中日新聞』静岡版、10月22日。
- ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年② ポプリー壺「エペール」1757年 王侯貴族の寝室飾る」『中日新聞』静岡版、10月23日。
- ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年③ 鳥の意匠のカップとソーサー「リトロン」1761年 ピンク色 愛らしい形」『中日新聞』静岡版、10月24日。
- ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年④ 壺「テリクレアン」1842年 花の描写 油絵のよう」『中日新聞』静岡版、10月25日。
- ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年⑤ ダンサー NO.13(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より) 1899-1900年 今も高い人気の名品」『中日新聞』静岡版、10月26日。
- ・瀬田貴嗣「目を奪う不変の美 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年 静岡市美術館 来月16日まで」『中日新聞』静岡版、11月7日。
- ・池田京子「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年 スタッフおすすめの一点(上)「雄山羊のついた楕円壺」と「雄山羊の頭部のついた壺」1766-67年」『中日新聞』静岡版、11月20日。
- ・山田彩「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年 スタッフおすすめの一点(中)壺「アシェール」」『中日新聞』静岡版、11月21日。
- ・杉山伊咲雄「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年 スタッフおすすめの一点(下)「お菊さん」沼田一雄1904年(1920年版)」『中日新聞』静岡版、11月23日。
- ・瀬田貴嗣「セーヴル展1万人超 若月さんらに記念品」『中日新聞』静岡版、12月1日。
- ・「セーヴル展 16日まで」『中日新聞』静岡版、12月11日。
- ・「セーヴル展 あすまで」『中日新聞』静岡版、12月15日。

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『フラワーデザイナー』、10・11月号。
- ・「王侯貴族から現代芸術家まで。人々を惹きつける磁器が集結。」『クロワッサン』、No.983。
- ・「展覧会紹介」『月刊美術』、11月号。
- ・「展覧会紹介」『Are you Happy?』、11月号。
- ・「展覧会紹介」『womo』、10月号。
- ・「ヨーロッパの王侯貴族たちを魅了した名器の数々 テレビ静岡開局50周年記念 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」『hotpepper』、10月号。
- ・「300年の伝統と創造 その軌跡が体感できる フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」『時空旅人』、10月号増刊。
- ・「展覧会紹介」『富士ニュース』、21695号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

ウェブ版「美術手帖」、『Fashion Press』、『ハルメクWEB』、『しずぎんSTATION』、『ぴあポイント』、『ことりっぶWEB』、『アットエス』、『MUSEUM JP』、『アートアジェンダ』、『静清信用金庫LINE配信』



関連事業：

1) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/静岡室内楽フェスティバル2018 ミュージアムコンサート「気軽にモーツァルト」

概要：静岡音楽館AOIの協力で、ピアノとヴァイオリン、歌によるサロンコンサートを開催した。セーヴル磁器が生まれた18世紀に広く愛されたモーツァルトの名曲を中心にアンコールも含め曲が披露された。演奏の合間には、奏者から曲目についての解説もあり、参加者から好評を得た。

日時：10月14日(日)14:30開場 15:00開演

会場：多目的室 **参加料：**1,000円 **参加者数：**87人

出演：里見有香(ピアノ)、大倉礼加(ヴァイオリン)、金持亜実(ソプラノ)

曲目：W.A. モーツァルト：ソナチネ第1番 ハ長調 K.439.bより第4楽章(ピアノ)／同：きらきら星変奏曲(ピアノ)／同：ヴァイオリン・ソナタ第34番 変ロ長調 K.378(317d)より 第3楽章(ヴァイオリン)／同：ヴァイオリン協奏曲第5番《トルコ風》イ長調 K.219より第3楽章(ヴァイオリン)／同：トルコ行進曲(ピアノ)／同：歌劇《ツァーイーデ》より＜安らかにやすみ＞(ソプラノ)／同：歌劇《フィガロの結婚》より＜恋とはどんなものかしら＞(ソプラノ)／同：歌劇《劇場支配人》より＜若いあなた！＞(ソプラノ)／山田耕筰：《赤とんぼ》



2) 講演会「セーヴルって？ーセーヴルがしてきたこと、今していることー」

概要：本展出品作の「スーラージュの壺」を修復した気鋭の修復家北野氏による講演会。修復家の立場からセーヴル磁器の特徴が紹介されたほか、フランスでもセーヴルは食器ブランドとして知名度はない中での展覧会開催の意義などを含め講演いただいた。美術史家や作家とは異なる視点が随所にみられ、見聞きする機会の少ない文化財修理の現場のことや技法などに踏み込んだ話題は、総じて好評を得た。

日時：11月10日(土)14:00-15:30

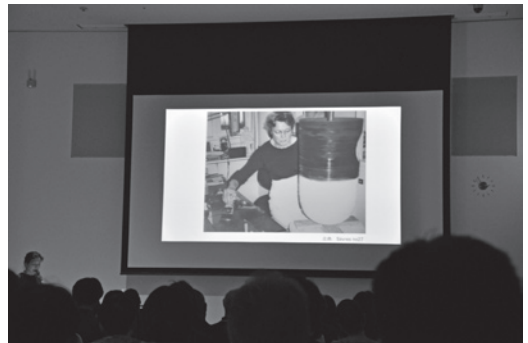
会場：多目的室 **参加者数：**84人

講師：北野珠子氏(東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 准教授)

主要広報記録：

◆新聞

・瀬田貴嗣「最高峰の磁器 歩みたどる 静岡・セーヴル展 北野准教授講演」『中日新聞』静岡版、11月11日。



3) 「ヨーロッパ風貴族令嬢ドレスで変身フォト！」

概要：本展共催のテレビ静岡の主催で、来場者がヨーロッパ風の貴族令嬢ドレスに着替え、写真撮影をして楽しむイベントを開催。好評であったため、急遽実施日を追加して実施した。

日時：①10月13日(土) ②11月23日(金・祝)

いずれも 10:00-17:00(最終受付 16:30)

会場：多目的室 **参加料：**ドレスレンタル料 1着 500円

参加者数：計48人

主要広報記録：

◆新聞

・牧野新「夢のお姫様にドレスアップ 「セーブル展」企画」『中日新聞』静岡版、11月24日。



4) プレミアムフライデートーク

概要：プレミアムフライデーに合わせ、担当学芸員による本展のみどころを解説するスライドトークを実施した。

日時：①10月26日(金) ②11月30日(金)

いずれも16:30-

会場：多目的室

参加料：無料

参加者数：計32人



出品作品リスト

・作品番号29はクリュニー中世美術館、作品番号88はフォンティヌブロー城美術館、
作品番号125は在日フランス大使館、それ以外の作品は全てセーヴル陶磁都市の所蔵。
・作品番号23は当館では未出品。

第1章 18世紀のセーヴル

No	作品名	作者	年代	材質・技法
1	ハーフボトル用のボトルクーラー		1740-1750年	軟質磁器
2	化粧用クリームの壺		1750年頃	軟質磁器
3	カップとソーサー「ダイヤモンド」		1750年頃	軟質磁器
4	テリーヌと受け皿「ザクセン」		1750年	軟質磁器
5	カップとソーサー		1750年頃	軟質磁器
6	化粧用クリームの壺		1745年	軟質磁器
7	コンボート皿「キャベツの葉」		1754年	軟質磁器
8	蓋付小鉢と受け皿		1750年頃	軟質磁器
9	カップとソーサー「カラブル」		1750-1752年頃	軟質磁器
10	葦の中で白鳥を追う犬／白鳥を追う犬／M.ウードリーの動物	原型:ピエール・ブロンドー／ジャン＝バティスト・ウードリー(1686-1755)に基づく	1750-1752年	施釉軟質磁器
11	貝を捧げ持つニンフ	ジャン＝クロード・デュブレシ(本名チアンペルラーノ)(1699-1774)／共同製作:エティエンヌ＝モーリス・ファルコネ(1716-1791)(推定)	1761年頃	軟質磁器
12	大皿(ルイ15世の「ブルー・セレストのセルヴィス」より)	器形:ジャン＝クロード・デュブレシ(1699-1774)	1754-1755年	軟質磁器
13	皿(「ロシア皇帝エカテリーナ2世のカメオとイニシャルのセルヴィス」より)	シャルル＝ニコラ・ドダン(1734-1803)	1778年	軟質磁器
14	煮込み肉用の容器と受け皿(「小壺と花綱とデュ・バリー夫人のイニシャルのセルヴィス」より)	ピエール＝ニコラ・ピエール(兄)(1759-1775年に活動)／オーギュスタン・ド・サン＝トーマン(1736-1807)の図案に基づく	1770-1771年	軟質磁器
15	角皿(「アストゥリアス公妃のセルヴィス」より)		1774年頃	硬質磁器
16	皿(「金で引き立たせた草葉と洋紅色のマーガレットの花綱のセルヴィス」、別称「エギヨン伯爵のセルヴィス」より)	ピエール・アントワヌ・メロー(兄)(1754-1791年に活動)	1773年	軟質磁器
17	デザート皿(「青の二重線とバラと矢車菊のセルヴィス」より)		1781年	軟質磁器
18	デザート皿(「輪花形のセルヴィス」、別称「ビュフォンのセルヴィス」より)		1782-1783年	硬質磁器
19	スープ用の蓋付小鉢と受け皿		1781年	軟質磁器
20	「リボンのデジュネ」、別称「バーヴェル・ペトロヴィチのキャバレ」		1772-1773年	硬質磁器
21	ルイ16世／王の胸像	ルイ＝シモン・ボワゾ(1743-1809)に基づく	1777年	硬質磁器
22	マリー・アントワネット／王妃の胸像	ルイ＝シモン・ボワゾ(1743-1809)に基づく	1777年	硬質磁器
24	乳房のボウル(「ランビエの酪農場のセルヴィス」より)	ルイ＝シモン・ボワゾ(1743-1809)、ジャン＝ジャック・ラグルネ(1739-1821)	ボウル:2011年版／ 脚台:2006年	硬質磁器
25	ソース入れの盆(「アラベスクのセルヴィス」より)	ルイ・ル・マッソン(1743-?)	1786年	軟質磁器
26	ポプリ壺「アジュール(透かし)」一対		1752年	軟質磁器
27	朝食	ジョス・ル・リッシュ(1741-1812)	1775年	硬質磁器
28	乳母	監修:ルイ＝シモン・ボワゾ(1743-1809)／ 伝ジョス・ル・リッシュ(1741-1812)	1774年	硬質磁器
29	スープ用の蓋付小鉢と受け皿		1754年	軟質磁器
30	仕切りの入った花器		1753年	軟質磁器
31	カップとソーサー「エトルスク」(「黄色地のビュフォンのセルヴィス」より)		1792-1800年	軟質磁器
32	ポプリ壺「エバール」	器形:ジャン＝クロード・デュブレシ(1699-1774) 装飾:ジャン＝ジャック・バジュリエ(1724-1806)に基づく	1757年	軟質磁器
33	大きな庭師／1772年までは「ブーシェの大きな子供」、それ以降は「ブーシェの子供」	ジャン＝バティスト・ドゥファルネクス(1728-1783)／ フランソワ・ブーシェ(1703-1770)に基づく	1755年	テラコッタ
34	ジョウロ	装飾:アントワヌ・カトン(1749-1798年セーヴルに画家として在職)	1755年	軟質磁器
35	透かし彫りのかご		1756-1757年	軟質磁器
36	ティーセット「カラブル」	装飾:アンドレ・ヴァンサン・ヴィエイヤール(父)(1717-1790)	1767年	軟質磁器
37	角盆		1766年	軟質磁器
38	皿	装飾:ピエール・アントワヌ・メロー(兄)(1754-1791年に活動)	1769年	軟質磁器
39	カップとソーサー「リトン」		1772年	軟質磁器
40	カップとソーサー「リトン」		1797年	軟質磁器
41	カップとソーサー「リトン」		1745-1752年	軟質磁器
42	カップとソーサー「リトン」		1795年	軟質磁器
43	手燭		1754年	軟質磁器
44	ポプリ壺「ミルト」一対		1760-1762年	軟質磁器
45	ソース入れ「デュブレシ」		1750年頃	軟質磁器
46	壺「コテ・デュ・ロワ」		1776年	軟質磁器
47	壺「シブレ・フルタド」一対	磁器:金彩師アンリ＝マルタン・ブレヴォ(兄)(1757-1797)／ ブロンズ:伝ピエール＝フィリップ・トミール(1751-1843)	1788年	硬質磁器と 鍍金されたブロンズ
48	ウェスタの巫女	監修:ルイ＝シモン・ボワゾ(1743-1809)	1788年	硬質磁器
49	鹿と女狩人	監修:ルイ＝シモン・ボワゾ(1743-1809)	1777-1780年	硬質磁器
50	カップとソーサー「リトン」、アラベスク装飾		1789年	硬質磁器
51	皿(中心に十字形の花綱装飾)	フランソワ・ブイヤ(息子)(1786-1793年に活動)	1790年	軟質磁器
52	皿		1770年	硬質磁器
53	角盆		おそらく1757年	軟質磁器
54	鳥の意匠のカップとソーサー「リトン」、ローズの地に小石模様	エティエンヌ・エヴァン(1752-1787年セーヴルに画家として在職)	1761年	軟質磁器
55	カップと窪んだソーサー		1765年	軟質磁器
56	カップと窪んだソーサー		1765年	軟質磁器

No	作品名	作者	年代	材質・技法
57	蓋付カップと窪んだソーサー		1765年	軟質磁器
58	カップと窪んだソーサー		1763年	軟質磁器
59	「オランダの花瓶」	ジャン＝バティスト・タンダール(兄)(1729-1816)	1761年	軟質磁器
60	ボブリ壺「ボンパドゥール」	伝ジャン＝クロード・デュブレシ(1699-1774)	1753年	軟質磁器
61	「墓石形の花器」	器形・伝ジャン＝クロード・デュブレシ(1699-1774) 装飾・伝ジャン＝ルイ・モラン(1754-1787年セーヴルに画家として在職)	1759年	軟質磁器
62	壺「リブ付きゴブレット」一対		1755-1756年頃	軟質磁器
63	壺「ハボン・ロンビュ」	装飾・ニコラス・ベルヘム(1620-1683)に基づく	1765-1770年頃	軟質磁器
64	壺「スフィンクス」	装飾・ルイ・シモン・ランブルール(1728-1808)／ カルル・ヴァン・ロー(1705-1765)に基づく	1775-1780年頃	軟質磁器
65	「雄山羊のついた楕円壺」と「雄山羊の頭部のついた壺」	伝エティエンヌ＝モリス・ファルコネ(1716-1791)	1766-1767年	軟質磁器

第2章 19世紀のセーヴル

No	作品名	作者	年代	材質・技法
66	壺「ジャスマン」		1800-1801年頃	精炔器
67	デザート皿《メディチのヴィーナス》(「ギリシャ人の肖像のセルヴィス」より)		1813年	硬質磁器
68	デザート皿《将校デュブレシの戦闘と死》(「エジプトのセルヴィス」より)	ジャック・フランソワ・ジョゼフ・スヴェバック(1769-1823)／ ドミニク＝ヴィヴァン・ドゥノン(1747-1825)と アレクサンドル・テオドール・ブロンニャール(父)(1739-1813)に基づく	1811年	硬質磁器
69	水差「ディーテルル」《アマゾネス》	アルフレッド・トンプソン・ゴベール(1822-1894)、 ジャン＝バティスト＝セザール・フィリップ	1873年	銅胎七宝
70	杯《ネレイスとトリトンとイルカ》	ジャコブ・メイエル＝エーヌ	1862年	銅胎七宝
71	「アイスクリームクーラーの壺B」《カカオ、サトウキビ、茶、コーヒーの栽培と収穫》 (「産業技術のセルヴィス」より)	ジャン＝シャルル・ドゥヴリー(1783-1862)	1827年	硬質磁器
72	デザート皿《口口師》(「ユニのセルヴィス」、「産業技術のセルヴィス」より)	ジャン＝シャルル・ドゥヴリー(1783-1862)	1823-1835年	硬質磁器
73	デザート皿《彫刻家》(「ユニのセルヴィス」、「産業技術のセルヴィス」より)	ジャン＝シャルル・ドゥヴリー(1783-1862)	1823-1835年	硬質磁器
74	壺「テリクレアン」	器形・ジャン＝シャルル＝フランソワ・ルロワ(1774-1846) 装飾・ビエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ(1759-1840)	1842年	硬質磁器と 鍍金されたブロンズ
75	壺「アデライド」一対	器形・ジャン＝シャルル＝フランソワ・ルロワ(1774-1846) 装飾・ビエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ(1759-1840)	1846年	硬質磁器と 鍍金されたブロンズ
76	皿(「ハンブルネルのセルヴィス」より)		1967年版	硬質磁器
77	デザート皿《貝》(「自然の産物のセルヴィス」より)	ジャン＝フランソワ＝アンリ・フィリピーヌ(1771-1840)	1835年	硬質磁器
78	デザート皿《コウカンチョウ》(「南アメリカの鳥のセルヴィス」より)	ポーリーヌ・クニップ、旧姓リフェール・ド・クールセル(1781-1851)、 ジャン＝シャルル＝フランソワ・ルロワ(1818-1841年に活動)	1821年	硬質磁器
79	皿(「デュブレシのセルヴィス」、「鳥のセルヴィス」より)		1886年	硬質磁器
80	デザート皿《チップステッドの楡の木の風景》(「ユニのセルヴィス」、別称「森林のセルヴィス」より)	装飾・アントワヌ＝アシル・ブパール(1815-1848年に活動)	1834年頃	硬質磁器
81	デザート皿《牡蠣の引き網漁》(「漁のセルヴィス」より)	装飾・アンブロワーズ＝ルイ・ガルヌレー(1783-1857)	1840年	硬質磁器
82	デザート皿《昔のセーヴル磁器製作所の風景》 (「セーヴルと近郊の風景のセルヴィス」より)	装飾・セレスタン＝スタンラス・ラマル(1816-1824年に活動)	1822年	硬質磁器
83	デザート皿《コルマルの風景》(「フランスの小景のセルヴィス」より)	装飾・ポリクレス・ラングロワ(1814-1872)	1864年	硬質磁器
84	「ペールの薄手のコーヒーセット《ノルマンディーの風景》」	器形・ジュール＝コンスタン＝ジャン＝バティスト・ペール(1811-1871年以降)装飾・ポリクレス・ラングロワ(1814-1872)	1855年	硬質磁器
85	花瓶「花器AB」		1873年	硬質磁器
86	カップとソーサー「ジャスマン」		1811年	硬質磁器
87	ティーセット「ブラシャール」、「アナクレオン礼賛のデジュネ」	器形・ジャン＝シャルル・ニコラ・ブラシャール(1766-1823) 装飾・シャルル＝エティエンヌ・ルゲイ(1762-1846)、ジャン＝シャルル＝フ ランソワ・ルロワ(1774-1846)	1830年	硬質磁器
88	壺「アデライド」一対	器形・ジャン＝シャルル＝フランソワ・ルロワ(1774-1846) 装飾・ルイ・ベルタン・バラン(1768-1851)	1842年	硬質磁器
89	「アンリ2世の杯」	装飾・アレクサンドル・ブランシャール(1848-?)	1874年	硬質磁器
90	中国風の面取りされたティーボット	アレクサンドル＝エヴァリスト・ラゴナール(1780-1850)	1827年	硬質磁器
91	「シメールのティーセット」	器形・アルベール＝エルネスト・カリエ＝ペルーズ(1824-1887) 装飾・アシル・ボンニユイ(1833-1906)	1892-1893年	硬質磁器
92	水差「プロフ」	器形・アルベール＝エルネスト・カリエ＝ペルーズ(1824-1887) 装飾・シュザンヌ＝エステル・アボワル、旧姓ペランジェ(1825-1902)	1887年	硬質磁器
93	壺「クロディオ」		1885年	硬質磁器
94	壺「ロドス」	装飾・シャルル・バリア(1848-1883)	1874年	硬質磁器

第3章 20世紀のセーヴル

No	作品名	作者	年代	材質・技法
95	皿(「輪花形のセルヴィス」より)	装飾・ジュール＝オーギュスト・アベール＝ディス(1850-1927年以降)	1888年	硬質磁器
96	壺「アシェール」	器形・アンリ・バルブリ(1897-1907年に活動) 装飾・ルイ・トラジェ(1888-1934)／ガブリエル・ロー(1896-1915年に活動)に基づく	1897年	硬質磁器
97	壺「アシェール」	器形・アンリ・バルブリ(1897-1907年に活動) 装飾・アンリ・ラセル(1883-1930年に活動)	1897年	硬質磁器
98	壺「ル・ブルジェ B」	器形・クロード・ニコラ・アレクサンドル・サンディエ(1843-1916) 装飾・H.ユルリク／ガブリエル・ロー(1896-1915年に活動)に基づく	1901年	軟質磁器
99	壺「モンジャンナンC」	装飾・ウジェーヌ・シマ(1862-1939)	1898年	硬質磁器
100	壺《秋》	器形・クロード・ニコラ・アレクサンドル・サンディエ(1843-1916) 装飾・レオナルド・ジェブロー(1884-1928年に活動)	1900年頃	硬質磁器

No	作品名	作者	年代	材質・技法
101	ダンサーNo.5(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より)	アガトン・レオナル(1841-1923)	1899-1900年	硬質磁器
102	ダンサーNo.13(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より)	アガトン・レオナル(1841-1923)	1899-1900年	硬質磁器
103	ダンサーNo.14(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より)	アガトン・レオナル(1841-1923)	1899-1900年	硬質磁器
104	ダンサーNo.3(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より)	アガトン・レオナル(1841-1923)	1899-1900年	硬質磁器
105	ダンサーNo.6(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より)	アガトン・レオナル(1841-1923)	1899-1900年	硬質磁器
106	お菊さん	沼田一雅(1873-1954)	1904年(1920年版)	硬質磁器
107	象とねずみ	沼田一雅(1873-1954)	1906年	硬質磁器
108	獅子	沼田一雅(1873-1954)	1921年	硬質磁器
109	孔雀	沼田一雅(1873-1954)	1921年	硬質磁器
110	七面鳥	沼田一雅(1873-1954)	1906年	硬質磁器
111	壺「ハレゾー」		1910年	硬質磁器
112	茶入れ「ビュリー」	器形:アンドレ・ビュリー 装飾:エリック・バグ(1890-1978)	1923年	硬質磁器
113	「ラバンのブラケット灯No.6」	器形:アンリ・ラバン(1873-1939) 装飾:ジャン＝バティスト・ゴウグネ(1885-1967)	1921年	硬質磁器
114	タバコ入れ	ピエール・バトゥ(1879-1965)、 ジャン＝バティスト・ゴウグネ(1885-1967)	1925-1926年	ファイアンス
115	「リュールマンの花瓶 No.2」	器形:ジャック＝エミール・リュールマン(1879-1933) 装飾:シュザンヌ・ラリク＝アヴィラン(1892-1989)	1926-1927年	硬質磁器
116	「オペールの壺 No.18」	器形:フェリックス・オペール(1866-1940) 装飾:アンヌ＝マリー・フォンテーヌ(1920-1938年に活動)	1923年	新硬質磁器
117	ダンサー No.1	デザイン:ジャン＝バティスト・ゴウグネ(1885-1967) 装飾:マルセル・ブリュニエ / ゲオルギー・オダルチェンコ(1903-1960)に基づく	1925年	硬質磁器
118	「ラバンの壺 No.12」	器形:アンリ・ラバン(1873-1939) 装飾:ジャン・ボーモン(1895-?)	1925年	ファイアンス

第4章 現代のセーヴル 1960-2016

No	作品名	作者	年代	材質・技法
119	ゲリドン(小型円卓)の天板	装飾:アレクサンダー・カルダー(1898-1976)	1968年	硬質磁器AA
120	ディアンヌの盛り付け用皿、オリヴィエ・ドゥブレの装飾	器形:アラン・ゴウグネ(1928-2005) 装飾:オリヴィエ・ドゥブレ(1920-1999)	1992年	硬質磁器
121	皿、装飾 No. 17-70(「ディアンヌ」のセルヴィスより)	器形:アラン・ゴウグネ(1928-2005) 装飾:エティエンヌ・アイドゥ(1907-1996)	1970年 (2005年版)	硬質磁器
122	皿、装飾 No. 1-69(「ディアンヌ」のセルヴィスより)	器形:アラン・ゴウグネ(1928-2005) 装飾:セルジュ・ポリャコフ(1900-1969)	1969年	硬質磁器
123	《ネイチャー・スタディ》	ルイーズ・ブルジョワ(1911-2010)	2003年	ビスキュイ磁器
124	《ゴールデン・スピリット》	草間彌生(1929-)	2005年	鍍金された ビスキュイ磁器
125	《スーラージュの壺》	ピエール・スーラージュ(1919-)	2000年	磁器
126	「アルプの壺No. 4」、または「夢のアンフォラ」	ジャン・アルプ(1886-1966)	1975年	セミマット釉硬質磁器
127	《メロの壺》	深澤直人(1956-)	2010年	新硬質磁器
128	《ルイスの壺》	アルトゥール＝ルイス・ビザ(1928-2017)	1975年	ビスキュイ磁器
129	セルヴィス《ハルビュイアの喜び》	器形:ジュール＝コンスタン・ペール(1811-1871年以降) 装飾:フランソワーズ・カルドン(1961-)	2009年	硬質磁器
130	テーブルセンターピース	エットレ・ソットサス(1917-2007)	1994年	新硬質磁器
131	テーブルセンターピース《静物》	ジム・ダイン(1935-)	1998年	磁器と木板
132	「プレルの壺《ボーリアを探して昇るドラゴン》」	ニコラ・ビュフ(1978-)	2016年	硬質磁器
133	「実り」文様のカップとソーサー	森口邦彦(1941-)	2016年	硬質磁器
134	花器《Sakura》	ネンド(2002-)	2016年	新硬質磁器

2-5 起点としての80年代

会期：1月5日(土)～3月24日(日)

概要：1980年代は、「インスタレーション」や「メディア・アート」など、今日の美術につながる重要な動向が生まれた時代である。「美術」ではなく「アート」という言葉がよく使われるようになり、美術館やギャラリー以外にも「オルタナティブ・スペース」が登場し始めたのもこの時代であった。近年、「具体」や「もの派」など1970年代までの戦後日本美術に関する研究は国内外で急速に進んでいる。また90年代以降のサブカルチャーに影響を受けた表現が注目を浴びるなか、その狭間に位置する80年代の検証はこれからだと言える。

本展は、「メデイウムを巡って」「日常とひそやかさ」「関係性」「記憶・アーカイヴ・物語」という今日的な4つのキーワードをあげ、19人の作家を紹介しながら1980年代の日本の美術を見つめた。懐古的にこの時代を振り返るのではなく、現在の視点から照射しながら、80年代に築かれた豊かな表現を探る試みとなった。

本展は、金沢21世紀美術館、高松市美術館と当館の3館による共同企画展で、当館が最終会場となった。また80年代における静岡のアートシーンの一端をアーカイヴ資料で紹介する「Shizubi Project 7 アーカイヴ／1980年代－静岡」も同時開催した。(46～48頁参照)

巡回先：金沢21世紀美術館、高松市美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、日本経済新聞社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

助成：一般財団法人地域創造

観覧料：一般 1,100円(900円)
大高生・70才以上 700円(500円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料
*80年代割引「生まれた時代のアートを見てみよう！」
1980～1989年生まれの方：観覧料 800円

観覧者数：10,141人(有料6,345人、無料3,796人、有料率62.6%)

出品点数：60点

制作物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 86kg

サイズ・数量：A4(横210×縦594を二つ折り)65,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・数量：

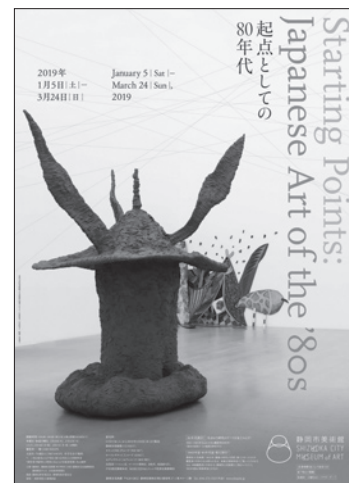
B1 60部、B2 2,050部、B3 2,700部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ中面



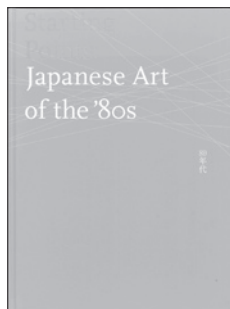
B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞303mm×226mm、211頁



カタログ表紙

カラー図版100点

参考図版(カラー3点、モノクロ54点)

鷲田めろ「1980年代の日本美術における批判的地域主義」
牧野裕二「中原浩大とは何か—イメージ、持ち物、こども」
伊藤鮎「それぞれの、もう一つの起点—横尾忠則、大竹伸朗、日比野克彦の80年代」
以倉新「80年代についての一考察」
(寄稿)
峯村敏明「言語／制度／時として詩」
谷新「80年代日本／美術の成果—70年代のミニマリズムを超えて」
建畠哲「転換期としての80年代」
飯沢耕太郎「『日本写真』の1980年代」
北澤憲昭「汎化されたアヴァンギャルド—『美術の1980年代』試論」
小池一子「オルタナティブをめざすということ」
篠原資明「ヤワコイアートへ—関西ニューウェーブ考」
島敦彦「1980年代遠望—メディア・アート周辺雑記」

年表／主要参考文献／出品リスト

編集：金沢21世紀美術館、高松市美術館、静岡市美術館、伊藤雅俊(株式会社マイブックサービス)
翻訳：ベンジャール桂、クリストファー・スティヴンズ
発行年：2018年

普及ツール：

1)本展オリジナルDMの作成・配布

幅広い客層への広報の一環として、オリジナルDMを制作し、市内店舗等へ配布。DM持参者にはクリアファイルをプレゼントした。

制作物：

◆カード型DM

＜仕様＞紙：ハイ・アビスNEO 104kg

サイズ・数量：100×148mm 15,000部



DM 表



DM 裏

2)学校向けチラシの作成・配布

本展の周知のため、静岡市内の小・中学校全児童・生徒向けにチラシを作成し配布した。(裏面にはオープンアトリエの告知を掲載)

制作物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 56,000部



学校向けチラシ表



学校向けチラシ裏

3)日比野克彦デザイン・オリジナル缶バッジの作成・配布

ハッシュタグ「#わたしの80年代」#静岡市美術館をつけて、ツイッター、インスタグラム投稿者に、投稿画面の提示で日比野克彦デザイン・オリジナル缶バッジをプレゼントした。

制作物：

◆缶バッジ

＜仕様＞φ32mm

利用者数：207件



4)プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施

会期中のプレミアムフライデーに合わせ、15時以降の入場者に粗品プレゼントを行った。

実施日：①1月25日(金) ②2月22日(金)

利用者数：①45件 ②27件

5)天皇陛下御在位30周年プレゼント

当日の観覧者全員に粗品をプレゼントした。

実施日：2月24日(土)

利用者数：207件

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

制作物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部

2)相互割引の実施

静岡県立美術館で同時期開催の「1968年 激動の時代の芸術」展と連携し、それぞれの展覧会の半券持参者は団体料金で各展が鑑賞できるサービスを実施した。



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、2018年9月2日放送。
- ・「80年代展 静岡市美術館」静岡朝日テレビ『スーパー J チャンネル静岡』、1月5日放送。
- ・「日比野克彦氏公開制作 静岡市」静岡朝日テレビ『スーパー J チャンネル静岡』、1月19日放送。
- ・「起点としての80年代 横尾忠則対談告知」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』、1月30日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォーメーション』、2月9日放送。
- ・「起点としての80年代 日比野克彦公開制作・インタビュー」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』、2月20日放送。

2)新聞

- ・清水有香「現代とつながる表現形式」『毎日新聞』全国版、8月18日。
- ・松本紗千「80年代展とはなんだ」『朝日新聞』大阪本社版(夕刊)、10月14日。
- ・窪田直子「80年代日本美術 歴史化の試み」『日本経済新聞』全国版、10月20日。
- ・「二つの「80年代」展 新しい波の輪郭、鮮やかに」『朝日新聞』東京本社版、12月18日。
- ・「80年代に活躍作家19人紹介」『日本経済新聞』静岡版、1月5日。
- ・三宅千智「横尾忠則さんら80年代日本美術 葵区で企画展」『中日新聞』静岡版、1月6日。
- ・村田真「「ニューウェイブ」に焦点 二つの「80年代の美術」展」『北海道新聞』、1月14日。
- ・安斎耕一、大西若人「バブル期アート いまはトレンド」『朝日新聞』全国版、1月24日。
- ・日比野克彦「私と公開制作」『中日新聞』静岡版(夕刊)、1月25日。
- ・「現在の視点から80年代のアートシーンを検証する」『日本経済新聞』東京本社版(夕刊)、2月7日。
- ・「「自由」満喫した80年代アート 横尾忠則、日比野克彦…静岡市美術館で企画展」『産経新聞』静岡版、2月16日。
- ・アライ＝ヒロユキ「日常＝私」の視点を生む 日本美術史「起点としての80年代 Starting Points: Japanese Art of the 80s」展」『しんぶん赤旗』、2月19日。

3)雑誌他

- ・清水譲「80年代の現代美術：起点と終点」『美術手帖』、10月号。
- ・「展覧会紹介」『美術展&美術館びあ2018秋冬-2019(びあMOOK)』。
- ・「1980年代のアートシーンを見つめる 起点としての80年代」『ホットペッパー』、1月号。
- ・「展覧会紹介」『富士ニュース』、21766号。
- ・「展覧会紹介」『PHOTOSAI ふおとさい 2019 Winter』、Vol.23。
- ・「80年代の美術の豊かな魅力を発見！！」『すろーかる』、1月号。
- ・奥村泰彦「二つの80年代展をめぐって」『ZENBI 全国美術館会議機関誌 全美フォーラム』、vol.15。
- ・「起点としての80年代 注目の展覧会」『和楽』、2・3月号。
- ・「展覧会紹介」『美術屋・百兵衛』、vol.48。
- ・「アーティスト・日比野克彦氏ご本人による公開制作？『DCブランド「HIBINO SPECIAL」1日限定オープン？ 静岡市美術館「起点としての80年代」開催記念！『静岡PARCO 折込チラシ』、1月17日。
- ・「起点としての80年代」『美術の窓』、1月号。
- ・「展覧会紹介」『CAR and DRIVER カー・アンド・ドライバー』、2月号。
- ・「展覧会紹介」『Seoul Art Guide 서울아트가이드(ソウルアートガイド)』、2月号。
- ・榎木野衣「泡と砂のなかの80年代 「起点としての80年代」、「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」、「バブルラップ」、「アーカイヴ／1980年代-静岡」展」『美術手帖』、4月号。

4)ウェブサイト等

- ・福永信「夏のおすすめ、起点としての80年代展」『REAL TOKYO』、8月9日。
 - ・「岡崎乾二郎が日本の現代美術史を徹底解説、転機は1980年代だった」『Cinra』、9月11日。
 - ・遠山正道、鈴木芳雄対談「今日もアートの話をしよう：起点としての80年代」『アプリ版「びあ」』、2月15日。
- (以下媒体名のみ記載)
- 「artscape」、「インターネットミュージアム」、「アートアジェンダ」、「ウェブ版「美術手帖」」、「コンフォルト」、「ハルメクWEB」、「しずぎんSTATION」、「びあポイント」、「アートテラー・とに〜の【ここにしかない美術室】」、「美術ACADEMY&SCHOOLブログ」、「GINGERweb」、「アットエス」、「静岡マラソン2019静岡グルメ&タウンガイド電子版」、「Japan Design Net」、「ホルベインアーティストナビ」、「インターネットミュージアム」、「Media & Communication facebook」、「静岡信用金庫LINE配信」



関連事業：

1) 大学生によるギャラリートーク

概要：常葉大学の堀切正人准教授の協力で、授業の一環として、90年代生まれの大学生2人が2日間計4回のギャラリートークを実施、若い世代ならではの新鮮な視点で作品を紹介した。

日時：1月12日(土)、1月13日(日)

いずれも ①13:30ー ②15:00ー

会場：展示室 **参加者数：**計56人

参加料：観覧会観覧料



2) 日比野克彦×静岡PARCO 公開制作・DC ブランド「HIBINO SPECIAL」1日限定オープン！

概要：ボール紙やアクリル絵の具などを用いて、日比野克彦氏が静岡PARCO店内で服を作る公開制作を実施した。1982年パルコ主催の第3回日本グラフィック展で鮮烈なデビューを果たした日比野氏の作品ができる過程を間近に見れる機会ということもあり、多くの人が立ち止まり、興味深く公開制作の様子を眺めていた。80年代からアートと街、人をつなげる活動を行ってきた日比野氏ならではの充実した事業となった。

日時：1月19日(土)14:00ー20:00

会場：静岡PARCO 1階 正面口特設会場

制作：日比野克彦氏(アーティスト) **参加者数：**約1,500人



3)当館学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを会期中実施した。

日時：①1月20日(日) ②3月10日(日)

いずれも14:00-

会場：展示室 **参加者数：**計56人

参加料：展覧会観覧料



4)シンポジウム「80年代の美術は今につながるか」

概要：1980年代の日本の「現代美術」は、今の美術状況にいかにつながり、また繋がらないかを、当時より一線で活躍する美術評論家や出品作家、およびアメリカの戦後美術にも詳しい識者を交えたシンポジウムを実施。冒頭の趣旨説明後、前半は80年代当時の時代状況について、後半は現在の視点から見る80年代について討議が行われた。参加申込多数で抽選となるなど関心も高く、県外からも多くの参加者を集めた。話は多岐に渡り、それぞれ核心をつくような内容で好評を得た。

日時：2月10日(土)14:00-17:00

会場：多目的室 **参加者数：**140人

登壇者：峯村敏明氏(美術評論家、多摩美術大学名誉教授)、篠原資明氏(哲学者、詩人、美術評論家、高松市美術館館長)、森村泰昌氏(美術家)、林道郎氏(美術史・美術批評、上智大学教授)

司会：以倉新(当館学芸課長)



5)対談「大逆転の時代、横尾忠則80年代を語る」

概要：本展出品作家の横尾忠則氏と美術評論家の谷新氏による対談。1980年代を軸にしながら60,70年代、近作に至るまでの横尾氏の作品をスライドで紹介、その変わらぬ創作意欲に触れることができた。横尾氏の活動を長きに渡って見てきた谷氏だからこそ引き出せる話題も多く、作家としての本質的な部分に迫る非常に密度の高い内容となった。参加申込が500人を超えるなど、作家への関心の高さが伺えた。

日時：3月1日(金)15:00-16:30

会場：多目的室 **参加者数：**137人

登壇者：横尾忠則氏(美術家)

聞き手：谷新氏(美術評論家)



出品作品リスト

- ・各作品データは、所蔵者より提供された資料に基づき、出品番号、作品名、制作年、技法／素材、サイズ(cm)、所蔵の順に記載。
- ・55-1は静岡会場には出品されていない。

I.メディアウムを巡って

No	作者名	作品名	制作年	技法/素材	サイズ(cm)	所蔵
1	岡崎乾二郎	あかさかみつ	1981	アクリル、ポリエチレン	H27.5×W25×D17.5	高松市美術館
2		かっぱばし	1981	アクリル、ポリエチレン	H25.5×W21×D14	池上弥弥
3		うぐいすだに	1981	アクリル、ポリエチレン	H25.8×W25.7×D16.7	高松市美術館
4		そとかんだ	1981	アクリル、ポリエチレン	H14.1×W33×D39.5	高松市美術館
5		でんえんちょうふほんまち	1981	アクリル、ポリエチレン	H12.7×W34×D28.5	高松市美術館
6		のがた	1981	アクリル、ポリエチレン	H23.4×W24.8×D17	高松市美術館
7		たまち	1981	アクリル、ポリエチレン	H12.6×W24.4×D22	高松市美術館
8	諏訪直樹	波瀾図 No. 1	1980	アクリル／綿布、パネル	H194×W222×D79	三重県立美術館
9		波瀾図 No. 2	1980	アクリル／綿布、パネル	H194×W222×D79	三重県立美術館
10	辰野登恵子	WORK 80-P-20	1980	油彩／カンヴァス	H182×W227	個人蔵
11		WORK 86-P-13	1986	油彩／カンヴァス	H259×W194	高松市美術館
12		WORK 89-P-13	1989	油彩／カンヴァス	H291×W218	千葉市美術館
13	戸谷成雄	「《彫る》から」塔状のもの	1982	石膏、角鉄筋	H180×W40×D45	MTMコレクション
14		中庭II	1990	木、灰、アクリル	H220×W93×D93	高松市美術館
15	中原浩大	夢殿	2014-18 (オリジナル/1984)	油土、FRP	—	作家蔵
16		金碗	1985	真鍮	H89.5×φ144.5	高松市美術館
17	中村一美	湿潤気候の樹林II	1984	油彩／カンヴァス	H194×W150	豊田市美術館
18		モレーン	1987	油彩／カンヴァス	H260×W360	高松市美術館

II.日常とひそやかさ

No	作者名	作品名	制作年	技法/素材	サイズ(cm)	所蔵
19	今村 源	'88-12、'89-6より	1988, 89 (計10点うち3点は 2018再制作)	針金、紙粘土、塩化ビニール、柿、 コンクリート、FRP	—	作家蔵
20	杉山知子	the midnight oasis	1983	アクリル、樹脂、カッティングシート／ 段ボール、スチレンフォーム	H280×W380×D230	作家蔵
21	日比野克彦	PRESENT AIRPLANE	1982	段ボール、紙、アクリル、色鉛筆、墨	H72.8×W103	岐阜県美術館
22		PRESENT SOCCER	1982	段ボール、紙、アクリル、色鉛筆、墨	H72.8×W103	作家蔵
23		PRESENT SHOE	1982	段ボール、紙、アクリル、色鉛筆、墨	H72.8×W103	作家蔵
24		ERROR	1982	段ボール、アクリル、色鉛筆、墨	H101×W88	岐阜県美術館
25		TYPEWRITER	1983	段ボール、アクリル、色鉛筆、墨	H102.5×W131.9	作家蔵
26		PANTS	1983	ボール紙、アクリル、色鉛筆、墨、 ステーブル	H51×W65×D30	岐阜県美術館
27		SWEATY JACKET	1982	ボール紙、アクリル、色鉛筆、墨、風糸、 針金、プラスチック	H106.7×W83×D22	岐阜県美術館
28		GLOVE	1983	ボール紙、段ボール、アクリル、色鉛筆、 墨、風糸、ハトメ、ステーブル、ガムテープ	H55×W49×D24.1	岐阜県美術館
D-1		「時代はサーカスの象にのって'84」 (作:寺山修司、演出:萩原朔美、舞台美術・ 出演:日比野克彦)記録写真	1984	—	—	—
D-2		「時代はサーカスの象にのって'84」ポスター	1984	オフセット	H72.8×W51.5	作家蔵
D-3		「HIBINO THEATRO」記録写真	1985	—	—	—
D-4		「ONE DAY OF HIBINO」記録写真	1986	—	—	—
29	舟越 桂	積んである読みかけの本のように	1983	楠に彩色、大理石	H80×W48×D25	高松市美術館
30		森へ行く日	1984	楠に彩色、大理石、ゴム・チューブ	H79×W49×D24	作家蔵
31		冬の本	1988	楠に彩色、大理石	H76×W36×D24	作家蔵
32	吉澤美香	無題(茶だんす)	1982	アクリル／タンス	H136.3×W91.5×D42.3	千葉市美術館
33		無題(三脚)	1982	アクリル／台、他	H113×W97×D54	千葉市美術館
34		無題(掃除機)	1982	アクリル／掃除機	H24.3×W148×D15.5	千葉市美術館
35		無題(テーブル)	1982	アクリル／テーブル、他	H95×W152.5×D131	千葉市美術館
36		ろー9	1989	工業用インク／ポリプロピレン	H200×W280	千葉市美術館

III.関係性

No.	作者名	作品名	制作年	技法/素材	サイズ(cm)	所蔵
37	川俣 正	デストロイド・チャーチ・プロジェクト、プラン(C-2)	1986	鉛筆他／合板	H60×W91.5	高松市美術館
38		デストロイド・チャーチ・プロジェクト、テクニカルノート No. 1	1987	ペン／紙	H76.5×W108	個人蔵
39		デストロイド・チャーチ・プロジェクト、テクニカルノート No. 2	1987	ペン／紙	H76.5×W108	個人蔵
D-5		デストロイド・チャーチ・プロジェクト、記録写真	1987	—	—	—
40	藤本由紀夫	NORMAL BRAIN ／ READY MADE	1980	LPLコード	H32.1×W32.2	作家蔵
41		SEPARATION-CONJUNCTION	1984-98	インク／紙	各 H23.5× W20.5(6点組)	作家蔵
42		CUBE SUGAR	1986-88	鉄、ビューワー、角砂糖、インク	H25×W10×D12	作家蔵
43		HERMETIC SCALE (DIAMETER)	1988	木、陶器、オルゴールユニット	H10×W120×D30	作家蔵
44		EARS WITH CHAIR	1990, 2018	木、鉄、塩化ビニール	サイズ可変	作家蔵
45	松井智恵	「あの一面の森に箱を置く」(信濃橋画廊、1987年)で展示された作品の部分、記録写真、映像による再構成	2018	写真(ラムダプリント)、映像(5分13秒/VHS/当時の撮影者:館勝生/今回の編集者:吉光清隆)、オブジェ(鉛、ガラス、引き出し、パラフィン、糸、布、石膏、ウサギの毛皮)、文章	サイズ可変	作家蔵
46	宮島達男	Monism/Dualism	1989	発光ダイオード	H296.3×W11	京都国立近代美術館
47		パフォーマンスNA. AR. (Voice)の記録写真	1982	ゼラチン・シルバー・プリント	各H25.4×W30.5(計4点)	Akio Nagasawa Gallery
48		パフォーマンスNA. AR. (Rain)の記録写真	1982	ゼラチン・シルバー・プリント	各H25.4×W30.5(計4点)	Akio Nagasawa Gallery
49		パフォーマンスNA. AR. (Line)の記録写真	1984	Cプリント	各H25.4×W30.5(計5点)	Akio Nagasawa Gallery
D-6		《Performance Box》NATURE AND ARTIFICIALITY (RAIN)	—	DVD、写真、ドローイング、ネガ、案内状、メモ	—	作家蔵

IV.記憶・アーカイヴ・物語

No.	作者名	作品名	制作年	技法/素材	サイズ(cm)	所蔵
50	石原友明	約束I	1984	オブジェ:写真、油彩／変形カンヴァス、フロッターージュ:油彩／紙	オブジェ H240×W55×D28、フロッターージュ H245×W375	高松市美術館
51		Untitled	1985	写真、アクリル／変形カンヴァス	円錐型 H89.7×W68.5×D15、白 H100.3×W50×D11、青 H99×W50.2×D11.5	高松市美術館
52	大竹伸朗	家系図	1986-88	油彩、タール、オイルスティック、麻布、ラッカー、写真、印刷物、石膏、蜜蝋、プレキシグラス、紙、布、木／木製パネル	H265×W265×D20	セゾン現代美術館
53		網膜#9(ブラウン・ヘッド)	1988-90	写真、布テープ、プラスチック樹脂／木製パネル	H292×W218	セゾン現代美術館
54		網膜#39(投げ縄)	1990-91	写真、布テープ、プラスチック樹脂／木製パネル	H250×W185.5	高松市美術館
55-2	森村泰昌	肖像(ゴッホ)	1985	Cプリント	H120×W100	高松市美術館
56		ポートレイト(赤I)	1986	Cプリント	H120×W100	高松市美術館
57		ポートレイト(黒)	1986	Cプリント	H120×W100	高松市美術館
58		肖像(泉1,2,3)	1986-90	Cプリント	各H240×W120(3点組)	高松市美術館
59		だぶらかし(マルセル)	1988	Cプリント	H150×W120	高松市美術館
60	横尾忠則	うまい作り話	1982	油彩、アクリル、ジェッソ、コラーージュ／カンヴァス	H227.3×W509.1	高松市美術館

3. 交流事業(教育普及事業)目次

3-1 交流事業

1) Shizubi Project 7「アーカイヴ/1980年代-静岡」	46
2) Shizubi シネマアワー	48
3) しずびオープンアトリエ	49
4) しずびチビッコプログラム	50
5) 暦とあそぶワークショップ	51
6) プレゼントワークショップ	52
7) 夜店市	54

3-2 連携事業

1) ミュージアム教室・展示解説	55
2) めぐるりアート静岡2018 4つの会場をめぐる、アートの散策。	56
3) 生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」	57
4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)	58
5) 2020しずおか文化プロジェクト	59
6) その他施設との連携	59

3. 交流事業(教育普及事業)

3-1 交流事業

1) Shizubi Project 7「アーカイブ/1980年代—静岡」

概要：1980年代、静岡のアートシーンでは何が起こっていたのだろうか。遠州灘沿いの海岸・中田島砂丘を舞台とした「浜松野外美術展」(1980-87年)、川俣正による「袋井駅前プロジェクト」(1988年)、私有地の山林でコレクティブ的活動を展開した「天地耕作」(1988-2003年)など、「起点としての80年代」にあわせ、カタログや記録写真などのアーカイブ資料でその一端を紹介した。

会期：1月12日(土)－3月24日(日)

会場：多目的室

観覧者数：34,798人

作品リスト：

◆浜松野外美術展

1. 「第1回浜松野外美術展」今井由緒子出品作品「複写資料」 1980年 個人蔵(MY)
2. 中村英樹「空間の表皮にむけて」『いけ花龍生』249号(1981年1月号)、26-27頁(発行：龍生華道会)「複写資料」 1981年 静岡市美術館
3. 「第2回浜松野外美術展」チラシ 1982年 個人蔵(MY)
4. 「第2回浜松野外美術記録展(gallery79)」DM「複写資料」 1982年 個人蔵
5. 「第2回浜松野外美術記録展(ギャラリー白)」DM「複写資料」 1982年 個人蔵
6. 「第2回浜松野外美術展」カタログ 1982年 静岡市美術館
7. 「第3回浜松野外美術展へ向けてのプランニング展」DM 1983年 個人蔵(MY)
8. 「第3回浜松野外美術展」DM 1983年 個人蔵(MY)
9. 「第3回浜松野外美術記録展」DM 1983年 個人蔵(MY)
10. 「第3回浜松野外美術展」カタログ 1983年 静岡市美術館
11. 「作品と自然がドッキング」『静岡新聞』(1983年6月2日)「複写資料」 1983年 個人蔵(MY)
12. 北澤憲昭「砂の上の展覧会」『美術手帖』no. 514(1983年8月号)(発行：美術出版社) 1983年 静岡市美術館
13. 「第4回浜松野外美術展」DM 1984年 個人蔵(MY)
14. 「第4回浜松野外美術展」ポスター 1984年 個人蔵(MY)
15. 「第4回浜松野外美術記録展」DM 1984年 個人蔵(MY)
16. 「第4回浜松野外美術展」カタログ 1984年 静岡市美術館
17. 「第4回浜松野外美術展」講演会(中村英樹「美術と自然の再会」1984年6月3日)記録カセット 1984年 個人蔵(MY)
18. 中村英樹「脱近代の視点」『読売新聞』(1984年6月19日) 1984年 個人蔵(MY)
19. 今井瑾郎「美術—空間との接点」『読売新聞』(1985年3月19日)「複写資料」 1985年 個人蔵(MY)
20. 「1986年浜松野外美術展に向けて」DM「複写資料」 1985年 個人蔵
21. 「第5回浜松野外美術展」チラシ 1986年 個人蔵(MY)
22. 「第5回浜松野外美術展」ポスター 1986年 個人蔵(MY)
23. 「1986年(第5回)浜松野外美術記録展」DM 1986年 個人蔵(MY)
24. 「第5回浜松野外美術展」カタログ 1986年 静岡市美術館
25. 「第5回浜松野外美術展」記録ビデオ 1986年 個人蔵(MY)
26. 「第5回浜松野外美術展」記録写真 1986年 個人蔵(MY)
27. 「中田島砂丘 砂浜の美術館」『浜松百撰』vol.344(1986年7月)、4-8頁(発行：浜松百撰) 1986年 個人蔵(MY)
28. 「第6回浜松野外美術展」チラシ 1987年 個人蔵(MY)
29. 「第6回浜松野外美術展」ポスター 1987年 個人蔵(MY)
30. 「第6回浜松野外美術展」展示プラン 1987年 個人蔵(MY)

31. 「1987年(第6回)浜松野外美術記録展」DM 1987年 個人蔵(MY)
32. 「第6回浜松野外美術展」カタログ 1987年 静岡市美術館
33. 「砂の官能：浜松野外美術展」『美術手帖』no. 584(1987年8月号)(発行：美術出版社) 1987年 静岡市美術館
34. 「浜松野外美術展」資料ファイル 個人蔵(MY)
35. 望月良枝「浜松の砂丘に見つけた制作・発表の提言」『美術手帖』no. 661(1992年11月号)(発行：美術出版社) 1992年 静岡市美術館
36. 尾野正晴「ささやかな夢の跡—浜松野外美術展の記録—」『静岡文化芸術大学研究紀要抜刷』(2005年3月) 2005年 個人蔵(MY)
37. 『ギャラリー葉 1980-1988』(発行：三上豊) 2012年 静岡市美術館

◆A-Value

38. 「第7回試行する美術「重曹する、浮遊。」展(山梨県立美術館一般展示室)カタログ(発行：書肆・博物誌) 1987年 個人蔵(S)
39. 「第7回試行する美術「重曹する、浮遊。」展記録写真 1987年 個人蔵(S)
40. 『現代アートフェスティバル in SHIMIZU』(鈴与倉庫・日の出埠頭10号)カタログ(発行：「現代アートフェスティバル in 清水」実行委員会) 1987年 静岡市美術館
41. 『現代アートフェスティバル in SHIMIZU』記録写真 1987年 個人蔵(S)
42. 「A-Value」(静岡県立美術館県民ギャラリー)DM 1988年 個人蔵(TY)
43. 「A-Value」ポスター 1988年 個人蔵(S)
44. 「A-Value 展」カタログ(発行：A-Value 実行委員会) 1988年 静岡市美術館
45. 「A-Value 展」記録写真 1988年 個人蔵(S)
46. 「A-Value 展Ⅱ」(静岡県立美術館県民ギャラリー)ポスター 1989年 個人蔵(TY)
47. 「A-Value 展Ⅱ」カタログ(発行：A-ValueⅡ実行委員会) 1989年 静岡市美術館
48. 「A-Value 展Ⅱ」記録写真 1989年 個人蔵(S)
49. 「岐部琢美展：同時代の美術・鉄」(Live Messe 静岡ミサワホーム・アートギャラリー)DM 1989年 個人蔵(TY)
50. 「長船恒利展：コンピュータはアート」(生活創庫アピタ静岡 地下ホール)DM 1989年 個人蔵(TY)
51. A-Value 企画「水うさぎの遊泳—同時代の美術・長野」(Live Messe 静岡ミサワホーム・アートギャラリー)DM 1989年 個人蔵(TY)
52. 『A-Value 展資料集』(発行：長船恒利) 2003年 静岡市美術館

◆袋井駅前プロジェクト

53. 「赤レンガファイナル—社会・仮設的構築物・文字・音」DM 1989年 静岡市美術館
54. 「赤レンガファイナル—社会・仮設的構築物・文字・音」カタログ(発行：大杉弘子) 1989年 個人蔵

◆天地耕作

55. 『耕作だより』(No. 1-14) 1988-1994年 個人蔵(MM)
56. 「天地耕作計画」DM 1989年 個人蔵(MM)
57. 『天地耕作』 1989年 静岡市美術館
58. 天地耕作(谷下での制作)チラシ 1991年 個人蔵(MM)
59. 『天地耕作・式』 1992年 静岡市美術館
60. 天地耕作(オーストラリアでの制作)DM 1992年 個人蔵(MM)
61. 「天地耕作」『Contemporary Artists Review』No. 6(発行：株式会社スカイドア) 1992年 静岡市美術館
62. 「特集：野外アートの競演」『美術手帖』no. 661(1992年11月号)(発行：美術出版社) 1992年 静岡市美術館
63. 石田正「天地耕作とハイデガーの地、天、神、人、論」(発行：天地耕作

- 事務局) 1994年 静岡市美術館
64. 天地耕作(フィンランドでの制作)DM 1997年 個人蔵(MM)
65. E・S 研究会編『エコロジカル・スカルプチャーは可能か?』(発行: E・S 研究会事務局) 1997年 静岡市美術館
66. 川田都樹子「天地耕作のフィールドワーク」『美術手帖』no. 753(1998年3月号)(発行: 美術出版社)[複写資料] 1998年 静岡市美術館
67. 「表現ゼロワン 天地耕作」『静岡新聞』(2001年5月13日) 2001年 静岡市美術館
68. 「天地耕作、まで」(静岡文化芸術大学ギャラリー)チラシ 2003年 個人蔵(MM)
69. 『天地耕作・参』 2003年 個人蔵(MM)
70. 『四つの域、三つの対話』(発行: ギャラリー CAVE) 2014年 静岡市美術館

◆その他資料

71. 「第2回現代美術展」(常葉美術館)出品目録 1980年 個人蔵(TY)
72. 「第3回現代美術展」(常葉美術館)出品目録 1981年 個人蔵(TY)
73. 「art space '84」(静岡市民文化会館展示室)カタログ 1984年 個人蔵(TY)
74. 「art・art-10人の作家展-」(タカラ堂本店スペースアニュー)DM 1984年 個人蔵(TY)
75. 「静岡写真フォーラム'85」(静岡市民文化会館展示室)ポスター 1985年 個人蔵(S)
76. 「art space '85」(静岡市民文化会館展示室)カタログ 1985年 個人蔵(TY)
77. 『Gallery』(No. 1-24) 1985-87年 個人蔵(TY)
78. 『JUJU PHOTO SESSION 1977~1985 資料集』(発行: 長船恒利) 1985年 個人蔵(TY)
79. 『がすさろん』(No. 1-29) 1985-91年 個人蔵(TY)
80. 「HYPER BIT PHOTOGRAPHS」(静岡市民文化会館展示室)ポスター 1986年 個人蔵(S)
81. 「東西の風景画」カタログ(発行: 静岡県立美術館) 1986年 静岡市美術館
82. 「風景展」(清水市民文化会館)DM 1986年 個人蔵(TY)
83. 「風景展」(清水市民文化会館)ポスター 1986年 個人蔵(S)
84. 『「風景」展記録集』(発行: 「風景」展実行委員会) 1986年 個人蔵(TY)
85. 『「風景」展資料集』(発行: 「風景」展実行委員会) 1986年 個人蔵(TY)
86. 『「ART SPACE 1986」企画 講演 美術以後の美術 千葉成夫』(記録) 1986年 個人蔵(TY)
87. 『静岡の文化』第4号(発行: 財団法人静岡県文化財団) 1986年 静岡市美術館
88. 「写真・映像フォーラム'87 in 静岡」(静岡市民文化会館展示室)カタログ 1987年 個人蔵(TY)
89. 「写真・映像フォーラム'87 in 静岡」(静岡市民文化会館展示室)ポスター 1987年 個人蔵(TY)
90. 「NININSHOW [二人称]」(静岡市民文化会館展示室)DM 1987年 個人蔵(TY)
91. 「壮炎テーマ展」(由美画廊)DM 1988年 個人蔵(TY)
92. 「スペース'88 展」(生活創庫アピタ静岡地下ホール)DM 1988年 個人蔵(TY)
93. 『アパルトヘイト否! 国際美術展1988-1990 作品鑑賞の手引』(発行: アパルトヘイト否! 国際美術展実行委員会) 1988年 個人蔵(TY)
94. 「アパルトヘイト否! 国際美術展1988-1990 静岡・清水展」チラシ 1989年 個人蔵(TY)
95. 「アパルトヘイトに否!」15人の画家によるアートポスター展」DM 1989年 個人蔵(TY)

96. 「アパルトヘイト否! 国際美術展」カタログ(第3版)(発行: 現代企画室) 1989年 個人蔵(I)
97. 「アパルトヘイト否! 国際美術展1988-1990 静岡・清水展」リーフレット(発行: アパルトヘイト否! 国際美術展 静岡・清水展実行委員会) 1989年 個人蔵(TY)
98. 「PHOTO SESSION 展」(静岡県立美術館県民ギャラリー)DM 1989年 個人蔵(TY)
99. 『県内美術の現況展Ⅱ』(発行: 静岡県立美術館) 1990年 静岡市美術館
100. 『PHOTO SESSION FILE 全記録』(発行: PHOTO SESSION 事務局) 1990年 個人蔵(TY)
101. 『静岡100周年事業 イベント記録集』(発行: 静岡100年委員会) 1990年 静岡市美術館



主要広報記録：

◆新聞

・「『自由』満喫した80年代アート 横尾忠則、日比野克彦…静岡市美術館で企画展」『産経新聞』静岡版、2月16日。
・菊池真生「80年代県内アート 後世に 貴重な資料で振り返る」『静岡新聞』、3月20日。

◆雑誌他

・樫木野衣「泡と砂のなかの80年代 「起点としての80年代」、
「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」、「バブルラップ」、「アーカイヴ／1980年代－静岡」展」『美術手帖』、2019年4月号。
・伊藤鮎「ビジュアルでたどる80年代アート・クロニクル」『美術手帖』、2019年6月号。

◆ウェブサイト等

「アートアジェンダ」、「アットエス」、「Japan Design Net」、「ホルベインアーティストナビ」、「静岡信用金庫LINE配信」

カタログ：

<仕様>297mm×210mm、16頁



カタログ表紙

カラー図版10点、モノクロ図版37点

伊藤鮎「80年代－静岡の一風景から」
主要参考文献／出品リスト／関連年表

編集・発行：静岡市美術館
発行年：2019年

2)Shizubi シネマアワー

(1)Shizubi シネマアワー vol.22

「ベル・エポックのバイオリンたち」

概要：美術館ならではのテーマとセレクトで映画上映を行う、Shizubiシネマアワーの22回目。「ヴラマンク展」にあわせ、ヴラマンクと同時代に生き、ダンスと映画において先駆的な活動をしたロイ・フラールとリュミエール兄弟をテーマとした映画を上映した。

日時：①9月8日(土) ②9月9日(日)
いずれも14:00－(開場 13:30)

上映内容：

- ①『ザ・ダンサー』(ステファニー・ディ・ジュースト監督/2016年/フランス・ベルギー /108分)
- ②『リュミエール!』(ティエリー・フレモー監督/2016年/フランス/90分)

会場：多目的室 参加者数：①39人 ②30人
参加料：いずれも500円
企画協力：(株)サルナートホール

(2)Shizubi シネマアワー vol.23

「グラフィティ」

概要：開催中の「起点としての80年代」展にあわせ、80年代以降ニューヨークから世界中に広がったグラフィティ文化に焦点をあてた2本の映画を上映した。

日時：①3月2日(土) ②3月3日(日)
いずれも14:00－(開場 13:30)

上映内容：

- ①『ワイルド・スタイル』(チャーリー・エーハン監督/1982年/アメリカ/82分)
- ②『バスキア、10代最後のとき』(サラ・ドライバー監督/2017年/アメリカ/79分)

会場：多目的室 参加者数：①14人 ②43人
参加料：いずれも500円
企画協力：(株)サルナートホール

告知チラシ (当館作成)

Shizubi シネマアワー vol.22
「ベル・エポックのバイオリンたち」

概要：美術館ならではのテーマとセレクトで映画上映を行う、Shizubiシネマアワーの22回目。「ヴラマンク展」にあわせ、ヴラマンクと同時代に生き、ダンスと映画において先駆的な活動をしたロイ・フラールとリュミエール兄弟をテーマとした映画を上映した。

日時：①9月8日(土) ②9月9日(日)
いずれも14:00－(開場 13:30)

上映内容：
①『ザ・ダンサー』(ステファニー・ディ・ジュースト監督/2016年/フランス・ベルギー /108分)
②『リュミエール!』(ティエリー・フレモー監督/2016年/フランス/90分)

会場：多目的室 参加者数：①39人 ②30人
参加料：いずれも500円
企画協力：(株)サルナートホール

告知チラシ (当館作成)

告知チラシ (当館作成)

Shizubi シネマアワー vol.23
「グラフィティ」

概要：開催中の「起点としての80年代」展にあわせ、80年代以降ニューヨークから世界中に広がったグラフィティ文化に焦点をあてた2本の映画を上映した。

日時：①3月2日(土) ②3月3日(日)
いずれも14:00－(開場 13:30)

上映内容：
①『ワイルド・スタイル』(チャーリー・エーハン監督/1982年/アメリカ/82分)
②『バスキア、10代最後のとき』(サラ・ドライバー監督/2017年/アメリカ/79分)

会場：多目的室 参加者数：①14人 ②43人
参加料：いずれも500円
企画協力：(株)サルナートホール

告知チラシ (当館作成)

3)2020しずおか文化プロジェクト

しずびオープンアトリエ

概要：春・夏の年2回、開催中の展覧会にあわせて実施する、鑑賞と創作が一体となったオリジナルワークショップ。地元の大学生による「学生ボランティア」が制作をサポートする。

(1)「ヴラマンクの絵のタッチに挑戦しよう！」

概要：「ヴラマンク展」にあわせ、ヴラマンクの《サイロ》の麦畑を描き、タッチの再現に挑戦した。使用する絵の具を指定し、塗分けのガイドラインを示した用紙に長いストロークで勢いよく筆を動かして描き、うねるようなタッチの再現を試みた。引っ掻いたような麦の表現には、割りばしを用いた。展覧会鑑賞とあわせた参加者も多かった。

日時：8月7日(火)－19日(日)

いずれも ①13:30－ ②15:00－

(各回約1時間、計12日間・24回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計176人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)

主要広報記録：

◆テレビ

・「静岡市美術館 画家ヴラマンクの画法を体験」Daiichi-TV

『FRONT ZERO』、8月15日放送。

◆雑誌

・「静岡市美術館 夏の教育普及プログラム」『教育美術』、7月号。



(2)「粘土で夢殿の仲間をつくろう！」

概要：「起点としての80年代」展にあわせ、中原浩大氏の巨大な彫刻《夢殿》の仲間を制作した。冒頭のレクチャーは、作品の前に移動し実施した。皆で《夢殿》が何に見えるかを考え、それを言葉にしながら鑑賞する行為は、自然と鑑賞と創作活動を結びつけることにつながった。材料は可塑性に優れた土粘土を使用。参加者は《夢殿》を参考に、目や口などのパーツはつくらずに、生き物を彷彿とさせる形を表現した。成形後、《夢殿》の表面を覆う指の跡を参考に、参加者も作品にテクスチュアをつけた。

日時：2月16日(土)－3月17日(日)の毎週土曜・日曜日

いずれも ①13:30－ ②15:00－

(各回約1時間、計10日間・20回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計207人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)



4)2020しずおか文化プロジェクト

しずびちビッコプログラム

概要：2歳以上の未就学児を対象とした、鑑賞に基づく制作プログラム。保護者は展覧会を見学する。展覧会毎に様々なアプローチで未就学児の表現の可能性に迫っている。市内保育支援団体の協力を得て実施。(保護者は要観覧券)

(1)「いつだって猫展」

概要：「いつだって猫展」関連事業の絵付けワークショップを未就学児向けにアレンジし実施。《花巻人形》を参考に、大きな前垂れと色鮮やかな花模様をあしらった素朴な仕上がりを目指した。未就学児でも細やかな絵付けができるよう、絵筆による作業を極力減らして綿棒を多用し、工程ごとに使用する部位や方法を示したことで、質の高い作品を制作することができた。

日時：5月19日(日)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計20人

参加料：子ども1人につき500円



(2)「ミュシャ展 ～運命の女たち～」

概要：ミュシャのリトグラフ作品を模写し、台所にある身近な材料でリトグラフの技法を追体験した。参加者はアルミホイルに油性の描画材で作品のアウトラインをトレースし、各々が考えた文様でその周りに装飾を施した。その後アルミホイルにコーラをかけ、2枚ずつ作品を刷った。この方法は、実際と同じように水と油の反発作用を利用したものであるが、薬品等は一切使用しないため、未就学児でも安全かつ短時間で制作することができた。

日時：7月1日(日)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計22人

参加料：子ども1人につき500円



(3)「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」

概要：オープンアトリエと同様の手法でヴラマンクの《サイロ》の麦畑の表現に挑戦。長いストロークで勢いよく筆を動かして、うねるようなタッチに近づけた。取り付けた厚紙の額縁には金色の絵の具で参加者が思い思いの模様を描き、作品の重厚さを引き立たせた。

日時：9月15日(土)・16日(日)

いずれも ①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計40人

参加料：子ども1人につき500円



(4)「セーヴル、創造の300年」

概要：出品作品のポプリ壺《ボンパドゥール》をもとに、プラバンに作品を写し取り、オーブントースターで焼成して仕上げた。図版で作品の特徴を確認した後、金色の油性ペンを用い、金彩の文様を写し取った。ベースとなる紫色と白色は裏面からアクリル絵の具で着彩した。これにより、焼成後には実際の作品同様、金彩の盛り上がりを紫地の上に再現することができた。

日時：11月24日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計17人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆テレビ

・「ヨーロッパの宮廷磁器 セーヴル展 子供たちブローチ作り」
テレビ静岡『FNNプライムニュースしずおか』、11月24日放送。



(5)「起点としての80年代」

概要：春のオープンアトリエの内容を未就学児向けにアレンジし実施。中原浩大の巨大な彫刻《夢殿》をもとに、粘土で《夢殿》の仲間を制作した。《夢殿》を作品図版で鑑賞し、各々が作品から受ける印象を共有した後、「つの」や「あたま」があること、もようが付いていること等の特徴を確認して制作に移った。比較的柔らかい粘土を用い、それぞれに思い描くかたちを目指して制作した。テクスチュアをつけるための道具を配布すると集中度がぐっと増し、大胆に穴を開けたり、繊細に細かな模様をつけるなど、様々な表現が見られた。最後に作品を前に皆で集まり、各自が作品につけた名前も含めて、作品の鑑賞を楽しんだ。

日時：3月21日(木・祝)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計20人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「粘土アートに挑戦 葵区で子供向け講座」『静岡新聞』、3月22日。



5)2020しずおか文化プロジェクト

暦とあそぶワークショップ

概要：祭事や年中行事を通して季節を感じ、それをかたちにするワークショップシリーズ。暦の本来の意味や歴史を学びながら制作する。

(1)暦とあそぶワークショップvol.16

「こどもの日の準備をしよう！」

概要：端午の節句にあわせ、キャンバス地を着色してオリジナルの鯉のぼりを制作した。過去2度にわたり実施して好評を得た内容だが、鯉のぼりのシルエットや成形方法を見直して実施した。冒頭では、端午の節句の歴史や、鯉のぼりの初出や由来などをスライドを元に解説し、また、過去の参加者の作品画像も紹介したほか、江戸期から現代に至るまでの鯉のぼりの作例をまとめたシートも配布し、制作の参考とした。

日時：4月28日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上の子と親 10組21人

参加料：1人につき500円



主要広報記録：

◆テレビ

・「5月5日の子供の日まえに 鯉のぼりづくりに挑戦!!」テレビ静岡『FNNプライムニュースしずおか』、4月28日放送。

(2) 暦とあそぶワークショップvol.17

「ひな祭りの準備をしよう！」

概要：ひな祭りにあわせ、雛人形の最初の形態である立雛を参考に、オリジナルの立雛を制作した。冒頭でひな祭りの由来や歴史、雛人形の変遷などを紹介。その後、予め用意したつくり方ガイドに沿って男雛、女雛の2体をそれぞれ制作した。頭は桐塑の代わりに球体の発砲スチロールを用いたほか、衣は、立雛の例にあるように厚紙に布張りしてつくり、その上から金色を混ぜた絵の具で着色して着物の光沢感を表した。さらに絵の具やペンで思い思いの吉祥文様を描き、オリジナルの着物柄に仕上げた。襟の重なりはマスキングテープで、帯は真田紐を使用して細部の質を高め、それぞれ個性ある立雛が完成した。

日時：2月11日(月・祝)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 22人

参加料：1人につき500円

主要広報記録：

◆テレビ

・「桃の節句を前に 祭りの起源 立雛づくり」テレビ静岡『FNNプライムニュースしずおか』、2月11日放送。



6) 2020しずおか文化プロジェクト

プレゼントワークショップ

概要：子どもたちの創作意欲の原点である、家族や大切な人への想いをかたちにし、プレゼントをつくる、という行為に焦点を当て、記念日にあわせて実施。プレゼントを「つくって、贈る」ことから生まれるコミュニケーションに主眼を置く。

(1) プレゼントワークショップvol.24

「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」

概要：母と子で母親の姿の壁飾りをオリジナルの色紙でつくり、UVレジン(紫外線硬化樹脂)でコーティングして仕上げた。冒頭では、人工樹脂のUVレジンについて、身の回りにある事例なども交えながら説明したほか、うるしや琥珀などの天然樹脂も紹介した。その後、母親の顔をよく観察しながら下絵を描き、姿をかたちづくるための色紙を制作した。厚手の紙に2色以上の絵の具をスポンジで塗布し、複雑な色味の仕上がりを狙った。制作工程には、目や口など小さなパーツのカットなど細かい作業も多く、親子で協力して作品を完成させた。

日時：5月13日(日)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生とその母 8組17人

参加料：1人につき500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・「母親モデルに壁飾り 児童、感謝を込め作製」『静岡新聞』、5月14日。



(2)プレゼントワークショップvol.25

「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」

概要：父と子で父親の姿の壁飾りをオリジナルの色紙で作り、UVレジンでコーティングして仕上げた。冒頭では父の日の由来のほか、母の日のワークショップと同様に、UVレジンの特徴や身の回りにある事例などをスライドで紹介した。その後、父親の顔の下絵づくりを行った。子どもたちが描いた下絵は、父親の顔をじっくり観察し、緻密なタッチで描いたものが多く、デッサンとしても完成度の高い仕上がりが目立った。オリジナルの色紙制作後のパーツカット作業では、父親がカッターを駆使して細かなパーツを切り抜いた。中にはひげを表現するためにゴマ粒ほどのパーツをいくつも切り、親子で協力して丁寧に貼り込む姿もあった。

日時：6月17日(日)13:00～16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生とその父 8組18人

参加料：1人につき500円(材料費含む)



(3)プレゼントワークショップvol.26

「クリスマスの準備をしよう！」

概要：クリスマスにあわせ、オリジナルの手漉き紙でクリスマスカードを制作した。目の粗さを調整した手づくりの漉き枠を用意し、各自ベースとなる紙を漉いた後、その上に手で成形したパルプを配置し絵を描いた。冒頭のレクチャーでは、クリスマスの由来をキリスト教絵画の中から探ったほか、日本のクリスマス受容史を紹介した。大人編では、パーツ制作につまようじを使用し細密に表現するなど、クオリティの高い作品が数多くみられた。

日時：①子ども編 12月8日(土)

②大人編 12月9日(日)

いずれも 13:00～16:30

会場：いずれも ワークショップ室

対象・参加者数：①小学生19人 ②中学生以上16人

参加料：いずれも 1人につき500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・大滝麻衣「Xマスカード 手すきでつくる 小学生向けに体験教室 きょうは中学生」『静岡新聞』、12月9日。



子ども編



大人編

7)夜店市

概要：中央商店街恒例のイベント「夜店市」に、財団事務局と共同で出店。当館ブースでは「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」、「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」展のチケット、当館オリジナル虹色鉛筆等を販売し、美術館の広報に努めた。また27年度より販売している地元企業のAOI BREWINGが醸造したオリジナルビールも醸造、販売した。

日時：8月10日(金)・11日(土・祝)・12日(日)

いずれも 16:00-21:00

場所：葵区紺屋町名店街「札幌かに本家」前「小梳神社」側

販売物：「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」当日券、「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」展前売券、静岡市美術館オリジナル虹色鉛筆、同マスキングテープ、同缶バッジ、くるくるレインボー、スパークリングボタン、オリジナルビール「あわい」、「くるり」

※チケット・グッズ購入者には、スピードくじを実施した。

製作物：

◆うちわ

<仕様>

サイズ：直径185mm 縦275mm (柄付き)

印刷：両面オフセット4色印刷 ニス引き

枚数：9,000部



うちわ A面



うちわ B面



3-2 連携事業

1)ミュージアム教室・展示解説

概要：当館では、学校や生涯学習センター等からの団体を対象にして、展覧会担当学芸員が直接解説する鑑賞教室に力を入れている。幼稚園・保育園児～高校生については、子どもたちと当館学芸員等が対話形式で展覧会鑑賞を行う「ミュージアム教室」として実施。子どもたち自身が作品の魅力を発見し、考えるよう促すことで、美術を身近で楽しいものと感じることを目指すとともに、美術館でのマナーも学習することを目的とする。大学・専門学校生、および生涯学習センター・生涯学習交流館等の事業参加者については、展覧会の見どころを中心とした「展示解説」として実施している。



対象：＜ミュージアム教室＞幼稚園・保育園児～高校生

＜展示解説＞大学生・専門学校生～一般

実施内容・所要時間(共通)：

スタッフの解説30分＋自由鑑賞30分 計60分

利用状況：

◆ミュージアム教室利用状況

	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校 特別支援学級		児童クラブ 等		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
いつだって猫展	0	0	0	0	11	328	3	47	0	0	0	0	14	375
ミュシャ展 ～運命の女たち～	0	0	2	109	12	285	15	403	1	12	0	0	30	809
ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	0	0	0	0	8	187	6	62	0	0	0	0	14	249
フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	0	0	1	104	6	124	5	77	2	41	0	0	14	346
起点としての80年代	0	0	0	0	8	410	5	78	0	0	0	0	13	488
計	0	0	3	213	45	1,334	34	667	3	53	0	0	85	2,267

計 85団体 2,267人

◆展示解説利用状況

	大学・専門学校		生涯学習センター 生涯学習交流館		その他		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
いつだって猫展	0	0	1	6	2	26	3	32
ミュシャ展 ～運命の女たち～	8	288	0	0	0	0	8	288
ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	0	0	0	0	1	36	1	36
フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	0	0	3	125	0	0	3	125
起点としての80年代	0	0	2	73	0	0	2	73
計	8	288	6	204	3	62	17	554

計 17団体 554人

2)2020しずおか文化プロジェクト/静岡市「まちは劇場」プロジェクト めぐりアート静岡2018

4つの会場をめぐる、アートの散策。

概要：「めぐりアート静岡」は、静岡大学「アートマネジメント力育成事業」美術分野実習として始まり、その後静岡市内の様々な場所を会場に、今を生きるアートを紹介する展覧会として年に1回開催している。今回は「4つの会場をめぐる、アートの散策。」と題し、静岡のさまざまな地をめぐりながら、それぞれの方法でアートのありかたを問いなおす8名の表現を紹介した。当館では清水出身でイタリア、カッラーラ在住の彫刻家で、国内で発表機会の少ない杉山功氏の大理石彫刻を展示した。またJR東静岡駅前の「アート&スポーツ/ヒロバ」での、彫刻家・岩野勝人の「コンテナ・アートベース」プロジェクトのキュレーションも担当、コンテナ内壁面が黒板となり、外にマウンテンゴリラが登場するなど、好評を博した。会期中は「スタンプラリー」も実施し、4つの会場すべてのスタンプを集めた先着100人に、オリジナルの「めぐりノート」をプレゼントした。

会期：10月23日(火)～11月25日(日)＜※当館＞

会場：①当館エントランスホール ②東静岡アート&スポーツ/ヒロバ(10月20日(土)～11月11日(日)) ③静岡県立美術館(10月23日(火)～11月11日(日)) ④中勘助文学記念館(10月23日(火)～11月11日(日))

出品作家：①杉山功 ②白砂勝敏、岩野勝人、千葉広一、石上和弘、木下琢朗 ③鈴木諒一 ④ノエル・エル・ファロル

来場者数：19,438人(当館分のみ)

出品リスト(当館分のみ)：

作者名はすべて 杉山功

①《SANTUARIO No.114》1996年 大理石／②《SANTUARIO No.242》2005年 大理石、木／③《SANTUARIO No.320》2011年 大理石、木／④《SANTUARIO No.369》2013年 大理石、木／⑤《SANTUARIO No.400》2016年 大理石／⑥《SANTUARIO No.412》2017年 大理石／⑦《SANTUARIO No.417》2017年 トラバーチン／⑧《SANTUARIO No.420》2017年 大理石／⑨《SANTUARIO No.424》2018 大理石／⑩《SANTUARIO No.425》2018年 大理石、グラナイト／⑪《SANTUARIO No.124》1996年 大理石／⑫《SANTUARIO No.363》2013年 大理石／⑬《SANTUARIO Piccolo》2004年 大理石

主要広報記録：

◆テレビ

・「みーつけた：ヒロバでアートを」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、10月26日放送。

◆新聞

・菊地真生「県内ゆかり彫刻、演奏、美術家8人 アート彩る街中探訪 11日まで静岡市内4会場」『静岡新聞』、10月30日。

◆雑誌等

・「10月23日～11月11日 めぐりアート静岡2018 東静岡アート&スポーツ/ヒロバにはゴリラ登場」『リビング静岡』、10月6日。
・「めぐりアート静岡 11月11日まで 4つの会場をめぐるアートの散策」『リビング静岡』、10月27日。

◆ウェブサイト(媒体名のみ記載)

「ウェブ版美術手帖」、「アットエス」

制作物：

◆チラシ(静岡大学作成)

＜仕様＞

サイズ・加工：626×299mm(巻3つ折り 仕上A4)



チラシ表面



チラシ中面

◆記録集

＜仕様＞A4版、43頁



記録集 表紙

ごあいさつ／作家紹介／アーティスト・インタビュー／来場者の声／成果と課題 等

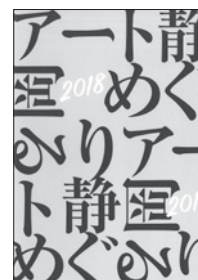
編集：白井嘉尚、以倉新、植松篤、川谷承子、名倉達了、平野雅彦、堀切正人、柚木康裕

発行：国立大学法人 静岡大学

発行年：2019年

◆オリジナルノート

＜仕様＞B5判



関連事業：

◆アーティストトーク

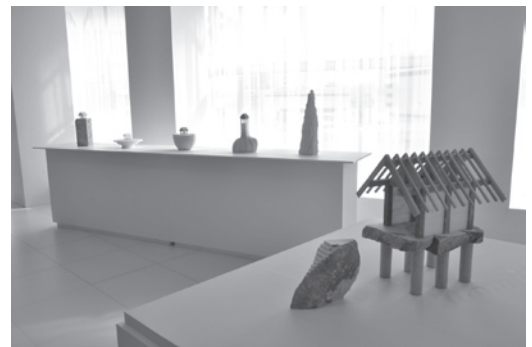
概要：出品作家による作品解説。作者が自作について語り、会場からの質問に答えた。作品に自ずと込められた、イタリアと日本の文化的違いなどを、生活のエピソードも交えながら、具体的に聞くことができた。

日時：11月25日(日)14:00-14:30

会場：エントランスホール

参加者数：43人

講師：杉山功氏(出品作家)



3)生涯学習センター・静岡市美術館連携事業

「しずび出前講座」

概要：「しずび出前講座」は、開催中の展覧会にかかわらず、生涯学習センターに当館学芸員を講師として派遣し、座学やワークショップを実施する連携講座。本年度は座学8講座、ワークショップ2講座を実施した。

<講義>

①薬科生涯学習センター

「近代美術の中の猫 日本画を中心に」

概要：江戸時代の浮世絵を中心とした「いつだって猫展」の開催にちなみ、菱田春草、竹内栖鳳、竹久夢二を中心に、近代における猫の表現について講義し、古今東西様々な猫の表現があることを指摘した。なお本講座の2回目として「いつだって猫展」の鑑賞を実施した。

日時：①4月28日(土)10:00-11:30 ②5月13日(土)9:30-10:30

会場：①薬科生涯学習センター ②当館 参加者数：計14人

講師：山本香瑞子(①のみ)

②高齢者学級みのり大学東部学級での講義

「近代美術の中の猫 日本画を中心に」

概要：「いつだって猫展」の開催にちなみ実施。薬科生涯学習センターでの同名の講座内容を踏まえ、近代における猫の表現を中心に解説した。

日時：5月8日(火)10:00-11:30

会場：東部生涯学習センター 参加者数：82人

講師：山本香瑞子

③講演会「桃山時代の絵画―狩野永徳と長谷川等伯―」

概要：桃山時代の障壁画の名手、天下人のための画を描き続けた狩野永徳と、その後を追従した長谷川等伯の人生と画業を比較した。永徳の唐獅子図と等伯の松林図については特にその造形的特徴について比較しながら紹介した。

日時：5月23日(水)10:00-11:30

会場：西部生涯学習センター 参加者数：41人

講師：吉田恵理

④講演会「宗達と光琳」

概要：俵屋宗達「風神雷神図屏風」と尾形光琳「紅白梅図屏風」を中心に作品を比較し、それぞれの本質と魅力について解説した。また描き継がれた風神雷神図にもふれ、光琳が宗達をいかに尊敬していたのか、画派ではなく私淑による琳派のカテゴリーについても概説した。

日時：6月24日(日)14:00-16:00

会場：北部生涯学習センター 参加者数：30人

講師：吉田恵理

⑤高齢者学級みのり大学大里学級での講義

「名のある風景、名のない山水(信仰と絵画)」

概要：描かれた富士山を、古代中世の絵画から近世近代の絵画へその変遷をたどりつつ紹介した。江戸の人にとって憧れであったことを富士山信仰や「おふじさん」とともに紹介し、霊山としての富士山、真景としての富士山を概観した。

日時：7月5日(木)13:30-15:30

会場：大里生涯学習センター 参加者数：37人

講師：吉田恵理

⑥高齢者学級みのり大学長田学級での講義

「北斎と広重」

概要：風景画の名手と並び称される葛飾北斎と歌川広重。大胆な構図で風景を描いた北斎と、抒情性豊かに名所を描いた広重とその作風は大きく異なる。本講座では花鳥画や風景版画など代表作を中心に、それぞれの魅力を紹介した。

日時：11月30日(金)9:45－11:30

会場：長田生涯学習センター **参加者数：**97人

講師：大石沙織

⑦高齢者学級みのり大学西部学級での講義

「北斎と広重」

概要：風景画の名手と並び称されながらも、その作風は大きく異なる葛飾北斎と歌川広重の代表作を紹介。それぞれの魅力を解説した。浮世絵に関心の高い参加者も多くみられた。

日時：12月6日(木)9:30－11:30

会場：西部生涯学習センター **参加者数：**73人

講師：大石沙織

⑧「起点としての80年代」展を観に行こう！

概要：開催中の「起点としての80年代」展にあわせ実施。1回目は1980年代の日本美術の動向や、展覧会出品作品の解説を座学で行った。2回目は当館での展覧会鑑賞を実施、スライド解説では把握できなかった実際の作品の大きさや質感等を把握することができた等、参加者から好評を得た。

日時：①1月29日(火) ②2月5日(火)

いずれも14:00－16:00

会場：西奈生涯学習センター **参加者数：**計16人

講師：伊藤 鮎

<ワークショップ>

①出張！しずびちビッコプログラム

「親子でエコバックをつくろう」

概要：平成24年度に実施したフィンランド展「しずびちビッコプログラム」をもとに、未就学児の親子向けにアレンジした内容を実施。折り畳んだラベルシートをハサミで切ったパターンを型紙に使用し、エコバックを着色して仕上げた。

日時：7月21日(土)10:30－12:00

会場：大里生涯学習センター

対象・参加者数：2歳以上の未就学児とその保護者 10組20人

講師：太田紗世

②出張！しずびちビッコプログラム

「自分だけのエコバックをつくろう！」

概要：大里生涯学習センターで開催したものと同一のプログラム。冒頭では、北欧のファブリックの例をクイズ形式で紹介しながら制作への興味関心を引き出した。エコバックの着色では、2色の絵の具を混ぜてグラデーションの変化を楽しんだ。

日時：7月28日(土)10:30－12:00

会場：東部生涯学習センター

対象・参加者数：2歳以上の未就学児とその保護者 7組14人

講師：太田紗世

4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)

概要：JR静岡駅前に位置する静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館が特徴を活かして、音楽、科学、美術の境界を越え、総合的な文化空間の創造を目指して連携実施する事業。本年度は2事業を実施した。

(1) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

科学茶房「動物のこころカフェ」

概要：「いつだって猫展」にあわせ、静岡科学館る・く・るの主催で実施。講師の研究を踏まえ、人と猫のコミュニケーションについて解説したほか、展覧会出品作品をもとに、描かれている猫と実際の行動の比較も行われた。その他、犬や猫の比較認知学の研究も紹介された。

日時：4月22日(日)13:00－15:00

会場：静岡科学館る・く・る **参加者数：**31人

講師：齋藤慈子氏(上智大学准教授)

(2) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/静岡室内楽フェスティバル2018

ミュージアムコンサート「気軽にモーツァルト」

※33頁を参照。

5)2020しずおか文化プロジェクト

概要：2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典だけでなく、文化の祭典でもあり、世界中の注目が集まっている。当館を指定管理する(公財)静岡市文化振興財団でも2020年に向け、これまで培ってきた文化に関する様々な知見やネットワークを活かし、文化振興のみならず、文化による地域や社会課題への対応についても取り組むこととし、「しずおか文化」の発信「次世代育成と新たな文化芸術の創造」あらゆる人の参加・交流と地域の活性化」という3点を主軸にした文化プログラムを展開している。本年当館では延べ5事業を開催した。

ロゴマーク：



6)その他施設との連携

(1)Kids Art Project Shizuoka

概要：平成30年4月～平成31年3月末まで、「Kids Art Project Shizuoka 実行委員会」に参画、県内の小学生全児童に参加各館のオリジナルスタンプを集めるスタンプラリー付の「しずおかミュージアムパスポート」を配布した。

実施期間：4月1日(日)～3月31日(日)

対象：静岡県内の全小学生(510校・約19万人)

加盟館：静岡県内の美術館・博物館 計36館

利用者数(当館分のみ)：382人

(2)JR東海「トレイン&ミュージアム」

概要：JR東海が企画した、電車を利用して、静岡県および山梨県にある全11館の美術館をめぐるスタンプラリー「トレイン&ミュージアム」へ協力。パンフレット持参の来館者には当館オリジナルクリアファイルを進呈した。

実施期間：7月13日(金)～12月9日(日)

利用者数(当館分)：585人

主要広報記録：

◆新聞

・「JR東海「施設巡り」企画 きょうから割引や記念品」『静岡新聞』、7月13日。

(3)浜松市楽器博物館におけるワークショップへの開催協力

概要：当館において過去企画・実施した羊毛フェルトを用いたプログラムをもとに、浜松市楽器博物館のワークショップに協力。当館普及担当学芸員が講師を務め、同館が所蔵する世界のさまざまな楽器を羊毛で描いた。

日時：10月28日(日)13:30～16:30

会場：アクトシティ浜松研修交流センター

対象・参加者数：小学生の親子 11組22人

講師：安岡真理・太田紗世(いずれも当館学芸員)

(1)2020しずおか文化プロジェクト

しずびオープンアトリエ

※49頁を参照。

(2)2020しずおか文化プロジェクト

しずびチビッコプログラム

※50～51頁を参照。

(3)2020しずおか文化プロジェクト

「暦とあそびワークショップ」

※51～52頁を参照。

(4)2020しずおか文化プロジェクト

「プレゼントワークショップ」

※52～53頁を参照。

(5)2020しずおか文化プロジェクト

めぐりアート静岡2018 4つの会場をめぐる、アートの散策。

※56～57頁を参照。



パンフレット表紙

主要広報記録：

◆雑誌

・「親子ワークショップ 羊毛フェルトで楽器の絵を描こう」『静岡県博物館協会研究紀要』第42号、2019年。

4. 受託事業等

4-1 受託事業等

1) 「旧五十嵐邸・竹久夢二」展

概要：静岡市美術館が所蔵する、竹久夢二作品(志田コレクション)を、夢二と同時代に建てられた国登録有形文化財の旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)で展示する、毎年恒例の展覧会。今年度は肉筆画2点を含む6点で夢二作品の魅力を紹介した。

会期：10月11日(木)～14日(日)

会場：旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)

来場者数：218人

展示内容：志田コレクションより

1. 竹久夢二筆《草に憩う女》大正初期、絹本着色
2. 竹久夢二筆《羽衣(セノオ楽譜原画)》大正13(1924)年頃、紙・水彩
3. 竹久夢二装画《セノオ楽譜12番「お江戸日本橋」》大正5(1916)年初版/大正13(1924)年6版、紙・石版
4. 竹久夢二装画《中山晋平作品全集「毬と殿様」》昭和5(1930)年、紙・木版
5. 竹久夢二装画《中山晋平作品全集「波浮の港」》昭和5(1930)年、紙・木版
6. 竹久夢二装画《夢二名作集 第八回「宵待草」》昭和13-14(1938-39)年、紙・木版

計6点

主要広報記録：

◆新聞

・「清水区 旧五十嵐邸で竹久夢二展」『静岡新聞』、10月12日。



2) 静岡市清水文化会館マリナート常設展示

「平野富山ー清水が生んだ彩色木彫の名匠」

概要：今年度で7年目となる静岡市清水文化会館マリナートにおける、彩色木彫家・平野富山の常設展示。静岡市が収蔵する富山作品(彩色木彫35点、塑像等約35点、書2点)と富山の収集品454件を活用し、各期テーマを設けて年3回の展示を行った。また、それに係る保存管理、調査研究もあわせて実施した。

テーマおよび会期：

【第1期】富山の西洋彫刻へのまなざし 7月～10月

【第2期】新収蔵品紹介ー雛人形 11月～2月

【第3期】富山と平櫛田中の交流ー田中作品の彩色の仕事をと
おして 3月～6月

会場：静岡市清水文化会館マリナート 1階ギャラリー隣
平野富山常設展示コーナー



第2期



第1期



第3期

作品リスト：

【第1期】テーマ：富山の西洋彫刻へのまなざし

平野富山が塑造による人体彫刻も手掛けていた事に注目し、市が所蔵する塑像(FRP)のほか、市内各所に設置されたブロンズ像を調査し、その写真図版を資料展示した。また、彩色木彫による裸婦像や、日展出品作の塑像を元にした彩色木彫作品などもあわせて展示し、富山が向けた西洋彫刻へのまなざしを探った。

1. 平野富山《母子順風》昭和55年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《マフラーの女》昭和59年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《顔》昭和40年代、ブロンズレリーフ、静岡市
4. 平野富山(敬吉)《しづか》※第6回改組日展出品、昭和49年、FRP、静岡市
5. 平野富山(敬吉)《ボデー・ビルダー》※第11回新日展出品、昭和30年、FRP、静岡市

【第2期】テーマ：新収蔵品紹介－雛人形

今年8月に新収蔵となった《稚児雛》をお披露目展示した。同作は、内裏雛、官女や五人囃などの決まり物に、舞楽人形が加わった総数 19点の雛人形で、約90年間個人宅で愛蔵されていた。いずれの作品にも、富山の初期の号「鋏國」の刻銘や墨書が確認でき、鋏國時代の代表作と言える。なお、お披露目展示に伴い、地元新聞社による取材を受け、市民に広く周知する機会となった。

1. 平野富山《稚児雛》昭和初期、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《神猿》昭和56年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山(敬吉)《おもがえり》※第4回改組日展出品、昭和47年、FRP、静岡市

主要広報記録：

◆新聞

・福島未来「『稚児雛』 昭和をまとい 彩色木彫家・平野さん制作 清水で展示」『中日新聞』静岡版、12月23日。

【第3期】テーマ：富山と平櫛田中の交流－田中作品の彩色の仕事をととして

富山が生涯の師と仰いだ日本近代木彫の巨匠・平櫛田中との関係に注目した。富山は、自らの制作と並行して平櫛田中の代表作《鏡獅子》(国立劇場展観)をはじめ、田中作品の彩色のほとんどを担当したことで知られている。展示では、富山の彩色木彫《鏡獅子》のほか、富山が手がけた田中の作品図版なども資料として紹介。その他、富山初の作品集『平野富山木彫作品集』(講談社)に寄せられた題字の原本である田中の書《集雅》も展示し、富山と田中の交流の一端に触れた。

1. 平野富山《福童子》昭和24年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《福寿恵比寿尊像》昭和47年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《福寿大黒天尊像》昭和47年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《良寛》昭和55年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《鏡獅子》昭和55年、彩色木彫、静岡市
6. 平野富山(敬吉)《楽園》※第7回新日展出品、昭和47年、FRP、静岡市
7. 平櫛田中《集雅》紙本墨書、静岡市

5. 調査研究・研修受入等

5-1 調査研究

平成30年度中に当館職員が行った、館外での主な活動および執筆・寄稿等は下記のとおりである。

●田中豊稲

＜館外での活動＞

- ・静岡市文化振興審議会委員
- ・文化庁美術品国家補償制度部会会長

●以倉新

＜館外での活動＞

- ・静岡県立美術館 専門評価員(11月29日)
- ・静岡大学アートマネジメント力育成事業実習「めぐるりアート静岡」展企画運営
- ＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
 - ・「起点としての80年代」カタログ編集、「80年代についての一考察」執筆、「Ⅱ. 日常とひそやかに」章解説執筆、「辰野登恵子」「今村源」作家解説執筆。
 - ・「めぐるりアート静岡2018 4つの会場をめぐる、アートの散策。」記録集編集、作家紹介「岩野勝人」「杉山功」および「成果と課題：海外在住作家の招聘」執筆、「めぐるりアート静岡 4つの会場をめぐる、アートの散策」静岡大学。

●吉田恵理

＜館外での活動＞

- ・静岡県文化財保護審議会委員
- ＜研究発表・論文＞
 - ・吉田恵理「江戸絵画史における白隠」、『美術フォーラム21』(38号)、一般社団法人美術フォーラム21、醍醐書房、2018年11月、99-105頁。
- ＜雑誌・新聞等寄稿＞
 - ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年展 あす静岡市美術館で開幕 貴族が愛した優雅さ 高度な技術 幅広い作域」『中日新聞』静岡版、10月5日。
 - ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年① スープ用の蓋付小鉢と受け皿 1781年 王室の長男誕生祝う」『中日新聞』静岡版、10月22日。
 - ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年② ポプリ壺「エペール」1757年 王侯貴族の寝室飾る」『中日新聞』静岡版、10月23日。
 - ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年③ 鳥の意匠のカップとソーサー 「リトロン」1761年 ピンク色 愛らしい形」『中日新聞』静岡版、10月24日。
 - ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年④ 壺「テリクレアン」1842年 花の描写 油絵のよう」『中日新聞』静岡版、10月25日。
 - ・吉田恵理「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年⑤ ダンサー NO.13(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より) 1899-1900年 今も高い人気の名品」『中日新聞』静岡版、10月26日。

●山本香瑞子

＜館外での活動＞

- ・浜松市美術館 収集審査会(2月1日)
- ＜雑誌・新聞等寄稿＞
 - ・山本香瑞子「平野美術館 近代美人画～描かれた女性たちに託

された秘密～ 新感覚 柔らかい筆づかい 竹久夢二「草に憩う女」大正初期(静岡市美術館蔵)『中日新聞』静岡版、7月31日。

●小川かい

＜展覧会カタログ等編集・執筆＞

- ・「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」カタログ編集、「多面体のヴラマンクー音楽家、自転車選手、作家…」執筆、年譜翻訳、国内主要参考文献編集。
- ＜雑誌・新聞等寄稿＞
 - ・小川かい「自由な色彩「野獣派」の名残 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」①」『読売新聞』静岡版、8月7日。
 - ・小川かい「花束 観察の先の「唯一無二」 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」②」『読売新聞』静岡版、8月8日。
 - ・小川かい「表情変える海と空 明暗 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」③」『読売新聞』静岡版、8月9日。
 - ・小川かい「筆致、色彩 増す躍動感 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」④」『読売新聞』静岡版、8月10日。
 - ・小川かい「社会批評や芸術論 多数 「ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生」⑤」『読売新聞』静岡版、8月11日。

●太田紗世

＜館外での活動＞

- ・「日本平動物園写生大会」審査(11月15日)
- ・浜松市楽器博物館親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう！」講師(10月28日)

●伊藤鮎

＜展覧会カタログ等編集・執筆＞

- ・「起点としての80年代」カタログ編集、「それぞれの、もう一つの起点—横尾忠則、大竹伸朗、日比野克彦の80年代」執筆、「Ⅳ. 記憶・アーカイヴ・物語」章解説執筆、「日比野克彦」「宮島達男」「横尾忠則」作家解説執筆、年表、主要参考文献編集。
- ・「Shizubi Project 7 アーカイヴ/1980年代—静岡」リーフレット編集、「80年代—静岡の一風景から」「浜松野外美術展」「A-Value」「袋井駅前プロジェクト」「天地耕作」執筆、主要参考文献、関連年表編集。
- ＜雑誌・新聞等寄稿＞
 - ・伊藤鮎「ビジュアルでたどる80年代アート・クロニクル」『美術手帖』6月号、10-22頁。

●大石沙織

＜館外での活動＞

- ・静岡県博物館協会事業推進グループ委員
- ＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
 - ・大石沙織「いつだって猫展(上) 女三宮への叶わぬ恋 歌川国安「青楼若三人 女三の宮」1815-32年・個人蔵」『中日新聞』静岡版、4月18日。
 - ・大石沙織「いつだって猫展(中)「化け猫」どこか滑稽 歌川国芳「日本駄エ門猫之古事」1847年・個人蔵」『中日新聞』静岡版、4月19日。
 - ・大石沙織「いつだって猫展(下)蹴鞠姿 弾む遊び心 歌川国芳「流行猫の曲鞠」1841年・個人蔵」『中日新聞』静岡版、4月20日。

●安岡真理

<館外での活動>

- ・「日本平動物園写生大会」審査(11月15日)
- ・浜松市楽器博物館親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう！」講師(10月28日)

<研究発表・論文等>

- ・発表：「美術館の役割や学芸員の仕事について」(専門基礎図画工作・前期)、静岡大学、6月13日。
- ・発表：「静岡市美術館の教育普及事業について」(美術科教育指導論・後期)、静岡大学、11月26日。

<展覧会カタログ等編集・執筆>

- ・「ミュシャ展 ～運命の女たち～」鑑賞ガイド作成。

<雑誌・新聞等寄稿>

- ・安岡真理「ミュシャ展 運命の女たち 6月2日から静岡市美術館 女性の美に民族の希望」『静岡新聞』、5月29日。

◆教育プログラム企画・制作(担当：太田・安岡)

- ・「しずびチビッコプログラム」オリジナルプログラム(各展覧会・計5種)
- ・「しずびオープンアトリエ」オリジナルプログラム(計2種)
- 夏：「ヴラマンクの絵のタッチに挑戦しよう！」
- 春：「粘土で夢殿の仲間をつくろう！」
- ・「プレゼントワークショップ」(計3種)
- vol.24「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.25「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.26「クリスマスの準備をしよう！」子ども編・大人編
- ・「暦とあそびワークショップ」(計2種)
- vol.16「こどもの日の準備をしよう！」、vol.17「ひな祭りの準備をしよう！」

5-2 博物館実習

以下の要領で学芸員資格取得を目指す学生を対象に博物館実習を行った。

対象：博物館法施行規則第一条に定められた博物館に関する科目の単位を履修済みまたは履修中で、以下の要件を満たす者。ただし学芸員資格を既に取得済みの者は除く。

- ①美学・美術史または美術教育専攻であること。(美術館で研修する理由がある者)
- ②静岡県内在学者もしくは県内に帰省先があること。 ③パソコンのメールアドレスを持っていること。(携帯メールは不可)
- ④学部3年生以上であること。(4年生を優先する)

実習期間：8月7日(火)～11日(土・祝) 計5日間

実習場所：当館および静岡市清水文化会館マリナート収蔵庫

受入大学・人数：静岡大学、静岡文化芸術大学、京都美術工芸大学、京都造形芸術大学 計4大学4人

実習日	時 間	実 施 内 容
7日(火)	10:10～11:00	ガイダンス・職員紹介・施設案内 静岡市美術館の特色について(講義)
	11:10～12:00	開催中展覧会の見学
	13:00～13:50	開催中の展覧会について＜なりたち、展示演出など＞(講義)
	14:00～14:50	展覧会の作り方＜展覧会ができるまでの流れなど＞(講義)
	15:00～15:50	日本美術の調査と展示(講義)
8日(水)	10:10～11:00	美術品の取り扱いについて(講義および実習)
	11:10～12:00	美術品の展示・保存環境、輸送について(講義)
	13:40～14:30	静岡市美術館の教育普及活動について(講義)
	14:50～16:30	オープンアトリエ体験(実習)
9日(木)	9:10～10:00	自記温湿度計の取扱い・収蔵庫見学(実習)
	10:10～16:00	美術品の調査＜調書の作成＞(実習)※於：静岡市清水文化会館マリナート収蔵庫
10日(金)	13:00～14:00	地域と美術館＜めぐりアート、アート&スポーツヒロバを中心に＞(講義)
	14:00～15:00	静岡市美術館の広報活動について(講義)
	15:30～19:00	夜店準備・手伝い(実習)
11日(土・祝)	10:10～11:00	館長講話(講義)
	13:00～15:50	「これまでの実習で学んだこと」(実習生による発表)

5-3 視察等受入

平成30年度受入分は下記のとおりである。

	日 付	視察団体名	人数
1	6月29日(金)	静岡市広報課(市外記者プレスツアー)	15人
2	8月23日(木)	川口市	4人
3	9月13日(木)	佐世保市	2人
4	10月14日(日)	韓国・釜山市	10人
5	11月2日(金)	船橋市議会	14人

(※外部施設との連携事業における展示解説分は除く。)

計 5件 45人

6. 収蔵品・図書等

6-1 収蔵品貸出

1)「近代美人画～描かれた女性たちに託された秘密～」

会期：7月7日(土)～9月2日(日)

会場(所在地)：平野美術館(浜松市)

貸出内容：志田コレクションより

《初春》、《合鏡》、《草に憩う女》、《木に寄る女》(いずれも掛軸)計4点

6-2 画像貸出

1)季刊『版画芸術』第180号 特集「竹久夢二 版画のグラフィック(仮)」

貸出画像：『夢二画集 春の巻』、『夢二画集 夏の巻』、『夢二画集 野に山に』、『桜さく島 春のかはたれ』、『桜さく國 紅桃の巻』、『山へよする』、『セノオ楽譜355番 唱歌 金剛石』、『セノオ楽譜338番 草の夢』 計8点

発行者：阿部出版

発行部数：20,000部

発行日：平成30(2018)年6月1日

2)池坊華道会会報誌「花のあらかると」

貸出画像：《夢二詩画集》「椿の花」 1点

発行者：池坊華道会

発行部数：76,000部

発行日：平成31(2019)年1月

3)三保松原ビジターセンター内壁面展示、映像シアター動画、タッチパネル関連芸術作品アーカイブ、展示解説パンフレット

貸出画像：竹久夢二原画《羽衣(セノオ楽譜原画)》 1点

発行者：三保松原ビジターセンター

発行日：平成31(2019)年3月

6-3 図書等

平成30年度図書等受入数

	購入	寄贈	合計
カタログ	2冊	340冊	342冊
雑誌	20冊	62冊	82冊
一般図書・その他	12冊	365冊	377冊
合計	34冊	767冊	801冊

7. 広報活動

7-1 広報制作物

1) 年間スケジュール

平成30(2018)年度展覧会スケジュールを下記のとおり制作し、ウェブサイトに掲載した。

＜仕様＞紙：マットコート 110kg

サイズ・数量：210×396mm（仕上 210×99mm） 45,000部（日本語版）、500部（英語版）

加工：観音折り（四つ折り）加工

印刷：オフセット印刷（日本語版）、オンデマンド印刷（英語版）

◆日本語版年間スケジュール



◆英語版年間スケジュール



2) ワークショップシリーズ年間スケジュール

平成30(2018)年度ワークショップシリーズ年間スケジュールを下記のとおり制作した。

＜仕様＞紙：片艶晒クラフト（キャピタルラップ） 86kg

サイズ・数量：A4（仕上A5） 20,000部

加工：二つ折り加工



7-2 ウェブサイト

展覧会情報を中心に、関連イベントの情報や施設概要、ショップ情報についても掲載。スマートフォンサイトとも連動している。また、ブログ、ツイッター、インスタグラムも開設し、常にタイムリーな情報発信を行っている。

ウェブサイト構成：(<http://www.shizubi.jp>)

- 展覧会
 - ・開催中の展覧会
 - ・これからの展覧会
 - ・年間スケジュール
 - ・過去の展覧会
- イベント
 - ・これからのイベント
 - ・今までのイベント
- ショップ&カフェ
 - ・ショップ&カフェ・図録の通信販売
 - ・アーカイブ
- 学校・団体鑑賞
- プレス
- アクセス・利用案内
 - ・アクセス/利用案内
 - ・駐車場
- 美術館の概要
 - ・美術館の歩み
 - ・館長挨拶
 - ・コンセプト
 - ・施設概要
 - ・ロゴについて

- その他(リンク)
 - ・ブログ(<http://www.shizubi.jp/blog>)
 - ・ツイッター(http://twitter.com/shizubi_jp)
 - ・インスタグラム(http://instagram.com/shizubi_jp)

アクセス数：251,397件(1日平均 約689件)



パソコン版ホームページ



スマートフォン版
ホームページ

7-3 施設広報記録

展覧会事業・交流事業以外の美術館施設に関する主な取材記録は下記のとおりである。

1)新聞

- ・丸山ひかり「美術館はおしゃべりOK?」『朝日新聞』東京本社版、4月19日。
- ・堺瞳「スタンバイ：ピア美術館」『中日新聞』静岡版、6月6日。
- ・伊藤美紅ほか「富士山をユニークに デザイナー池ヶ谷知宏さん」『毎日新聞』静岡版、7月28日。
- ・「要介助来館者対応へ 静岡市美術館職員ら講習会」『静岡新聞』、12月11日。

2)雑誌等

- ・「「新たな視点」に会う 静岡市美術館ミュージアムショップ&カフェ」『mignon』秋号、9月30日。
- ・「施設紹介」『cookpad plus』11月号、10月2日。
- ・「同」『美術展&美術館ぴあ2019』、12月29日。
- ・「同」『チユスマ』4・5月号、3月14日。
- ・「都市型のアクティヴな美術館 静岡市美術館」『美術展&美術館ぴあ2019』、3月31日。

3)ウェブサイト(媒体名のみ記載)

「朝日新聞デジタル「&トラベル」」、「Japan Official Travel App」、「アートアジェンダ」

4)その他

- ・「施設紹介」『日本平ホテル周辺案内マップ』、12月1日。

8. 管理運営

8-1 利用者数

1)利用者数(月別) (単位:人)

	展覧会 観覧者	展覧会関連事業 参加者	交流事業 参加者	連携事業・その他の事業 参加者	事業参加者 計	総入館者
4月	8,192	341	21	63	8,617	22,538
5月	10,212	320	37	194	10,763	25,109
6月	16,337	1,219	18	97	17,671	33,830
7月	12,730	705	22	185	13,642	27,646
8月	5,473	234	176	192	6,075	17,778
9月	4,910	86	109	189	5,294	15,880
10月	4,779	122	0	5,106	10,007	15,441
11月	5,774	471	17	14,917	21,179	17,122
12月	4,709	129	35	124	4,997	13,535
1月	2,858	1,654	7,971	14	12,497	11,031
2月	3,347	523	12,806	14	16,690	12,721
3月	3,936	273	14,327	22	18,558	16,070
計	83,257	6,077	35,539	21,117	145,990	228,701
月平均	6,938	506	2,962	1,760	12,116	19,058

2)利用者数 事業別

展覧会名	実施期間	入場者等
いつだって猫展	4月7日～5月20日 (開館39日間)	18,404人 (472人/日)
ミュシャ展 ～運命の女たち～	6月2日～7月15日 (開館38日間)	28,579人 (752人/日)
ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	7月28日～9月24日 (開館51日間)	10,871人 (213人/日)
フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	10月6日～12月16日 (開館62日間)	15,262人 (246人/日)
起点としての80年代	1月5日～3月24日 (開館68日間)	10,141人 (149人/日)
展覧会 観覧者 計		83,257人
普及事業参加者 (展覧会関連事業参加者+交流事業参加者+連携事業・その他事業参加者)		62,733人
事業参加者 総計 (展覧会観覧者+普及事業参加者)		145,990人
総入館者数(エントランス入口自動カウンター集計数)	4月1日～3月31日	228,701人

3)利用者数(事業別詳細)

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会事業	展覧会		計5本 83,257人		
	いつだって猫展	4/7-5/20 (計39日間)	30,000	18,404	61.3%
	ミュシャ展 ～運命の女たち～	6/2-7/15 (計38日間)	26,000	28,579	109.9%
	ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	7/28-9/24 (計51日間)	20,000	10,871	54.4%
	フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	10/6-12/16 (計62日間)	25,000	15,262	61.0%
	起点としての80年代	1/5-3/24 (計68日間)	12,000	10,141	84.5%
展覧会 関連事業	ミュージアム教室		計2,267人(85団体/85回)		
	ミュージアム教室(いつだって猫展)	4/7-5/20 (全14回)	375(14団体/14回)		
	ミュージアム教室(ミュシャ展)	6/2-7/15 (全30回)	809(30団体/30回)		
	ミュージアム教室(ヴラマンク展)	7/28-9/24 (全14回)	249(14団体/14回)		
	ミュージアム教室(セーヴル展)	10/6-12/16 (全14回)	346(14団体/14回)		
	ミュージアム教室(80年代展)	1/5-3/24 (全13回)	488(13団体/13回)		
	その他展示解説		計554人(17団体/554人)		
	展示解説(いつだって猫展)	4/7-5/20 (全3回)	32(3団体/3回)		
	展示解説(ミュシャ展)	6/2-7/15 (全8回)	288(8団体/8回)		
	展示解説(ヴラマンク展)	7/28-9/24 (全1回)	36(1団体/1回)		
	展示解説(セーヴル展)	10/6-12/16 (全3回)	125(3団体/3回)		
	展示解説(80年代展)	1/5-3/24 (全2回)	73(2団体/2回)		
	いつだって猫展		計5本 254人		
	講演会①「絵と芝居から見る江戸時代の化け猫」	4/15	70	90	128.6%
	講演会②「江戸の猫ブーム」	4/21	70	74	105.7%
	招き猫絵付け体験「オリジナルの招き猫を作ろう！」	4/14	60	59	98.3%
	当館学芸員によるスライドトーク	5/12	-	31	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 科学茶房「動物のこころカフェ」	4/22	※静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業に記載		
	ミュシャ展 ～運命の女たち～		計5本 738人		
	講演会①「アルフォンス・ミュシャー世紀末バリの異邦人」	6/9	100	124	124.0%
	講演会②「装飾家としてのミュシャ、画家としてのミュシャ」	6/23	100	127	127.0%
	プレミアムフライデー スペシャルトーク 「コレクターから見たミュシャ」	6/29	100	130	130.0%
	当館学芸員によるスライドトーク	6/16-7/8	-	174	-
	プレミアムフライデー期間限定オープン！ 3日間限定 ミュシャ展×ビール	6/29-7/1	-	183	-

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展 覧 会 関 連 事 業	ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生		計2本 124人		
	講演会「ヴラマンクー色彩、そして道ー」	7/29	70	89	127.1%
	当館学芸員によるスライドトーク	8/25	-	35	-
	フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年		計4本 251人		
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/静岡室内楽フェスティバル2018 ミュージアムコンサート「気軽にモーツァルト」	10/14	70	87	124.3%
	講演会「セーヴルって？ーセーヴルがしてきたこと、今していることー」	11/10	70	84	120.0%
	「ヨーロッパ風貴族令嬢ドレスで変身フォト！」	10/13、11/23	-	48	-
	プレミアムフライデートーク	10/26、11/30	-	32	-
	起点としての80年代		計5本 1,889人		
	大学生によるギャラリートーク	1/12・1/13	-	56	-
	日比野克彦×静岡PARCO 公開制作・D Cブランド「HIBINO SPECIAL」1日限定オープン！	1/19	-	1,500	-
	当館学芸員によるギャラリートーク	1/20、3/10	-	56	-
	シンポジウム「80年代の美術は今につながるか」	2/10	70	140	200.0%
	対談「大逆転の時代、横尾忠則80年代を語る」	3/1	100	137	137.0%
交 流 事 業	Shizubi Project		計1本 34,798人		
	Shizubi Project 7「アーカイヴ/1980年代ー静岡」	1/12ー3/24	-	34,798	-
	Shizubiシネマアワー		計4本 126人		
	Shizubiシネマアワー vol.22「バル・エポックのバイオニアたち」 ①『ザ・ダンサー』	9/8	70	39	55.7%
	Shizubiシネマアワー vol.22「バル・エポックのバイオニアたち」 ②『リュミエール』	9/9	70	30	42.9%
	Shizubiシネマアワー vol.23「グラフィティ」 ①『ワイルド・スタイル』	3/2	70	14	20.0%
	Shizubiシネマアワー vol.23「グラフィティ」 ②『バスキア、10代最後のとき』	3/3	70	43	61.4%
	しずびオープンアトリエ		計2本 383人		
	2020しずおか文化プロジェクト しずびオープンアトリエ 「ヴラマンクの絵のタッチに挑戦しよう！」	8/7ー19 (計12日間・全24回)	168	176	104.8%
	2020しずおか文化プロジェクト しずびオープンアトリエ 「粘土で夢殿の仲間をつくろう！」	2/16ー3/17 (計10日間・全20回)	100	207	207.0%
	しずびチビッコプログラム		計5本 119人		
	2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム(いつだって猫展)	5/19 (全2回)	20	20	100.0%
	2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム(ミュシャ展)	7/1 (全2回)	20	22	110.0%
	2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム(ヴラマンク展)	9/15・16 (全4回)	40	40	100.0%
	2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム(セーヴル展)	11/24 (全2回)	20	17	85.0%
	2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム(80年代展)	3/21 (全2回)	20	20	100.0%
	暦とあそぶワークショップ		計2本 43人		
	2020しずおか文化プロジェクト 暦とあそぶワークショップvol.16 「こどもの日の準備をしよう！」	4/28	20	21	105.0%

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
交流事業	2020しずおか文化プロジェクト 暦とあそぶワークショップvol.17 「ひな祭りの準備をしよう！」	2/11	20	22	110.0%
	プレゼントワークショップ		計4本 70人		
	2020しずおか文化プロジェクト プレゼントワークショップvol.24 「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」	5/13	20	17	85.0%
	2020しずおか文化プロジェクト プレゼントワークショップvol.25 「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」	6/17	20	18	90.0%
	2020しずおか文化プロジェクト プレゼントワークショップvol.26 「クリスマスの準備をしよう！」子ども編	12/8	20	19	95.0%
	2020しずおか文化プロジェクト プレゼントワークショップvol.26 「クリスマスの準備をしよう！」大人編	12/9	20	16	80.0%
	その他交流事業		計1本		
	夜店市	8/10-12 (計3日間)	-	-	-
連携事業	めぐりアート静岡		計2本 19,481人		
	2020しずおか文化プロジェクト／静岡市「まちは劇場」プロジェクト めぐりアート静岡2018 4つの会場をめぐり、アートの散策。	10/23-11/25 (計29日間)	-	19,438 (当館分)	-
	めぐりアート静岡2018 関連事業 アーティストトーク(杉山功)	11/25	-	43	-
	■生涯学習センターとの連携事業				
	展示解説付き講座		計3本		
	薬科生涯学習センター 高齢者学級みのり大学薬科学級	11/22	※その他展示解説に含む		
	東部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学東部学級	11/27	※その他展示解説に含む		
	南部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学南部学級	1/23	※その他展示解説に含む		
	しずび出前講座(講義)※当館学芸員が講師として参画		計8本 390人		
	薬科生涯学習センター 「近代美術の中の猫 日本画を中心に」	4/28、5/13	20	14	70.0%
	東部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学東部学級 「近代美術の中の猫 日本画を中心に」	5/8	100	82	82.0%
	西部生涯学習センター 講演会「桃山時代の絵画－狩野永徳と長谷川等伯－」	5/23	20	41	205.0%
	北部生涯学習センター 講演会「宗達と光琳」	6/24	40	30	75.0%
	大里生涯学習センター 高齢者学級みのり大学大里学級 「名のある風景、名のない山水(信仰と絵画)」	7/5	80	37	46.3%
	長田生涯学習センター 高齢者学級みのり大学長田学級 「北斎と広重」	11/30	150	97	64.7%
	西部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学西部学級での講義 「北斎と広重」	12/6	100	73	73.0%
	西奈生涯学習センター 「起点としての80年代」展を観に行こう！	1/29、2/5	20	16	40.0%

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
連携事業	しずび出張講座(ワークショップ)		計2本 34人		
	大里生涯学習センター 出張!しずびチビッコプログラム 「親子でエコバッグをつくろう」	7/21	20	20	100.0%
	東部生涯学習センター 出張!しずびチビッコプログラム 「自分だけのエコバッグをつくろう!」	7/28	20	14	70.0%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)		計2本		
	「いつだって猫展」関連事業 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 科学茶房「動物のこころカフェ」(※静岡科学館る・く・る主催)	4/22	25	31	124%
	「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」関連事業 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/静岡室内楽フェスティバル2018 ミュージアムコンサート「気軽にモーツァルト」 (※静岡音楽館AOI主催)	10/14	※展覧会関連事業に記載		
	2020しずおか文化プロジェクト		計5本		
	2020しずおか文化プロジェクト 暦とあそぶワークショップ	4/28、2/11 (計2日間・全2回)	※交流事業に記載		
	2020しずおか文化プロジェクト プレゼントワークショップ	5/13、6/17、12/8・9 (計4日間・全4回)	※交流事業に記載		
	2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム	5/19、7/1、9/15・16、 11/24、3/21 (計6日間・全12回)	※交流事業に記載		
	2020しずおか文化プロジェクト しずびオープンアトリエ	8/7-19、2/16-3/17 (計22日間・全44回)	※交流事業に記載		
	2020しずおか文化プロジェクト/静岡市「まちは劇場」プロジェクト めぐりアート静岡2018 4つの会場をめぐる、アートの散策。	10/23-11/25 (計29日間)	※別項に記載		
	その他連携事業		計2本 959人		
	Kids Art Project Shizuoka	4/1-3/31	-	374	-
	JR東海「トレイン&ミュージアム」	7/13-12/9	-	585	-
その他事業	その他事業		計3本 222人		
	静岡市文化活動振興事業 旧五十嵐邸 竹久夢二展	10/11-14 (計4日間)	282	218	77.3%
	静岡市清水文化会館マリナート常設展示 「平野富山—清水が生んだ彩色木彫の名匠」 【第1期】富山の西洋彫刻へのまなざし 【第2期】新収蔵品紹介-雛人形 【第3期】富山と平瀬田中の交流 - 田中作品の彩色の仕事をととして	【第1期】7月-10月 【第2期】11月-2月 【第3期】3月-6月	-	-	-
	博物館実習	8/7-8/11 (計5日間)	5	4	80.0%
	計		115,550	145,990	126.34%

8-2 過去展覧会一覧

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成22(2010)年度		計3本	132日 93,654人
1	開館記念展<Ⅰ> ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ	10月2日(土)～11月28日(日) <開館51日間>	38,695人 (759人/日)
2	開館記念展<Ⅱ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 家康と慶喜－徳川家と静岡	12月11日(土)～1月30日(日) <開館42日間>	34,424人 (820人/日)
3	開館記念展<Ⅲ> 棟方志功 祈りと旅	2月11日(金・祝)～3月27日(日) <開館39日間>	20,535人 (527人/日)
●平成23(2011)年度		計5本	261日 131,904人
1	ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新	4月9日(土)～6月26日(日) <開館69日間>	16,395人 (238人/日)
2	没後150年 歌川国芳展	7月9日(土)～8月21日(日) <開館38日間> ※前期：7月9日(土)～31日(日) 後期：8月2日(火)～21日(日)	30,404人 (801人/日)
3	開館1周年記念展<Ⅰ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 アルプスの画家 セガントーニ－光と山－	9月3日(土)～10月23日(日) <開館44日間>	17,806人 (405人/日)
4	開館1周年記念展<Ⅱ> レオナルド・ダヴィンチ美の理想	11月3日(木・祝)～12月25日(日) <開館46日間>	53,136人 (1,156人/日)
5	竹久夢二と静岡ゆかりの美術 (前期：中川雄太郎と静岡の創作版画の世界 後期：平野富山“彩色木彫”の美)	1月7日(土)～3月25日(日) <開館64日間> ※前期：1月7日(土)～2月12日(日) 後期：2月18日(土)～3月25日(日)	14,163人 (222人/日)
●平成24(2012)年度		計6本	258日 100,862人
1	森村泰昌モリエナーレ まねぶ美術史	4月7日(土)～6月10日(日) <開館57日間>	7,976人 (140人/日)
2	静岡音楽館AOI×静岡科学館る・く・る×静岡市美術館共同事業 七夕の美術－日本近世・近代の美術工芸にみる	6月23日(土)～8月19日(日) <開館51日間> ※前期：6月23日(土)～7月22日(日) 後期：7月24日(火)～8月19日(日)	10,929人 (214人/日)
3	フィンランドのくらしとデザイン－ムーミンが住む森の生活	9月1日(土)～10月8日(月・祝) <開館38日間>	41,258人 (1,086人/日)
4	ストラスブール美術館展 モダンアートへの招待	10月27日(土)～12月16日(日) <開館44日間>	12,016人 (273人/日)
5	滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼 祈りの至宝展	1月2日(水)～2月11日(月・祝) <開館36日間> ※前期：1月2日(水)～1月20日(日) 後期：1月22日(火)～2月11日(月・祝)	11,256人 (313人/日)
6	新美南吉生誕100年 ごんぎつねの世界	2月23日(土)～3月31日(日) <開館32日間>	17,427人 (545人/日)
●平成25(2013)年度		計5本	260日 156,594人
1	藤田嗣治 渡仏100周年記念 レオナルド・フジタとパリ	4月20日(土)～6月23日(日) <開館57日間>	22,451人 (393人/日)
2	静岡朝日テレビ 開局35周年記念 オーディロン・ルドン 夢の起源 幻想のふるさと、ボルドーから	6月29日(土)～8月25日(日) <開館51日間>	16,907人 (332人/日)
3	はじめての美術 絵本原画の世界2013	9月14日(土)～10月27日(日) <開館38日間>	44,385人 (1,168人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業 没後100年 徳川慶喜	11月2日(土)～12月15日(日) <開館38日間> ※前期：11月2日(土)～11月24日(日) 後期：11月26日(火)～12月15日(日)	15,260人 (402人/日)
5	テレビ静岡開局45周年記念 シャガール展	1月2日(木)～3月30日(日) <開館76日間>	57,591人 (758人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成26(2014)年度		計6本	254日 155,028人
1	巨匠の眼 川端康成と東山魁夷	4月12日(土)～6月1日(日) ＜開館44日間＞	15,475人 (352人/日)
2	読売新聞創刊140周年記念・静岡第一テレビ開局35周年 法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－	6月14日(土)～7月27日(日) ＜開館38日間＞	26,566人 (699人/日)
3	日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展 ～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女～	8月4日(月)～9月23日(火・祝) ＜開館48日間＞	66,773人 (1,391人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業・静岡市文化振興財団設立20周年記念事業 国宝・久能山東照宮展－家康と静岡ゆかりの名宝	10月4日(土)～11月24日(月・祝) ＜開館45日間＞	20,353人 (452人/日)
5	ロイヤル・アカデミー展 イギリス美術の華麗なる150年	12月6日(土)～1月25日(日) ＜開館41日間＞	16,034人 (391人/日)
6	没後100年 小林清親展 文明開化の光と影をみつめて	2月7日(土)～3月22日(日) ＜開館38日間＞	9,827人 (259人/日)
●平成27(2015)年度		計6本	256日 155,806人
1	静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	4月18日(土)～5月31日(日) ＜開館39日間＞	32,133人 (824人/日)
2	青磁のいま－受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6月13日(土)～8月16日(日) ＜開館56日間＞	13,907人 (248人/日)
3	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	8月23日(日)～9月27日(日) ＜開館36日間＞	16,475人 (458人/日)
4	静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10月10日(土)～11月23日(月・祝) ＜開館39日間＞	41,836人 (1,073人/日)
5	静岡市美術館開館5周年記念 静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12月5日(土)～1月11日(月・祝) ＜開館29日間＞	7,502人 (259人/日)
6	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1月23日(土)～3月27日(日) ＜開館57日間＞	43,953人 (771人/日)
●平成28(2016)年度		計6本	254日 167,547人
1	没後20年 ルーシー・リー展	4月9日(土)～5月29日(日) ＜開館45日間＞	17,157人 (381人/日)
2	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6月7日(火)～7月10日(日) ＜開館30日間＞	6,592人 (220人/日)
3	エッシャーの世界	7月17日(日)～8月28日(日) ＜開館37日間＞	36,297人 (981人/日)
4	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9月10日(土)～10月30日(日) ＜開館45日間＞	16,154人 (359人/日)
5	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	11月19日(土)～2月5日(日) ＜開館65日間＞	79,378人 (1,221人/日)
6	夢二と京都の日本画	2月18日(土)～3月26日(日) ＜開館32日間＞	11,969人 (374人/日)
●平成29(2017)年度		計5本	244日 111,134人
1	アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	4月8日(土)～5月28日(日) ＜開館45日間＞	6,208人 (138人/日)
2	没後150年 坂本龍馬	7月1日(土)～8月27日(日) ＜開館51日間＞	50,397人 (988人/日)
3	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	9月9日(土)～11月12日(日) ＜開館56日間＞	16,965人 (303人/日)
4	ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	11月23日(木・祝)～1月28日(日) ＜開館54日間＞	25,503人 (472人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
5	駿河の白隠さん	2月10日(土)－3月25日(日) ＜開館38日間＞	12,061人 (317人/日)
●平成30(2018)年度			計5本 258日 83,257人
1	いつだって猫展	4月7日(土)－5月20日(日) ＜開館39日間＞	18,404人 (472人/日)
2	ミュシャ展 ～運命の女たち～	6月2日(土)－7月15日(日) ＜開館38日間＞	28,579人 (752人/日)
3	ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	7月28日(土)－9月24日(月・祝) ＜開館51日間＞	10,871人 (213人/日)
4	テレビ静岡開局50周年記念 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	10月6日(土)－12月16日(日) ＜開館62日間＞	15,262人 (246人/日)
5	起点としての80年代	1月5日(土)－3月24日(日) ＜開館68日間＞	10,141人 (149人/日)

8-3 静岡市美術館運営協議会

(公財)静岡市文化振興財団では、当館の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、平成23年度より静岡市美術館運営協議会を設置している。年2回の開催を基本とし、平成29年度末現在まで計12回開催した。

【静岡市美術館運営協議会委員】(敬称略・50音順)

氏名	肩書
●第1期【平成23年6月19日－平成25年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長)
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	学習院大学名誉教授・前千葉市美術館長
小針由紀隆	静岡県立美術館学芸部長
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
●第2期【平成25年6月19日－平成27年6月18日】	
岩城見一	前京都国立近代美術館館長・京都大学名誉教授
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長) ＜～平成26年4月1日＞
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家

氏名	肩書
増田安由	静岡市校長会(図工美術部会長・富士見小学校校長) ＜平成26年4月2日～＞
●第3期【平成27年6月19日－平成29年6月18日】	
天野一夫	豊田市美術館チーフキュレーター
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会 (静岡紺屋町名店街代表理事)
増田安由	静岡市校長会 (図工美術部会長・富士見小学校校長)
●第4期【平成29年6月19日－】	
片瀬恵子	静岡市校長会 (図工美術部会長・清水庵原小学校校長)
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
金原宏行	前豊橋市美術館館長
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
高松良幸	静岡大学教授
田中文雄	元静岡中央図書館調査課長
服部 功	静岡中央商店街連合会 (静岡紺屋町名店街代表理事)
村田眞宏	豊田市美術館館長

※委員の肩書については、各期就任時のものを記載した。

静岡市美術館運営協議会設置要綱

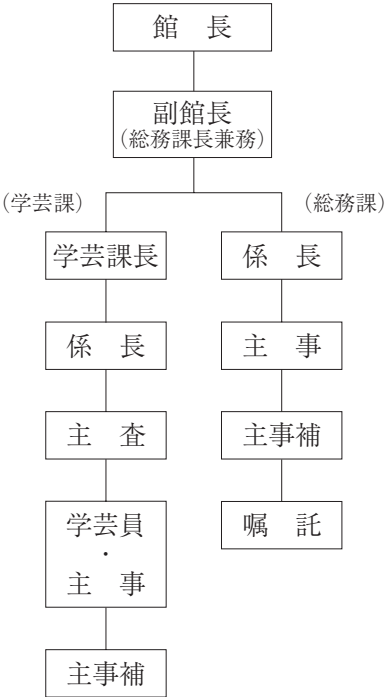
- (目的)
- 第1条 公益財団法人静岡市文化振興財団(以下「当法人」という。)は、静岡市美術館(以下「美術館」という。)の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、静岡市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を設置する。
- (任務)
- 第2条 協議会は、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べるものとする。
- (委員)
- 第3条 協議会の委員は、専務理事が選定し、理事長が委嘱する。
- 2 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 補欠又は増員により選任された委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 4 委員は、任期満了後においても、後任者が就任するまで、なおその職務を行うものとする。
- 5 委員は別表のとおりとする。
- (会長)
- 第4条 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選により選出する。
- 2 会長は、会議の議長となり、会務を総括する。
- (会議)
- 第5条 協議会は、館長からの求めに応じ、会長が随時召集する。
- 2 会長は、協議会を招集しようとするときは、委員に対し、開催日の1週間前までに、書面等により、あらかじめ日時、場所及

- び議題その他必要な事項を通知しなければならない。ただし、委員全員の同意があるときは、この限りではない。
- 3 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 4 会長は、必要と認めた時は協議会に諮り、関係者に参考人として会議への出席を求め、資料の提供、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。
- 5 副会長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- (議事録)
- 第6条 会議の議事については、その経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成するものとする。
- (庶務)
- 第7条 協議会の事務は、静岡市美術館総務課において処理する。
- 2 美術館の職員は、協議会その他の事務処理を通じて知り得た事項を他に漏らしてはならない。
- (補足)
- 第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会において定める。

- 附 則
- この要綱は、平成23年6月19日から施行する。
- 附 則
- この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
- 附 則
- この要綱は、平成25年10月30日から施行する。

8-4 組織図・職員名簿

<組織図>



<職員名簿>(平成30年度)

館 長	田中 豊稲
副館長(総務課長兼務)	望月 重信
(総務課)	
係 長	村上 真琴
主 事	池ヶ谷 志帆
主事補	五島 薫
嘱 託	望月 俊佑
臨 時	古川 誠二郎(平成31年1月-)
(学芸課)	
学芸課長	以倉 新(近・現代美術)
係 長	吉田 恵理(日本美術)
	(-平成30年12月)
主 査	山本 香瑞子(日本近代美術)
学芸員	小川 かい(西洋美術)
学芸員	太田 紗世(教育普及)
学芸員	伊藤 鮎(西洋美術)
学芸員	大石 沙織(日本美術)
学芸員	安岡 真理(教育普及)
主 事	大庭 千恵子(広報)
主事補	岡田 牧(広報)

8-5 条例・施行規則

○静岡市美術館条例

平成21年7月16日
条例第50号

(設置)

第1条 静岡市は、多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、及び美術文化の交流を促進することにより、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目的として、次の施設を設置する。

名称	位置
静岡市美術館	静岡市葵区紺屋町17番地の1

(事業)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術文化に係る展示会の開催に関すること。
 - (2) 美術文化の教育及び普及に関すること。
 - (3) 美術文化に係る講演会、講習会等の開催に関すること。
 - (4) 美術文化に係る調査及び研究に関すること。
 - (5) 美術文化に係る情報の収集及び提供並びに広報活動に関すること。
 - (6) 美術作品及び美術に係る資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
 - (7) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業(開館時間)
- 第3条 美術館の開館時間は、午前10時から午後7時までとする。ただし、第7条の規定による指定を受けて美術館の管理を行うもの(以下「指定管理者」という。)が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更することができる。

(休館日)

第4条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日(当日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この号において「休日」という。)に当たるときは、その翌日以降の最初の休日以外の日)
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(入館の制限)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 美術館の管理上支障があると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、必要があると認めるとき。

(損害賠償の義務)

第6条 美術館の施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。

(指定管理者による管理)

第7条 美術館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって市長が指定するものに行わせるものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第8条 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添付して市長に申請しなければならない。

(指定管理者の指定の基準)

第9条 市長は、前条の規定による申請を審査し、次に掲げる基準に適合するもののうちから、最も効率的かつ

適切な管理を行うことができると認めるものを指定管理者として指定するものとする。

- (1) 事業計画が美術館の設置の目的を達成するためにふさわしいものであること。
- (2) 事業計画が美術館の効果的な管理を実現するものであること。
- (3) 事業計画に沿った管理を行うために必要な物的・人的能力を有していると認められること。
- (4) 管理の業務を適切かつ円滑に行うための経理的基礎を有していること。

(指定管理者の指定等の公告)

第10条 市長は、指定管理者を指定したとき、又はその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告するものとする。

(指定管理者の業務の範囲)

第11条 指定管理者が行う業務の範囲は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 第2条に掲げる事業の実施に関すること。
- (2) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める業務(指定管理者の原状回復の義務)

第12条 指定管理者は、その指定に係る管理の業務の期間が満了したとき、又は指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった施設又は設備を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、市長の承認を得たときは、この限りでない。

(委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して12月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。ただし、第1条、第8条から第11条まで及び第13条の規定は、公布の日から施行する。

(平成22年規則第9号で、規則で定める日を平成22年5月1日とした。)

○静岡市美術館条例施行規則

平成21年11月12日
規則第103号

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡市美術館条例(平成21年静岡市条例第50号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館者の遵守事項)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 火災、爆発その他の危険を生ずるおそれのある行為をしないこと。
- (2) 騒音又は大声を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 動物(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条第1項に規定する身体障害者補助犬を除く。)又は他人に迷惑を及ぼすおそれのある物品を持ち込まないこと。
- (4) 美術館資料、器物又は施設を汚損し、又は損傷するおそれのある行為をしないこと。
- (5) 許可を受けないで広告類を掲出し、又はまき散らす行為をしないこと。
- (6) 所定の場所以外の場所へ立ち入らないこと。
- (7) 所定の場所以外の場所で飲食をしないこと。
- (8) 喫煙をしないこと。
- (9) 許可を受けないで寄附金品の募集、物品の販売若しくは陳列又は飲食物の販売若しくは提供をしないこと。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、指定管理者が管理上支障があると認める行為をしないこと。

(指定管理者の指定の申請書類)

第3条 条例第8条の規定による申請は、静岡市美術館指定管理者指定申請書(様式第1号)に、次に掲げる書類を添えて行うものとする。

- (1) 静岡市美術館事業計画書(様式第2号)
- (2) 静岡市美術館事業計画に関する収支予算書(様式第3号)
- (3) 定款、寄附行為又はこれに準ずるものの謄本
- (4) 役員名簿
- (5) 経営(事業)状況に関する書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める書類(協定の締結)

第4条 市長は、指定管理者を指定したときは、当該指定管理者と美術館の管理に関する協定を締結するものとする。

2 前項の協定には、次に掲げる事項を掲載するものとする。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 市が支払うべき管理費用に関する事項
- (3) 管理業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項
- (4) 事業報告に関する事項
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事項(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、静岡市美術館条例附則本文に規定する規則で定める日から施行する。

様式第1号(第3条関係)

静岡市美術館指定管理者指定申請書

年 月 日

(あて先)静岡市長

所在地(法人以外の団体にあっては、その代表者の住所)

申請者 名称

代表者氏名

印

電話

静岡市美術館の指定管理者の指定を受けたいので、静岡市美術館条例第8条及び静岡市美術館条例施行規則第3条の規定により、次のとおり関係書類を添えて申請します。

様式第2号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画書

事業計画の理念・方針

実施事業の概要(事業の構成及び年間計画表)

実施体制図

特記事項(効果的に事業を行うための方策、市民サービスの向上のための施策等)

様式第3号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画に関する収支予算書

収入			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
支出			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円

8-6 施設・建築概要

所在地：静岡市葵区紺屋町17番地の1号 葵タワー3階

設置者：静岡市

構造：S造(一部RC・SRC造)

内装設計：株式会社丹青研究所

内装建築工事：株式会社木内建設

延床面積：3,393.22m²

館内施設：

(展示關係)展示室1：209.76m² 展示室2：713.03m²

展示室3：204.17m²

天井高：4.1m-4.5m

総壁面長(可動壁含む): 290m

床荷重：500kg/m²

ウォールケース：総長60m（エアータイト型壁面ガラスケース）

(収蔵関係)収蔵庫：141m² 収蔵庫前室：46m²

(管理関係)事務室・学芸員室：179m² 会議室31m²

館長室兼応接室：19m²

(交流ゾーン) エントランスホール: 612㎡ (天井高6m) 多目的
室: 180㎡ (天井高5m) ワークショップ室: 92㎡
(天井高3m)

設備：

(電気)[本体ビル]3相3線6.6KV (地中引込方式)、非常用発電設備

(給排水)[本体ビル]給水：上水、雑用水2系統 排水：汚水、雑排水分流方式

(消火)N2ガス消火設備(展示収蔵エリア)、スプリンクラー(その他エリア)、消火用散水栓、消火器、自動火災報知設備(空調)[本体ビル]ガス焚き吸収冷温水機及び排熱冷温水機(熱源)、4管方式により冷温水供給

[美術館]展示室：エアハンドリングユニット(床置きコン
パクト型)

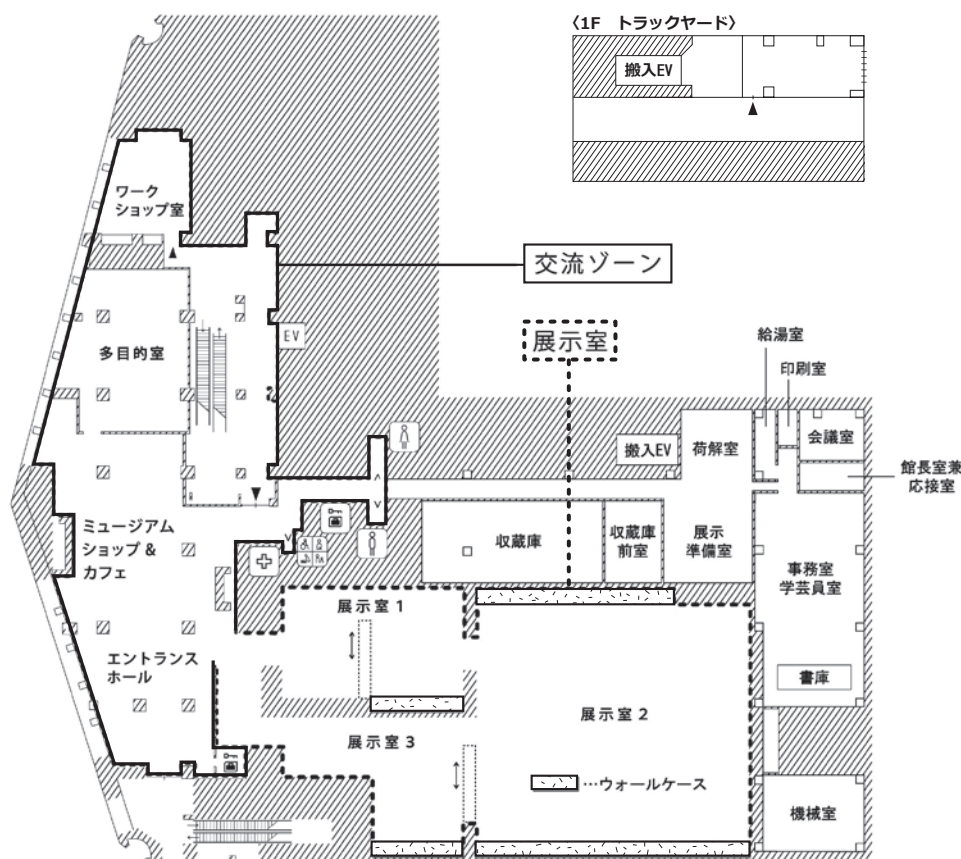
収蔵庫：空冷パッケージ(インバータ・セパレート型)エアコン

その他エリア：ファンコイルユニット

＜静岡市美術館整備費内訳(単位：円)＞

保留床購入費 (葵タワー再開発組合からの占有床購入 経費)	¥ 2,461,200,000
内装・展示工事費	¥ 859,533,150
(内訳)建築工事費	¥ 712,007,100
電気工事費	¥ 132,826,050
衛生工事費	¥ 14,700,000
整備費合計	¥ 3,378,123,924
(内訳)まちづくり交付金(国庫補助金)	¥ 1,180,000,000
市債(合併特例債)	¥ 1,571,200,000
一般財源	¥ 626,923,924

施設見取り図



平成30(2018)年度
静岡市美術館 年報 No.9
2020年3月 発行

編集・発行 静岡市美術館
〒420-0852
静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3階
TEL 054-273-1515(代)
FAX 054-273-1518

印刷 株式会社アプライズ

©Shizuoka City Museum of Art 2020

